

2017(平成29)年度

シ ラ バ ス



久留米信愛女学院短期大学

KURUME SHIN-AI JOGAKUIN COLLEGE

久留米信愛女学院短期大学の建学の精神と教育理念

建学の精神は、キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成することである。シヨファイユの幼きイエズス修道会創立者レーヌ・アンティエの言葉に、「人々が神を知り、神を愛するようになるために、私たちの全生涯を捧げましょう」、そして「マリアにおいて幼子となられた神の愛を世に示す」とあるように、創立者と幼きイエズス修道会のカリスマが本学の建学の精神の根底にある。

教育理念はこの建学の精神に基づいて、以下のように示される。カトリックの精神を基盤として、学生の全人格的な開花を目指す。学生一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図ると共に、女性としての豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する。この教育理念を具現化するため、5つの柱に従い教育する。

1. キリストの教えに根ざした教育
2. 一人ひとりを大切にする教育
3. 能力の開発を目指す教育
4. 自己形成を促す教育
5. 社会貢献への態度を形成する教育

久留米信愛女学院短期大学及び学科の教育目的・目標

建学の精神「キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成する」に基づいた本学全体及び学科の教育目的・目標は以下の通りである。

本学全体の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす」ことのできる「女性として豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する」ことである。

幼児教育学科の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達の理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」ことである。

フードデザイン学科の教育目的・目標は、「食に関するあらゆる場において、豊かな感性と総合的な技術をもった栄養士を養成する。すなわち、自分を他者に生かす喜びをもち、健康的な食事を計画・調理・提供できる基礎知識と食空間を演出できる応用力を身につけた栄養士を育成する」ことである。

はじめに

皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

シラバス(syllabus)という言葉については、既にご存知かもしれませんが、開講される科目について事前に立てられた授業の計画や内容の概略を記したもののことです。皆さんの学びのガイドブックとも言えるべき本冊子には、それぞれの科目ごとにディプロマポリシーとの関連、授業の目的、到達目標、授業の概要、各回の授業計画、試験・評価の方法、留意事項、準備学習(必要時間含む)、課題のフィードバック、テキストおよび参考書等、その科目を学んでいく上で必要なことが記載されています。授業が始まる前に、目を通しておいください。その科目の全体像が予め分かっていると、各回の授業の間につながりができ、理解しやすくなると思います。

また、前期・後期の授業開始の前には、履修ガイダンスが開催されます。卒業および免許・資格の取得などに必要な科目について、見落としがないように心がけましょう。

それから、皆さんが本学で学生生活を過ごされる上で、さまざまな約束事、決まりを1冊にまとめた“ルールブック”として「学生便覧」があります。その中に、例えば学則、履修規程、成績考査規程、各学科のカリキュラムなども掲載されています。繰り返しになりますが、卒業、免許・資格の取得、単位の修得方法、成績評価などに関する事柄は、それらの中で定められています。

これまでの学校生活に比べて、自主的に考え、自ら判断し、自らの意志と責任で行動する場面が増えてくると思います。卒業後の進路や人生プランなどを視野に入れながら、本学における2年間の学生生活を、未来へ向けての確かな足場を固める時期、“雌伏の時”としてください。

2017年4月

教務部長

履修上の留意事項

履修に際しては、各学期の授業開始前に行われる学科別の履修ガイダンスやシラバスを参考にしてください。ここでは、各学科に共通する用語・事項等について説明します。

1. 講義

教員が学生に対し、当該科目の専門的な知識・内容などについて解説する授業形式。
本学では1単位につき15時間を定めています。

2. 演習

教員の講義とともに、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態。
本学では1単位の授業時間を30時間と定めています。

3. 実験・実習・実技

本学ではいずれも1単位につき45時間の授業と定めています。

4. インターンシップ

在学中に一定期間企業等において、自分の専攻や希望する職業に関連する就業体験を積むことにより、学習効果を高める教育プログラムのことです。

5. 選択科目

卒業必修以外の科目であり、学生の意志によって履修を決定する科目のことです。
ただし、選択科目であっても、免許・資格の必修科目の場合もあるので注意してください。

6. 選択必修科目

複数の科目の内から、1ないし複数の科目の履修が義務づけられている科目のことです。

7. コマ

1授業時限(90分)を指します。

8. 授業の回数

1学期15回の授業を行います。

9. 授業の出席

成績評価の前提として、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。
遅刻、早退は3回で1回の欠席となります。

10. 履修届と履修中止願

履修届とは、授業科目を履修し、単位を修得するために提出する届のことです。
履修中止願は、履修届に記載した科目を、所定の手続きに従って学期の途中で中止する場合に提出する願のことです。

11. 成績考査

筆記試験、論文、レポート、口頭試験、実技、作品等によって行われる学業成績の評価のことで、合格した場合は、その科目の修了を認める単位が与えられます。

12. 成績評価

本学では、成績をAA(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)、F(失格・放棄)で表し、AA、A、B、Cが合格となります。

13. グレード・ポイント・アベレージ(Grade Point Average: GPAと略称)

本学では、成績のAAを4点、Aを3点、Bを2点、Cを1点、DとFを0点として、次の計算式によって平均点(GPA)を算出します。履修中止が認められた科目の単位数は、計算式の分母に含まれません。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{AAの修得単位数}) \times 4 + (\text{Aの修得単位数}) \times 3 + (\text{Bの修得単位数}) \times 2 + (\text{Cの修得単位数}) \times 1}{\text{履修総単位数(D, Fの単位数を含む)}}$$

14. 追試験と特別追試験

追試験は、試験を受けられなかった者が後日、認定されて受験する試験のことです。

特別追試験は、追試験を受けられなかった者および追試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

15. 再試験と特別再試験

再試験は、不合格になった科目について再び受験する試験のことです。

特別再試験は、再試験を受けられなかった者および再試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

16. 再履修

単位を修得できなかった科目を、次学期以降に再び履修することです。

17. 科目等履修生

本学の学生でない者で本学の授業科目を履修する者のことです。

18. オフィスアワー

学生の質問・相談などに応じるための時間として、教員があらかじめ設定している時間帯のことです。前期と後期とでは時間帯が異なる場合があります。

19. 学生便覧

学生生活に必要な学則や諸規程などを掲載している冊子のことです。

分からないとき、確かめたいときには学生便覧を開いてみてください。

20. 学則

学校の組織や教育課程、管理などについての事項を定めた規則のことです。

21. 卒業

学則に定められた全課程を履修し終えることです。

本学では、2年以上在学し、62単位以上を修得しなければなりません。

22. カリキュラムとカリキュラムマップ

カリキュラムとは開講される科目全体を示した教育課程のことであり、カリキュラムマップとは各々の科目の学習成果を示したものです。

23. 3つのポリシー

アドミッションポリシーとは入学者受け入れ方針、カリキュラムポリシーとは教育課程の編成方針、ディプロマポリシーとは学位授与の方針のことです。

24. CAP制

授業科目には単位数が定められています。単位数は科目ごとに異なり、通常の講義科目では2単位、演習科目では1単位、実験・実習・実技科目では1単位となっています。

講義科目1単位は、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、また、演習科目1単位は、大学における30時間の演習に加えて15時間予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、さらに試験等により合格の評価を受けることで与えられるものです。つまり、単位を修得するには、教室外の自己学習時間が必要とされています。これは、多数の科目を履修すると、学習時間が確保できず、単位が取得できないことを意味します。

ある科目の単位を取得するには、その科目を履修することを学期(前期ならびに後期)の始めに登録する必要があります。単位取得に必要な学習時間の確保のため、各学生が1学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定しています。これをCAP制といいます。

原則として、各期に履修登録できる総単位数の上限は、下記となっています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
30単位	25単位	25単位	20単位

ただし、下記の学外実習科目は上限を超えて履修登録できます。

両学科	英語Ⅴ(1単位)、ヨーロッパ文化(1単位)
幼児教育学科	保育実習Ⅰ(4単位)・Ⅱ(2単位)・Ⅲ(2単位)、教育実習(5単位)の計13単位
フードデザイン学科	校外給食管理実習Ⅰ(1単位)・Ⅱ(1単位)、フードインターンシップ(1単位)、医療秘書実務実習(1単位)の計4単位

また、優秀な学生に対しては、より多くの科目の履修を認めます。前学期において、GPAが3.2以上の場合、次の学期に2単位多く履修登録ができます。

25. カリキュラム編成及び科目の教育内容に学生の意見を反映させる仕組み

科目の教育内容やカリキュラムの編成に関する意見がある場合は、学期末に行われる授業評価アンケートの裏側の自由記述欄に意見を書いてください。授業内容やカリキュラム編成に関して、学科及び教務部にてその意見を検討します。

目 次

建学の精神と教育理念、教育目的・目標	1	保育の心理学	60
はじめに	2	子どもの保健Ⅰ	61
履修上の留意事項	3	子どもの保健Ⅱ	62
目次	6	子どもの保健演習	63
幼児教育学科		子どもの食と栄養Ⅰ	64
カリキュラムポリシー	11	子どもの食と栄養Ⅱ	65
ディプロマポリシー	12	家庭支援論	66
カリキュラムマップ	13	保育課程論	67
履修系統図	15	乳児保育Ⅰ	68
開講一覧表	16	乳児保育Ⅱ	69
キリスト教概論	19	障害児保育Ⅰ	70
信愛教育Ⅰ	20	障害児保育Ⅱ	71
信愛教育Ⅱ	21	社会的養護内容	72
信愛教育Ⅲ	22	保育相談支援	73
信愛教育Ⅳ	23	保育実習指導Ⅰ	74
英語Ⅰ	24	保育実習指導Ⅱ	75
英語Ⅱ	25	保育実習指導Ⅲ	76
英語Ⅲ	26	保育実習Ⅰ	77
英語Ⅳ	27	保育実習Ⅱ	78
英語Ⅴ	28	保育実習Ⅲ	79
フランス語Ⅰ	29	モンテッソーリ教育法Ⅰ	80
フランス語Ⅱ	30	モンテッソーリ教育法Ⅱ	81
生活とスポーツⅠ	31	音楽保育	82
生活とスポーツⅡ	32	チャイルドプロジェクト	83
キャリアガイダンスⅠ	33	レクリエーション概論	84
キャリアガイダンスⅡ	34	レクリエーション指導法	85
日本文学	35	在宅保育論	86
日本国憲法	36	教職基礎論	87
心理学	37	教育原理	88
ヨーロッパ文化	38	発達心理学	89
生活と環境	39	保育内容総論	90
生命と自然	40	保育内容 健康	91
ライフデザイン論	41	保育内容 人間関係	92
情報科学	42	保育内容 環境	93
音楽	43	保育内容 言葉	94
幼児音楽Ⅰ	44	保育内容 表現	95
幼児音楽Ⅱ	45	音楽表現	96
幼児音楽Ⅲ	46	造形表現	97
ピアノⅠ	47	身体表現	98
ピアノⅡ	48	保育指導法Ⅰ	99
ピアノ演奏法	49	保育指導法Ⅱ	100
器楽合奏	50	保育方法・技術	101
基礎造形Ⅰ	51	幼児理解	102
基礎造形Ⅱ	52	保育・教職実践演習(幼稚園)	103
体育	53	教育実習	104
言語表現	54		
保育原理	55		
児童家庭福祉	56		
社会福祉論	57		
相談援助	58		
社会的養護	59		

幼兒教育学科

幼児教育学科の皆さんへ

幼児教育学科の教育目的・目標は「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達の理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」です。

この教育目的・目標をかなえるため、次項のカリキュラムマップにそったカリキュラムを用意しています。

また、皆さんの興味・関心に合わせて学びを深めるために、以下の4つのプログラムを開講しています。

○モンテッソーリ教育プログラム

専用の演習室において、モンテッソーリの理論と独自の教具を使った実践を行い、モンテッソーリ教育の基本を学びます。

○音楽教育プログラム

音楽に関するより専門的で高度な技術を習得し、音楽面に秀でた保育者を目指します。

○レクリエーション・インストラクタープログラム

レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指した学びの中で、仲間づくりや人々のふれあい活動を支援する力を養います。

○子育て支援プログラム

認定ベビーシッターの資格取得を目指した学びの中で、子育て支援に関するより深い知識と技術を見につけます。

さらにプラスαの学びで、おもちゃインストラクター、幼児体育指導者検定2級、折紙講師などの資格がカリキュラム外で取得できます。

どの科目を履修すれば良いか、しっかりと考えて選択することはとても大切です。単に免許、資格を取得するために履修科目を決定するのではなく、将来、保育者として地域社会に貢献するために「今、何を学ぶべきか」を考え、また、子どもたちの成長に深く関与するためには「どんな能力を伸ばし、どのような適性を身に付けなければならないか」を考えて履修科目を選択しましょう。

今、保育者には単に保育技術だけでなく、家族に対する支援や地域社会との連携など様々なことが求められています。そのためにも、積極的に学ぶことは将来の大きな糧となります。これからの2年間で皆さんが大きく成長されることを期待しています。

幼児教育学科長

カリキュラムポリシー

教育目的・目標に基づいた幼児教育学科のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)は以下の通りです。

幼児教育学科は、ディプロマポリシーに掲げた目標を達成するため、以下の教育内容と方法を実施する。

1. 教育内容

- ① 全学科共通の「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「キリスト教概論」を履修し、キリスト教に基づく価値観を土台に人格形成の基本を養う。
- ② 基礎教育科目群の履修を通して、現代社会に生きる女性としての教養を身につけるとともに、「キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」で自らのキャリアを考え、社会人としての基礎を築く。
- ③ 「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」、「障害児保育Ⅰ・Ⅱ」、「発達心理学」と保育内容科目群の履修を通して子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深めて、一人ひとりの子どもの発達についての対応を学ぶ。
- ④ 子どもの保健や食と栄養に関する科目群の履修を通して子どもの発達に合わせた支援の方法を学ぶ。また、「保育課程論」「保育指導法Ⅰ・Ⅱ」「保育方法・技術」「モンテッソーリ教育法Ⅰ・Ⅱ」を通して子どもの発達に合わせた保育の考え方や方法を学ぶ。
- ⑤ 言語・音楽・身体・造形表現に関する科目群を通して保育者に求められる表現の技術の習得を図る。
- ⑥ 保育実習・教育実習の事前に実習の計画・準備、実習後に振り返りを行い、その中で保育者になるための自己研鑽を行う。また「保育・教職実践演習(幼稚園)」のなかで実習を含む今までの学習を振り返り、自己の不足している点を明らかにし、それを補う学びを行い自己の研鑽力を高めて行く。
- ⑦ 「保育原理」「教育原理」「教職基礎論」の履修を通して日本の保育制度や基本的考え方などについて学ぶとともに、目指すべき保育者像を明らかにしてゆく。また社会福祉関係の科目群の履修を通して社会福祉の制度等の基本的な知識、現代社会における福祉の考え方などを学ぶとともに、実際の相談支援の方法等についての知識の習得を図る。そして教育実習・保育実習を通して保育の実際を学び、その中で子どもを取り巻く環境や保育者の使命についての理解を深める。
- ⑧ 「チャイルドプロジェクト」や選択科目群を自分の興味・関心に合わせて履修し、自らの研究課題設定やグループワークを通して学びの中で創意工夫する力を養う。

2. 教育方法

- ① 学修に対する自己評価、履修カルテの活用などを通して学びのフィードバックを行い、教育目的・目標に基づいたカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの整合性を図る。
- ② 専門教育科目では模擬保育などのロールプレイの手法を取り入れ、学生が実践力を高めることを図る。
- ③ ピアノなど個別の能力差のある分野については、個別指導を行い個々の能力に合わせた指導を実施する。
- ④ 主体的な学びの力を高めるために「チャイルドプロジェクト」や選択科目群の中でアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。

ディプロマポリシー

教育目的・目標に基づいた本学及び幼児教育学科のディプロマポリシー(学位授与の方針)は以下の通りです。

卒業までに身につけることとして、以下に掲げることが求められる。その所定の単位を修めた学生には卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。

全学共通カリキュラムの「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、キリスト教に基づく豊かな人格形成の基本を養うとともに、専門領域の学習の土台を培う。

所属学科における理論的・実践的授業を履修し、地域社会に専門的職業を通して貢献できる総合能力である以下の8項目を身につける。

幼児教育学科は、

1. キリスト教に基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる。
2. 現代社会に生きる女性に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる。
3. 子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる。
4. 子どもの発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる。
5. 保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる。
6. 保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる。
7. 子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる。
8. 創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる。

幼児教育学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー8つの項目によるカリキュラムマップ

ポイント ◎:2ポイント ○:1ポイント

領域・分野	授業科目	ディプロマポリシー							
		1	2	3	4	5	6	7	8
基礎教育科目	キリスト教概論	◎	○						
	信愛教育Ⅰ	◎	○						
	信愛教育Ⅱ	◎	○						
	信愛教育Ⅲ	◎	○						
	信愛教育Ⅳ	◎	○						
	英語Ⅰ		◎						
	英語Ⅱ		◎						
	英語Ⅲ		◎						
	英語Ⅳ		◎						
	英語Ⅴ		◎						
	フランス語Ⅰ		◎						
	フランス語Ⅱ		◎						
	生活とスポーツⅠ		◎		○				
	生活とスポーツⅡ		◎	○	○				
	キャリアガイダンスⅠ		◎					○	
	キャリアガイダンスⅡ		◎					○	
	日本文学		◎						
	日本国憲法		◎					○	
	心理学		◎	○	○				
	ヨーロッパ文化	○	◎						
	生活と環境		◎						
	生命と自然		◎				○	○	
	ライフデザイン論		◎						
専門教育科目	情報科学					◎			○
	声楽					◎			
	幼児音楽Ⅰ					◎	○		
	幼児音楽Ⅱ					◎	○		
	幼児音楽Ⅲ					◎			○
	ピアノⅠ					◎	○		
	ピアノⅡ					◎	○		
	ピアノ演奏法					◎	○	○	
	器楽合奏				○	◎			
	基礎造形Ⅰ					◎			○
	基礎造形Ⅱ					◎			○
	体育				◎		○		○
	言語表現					◎			○
	保育原理		○				○	◎	
	児童家庭福祉		○	○			○	◎	
	社会福祉論		○				○	◎	
	相談援助			○	○		○	◎	
	社会的養護			○				◎	
	保育の心理学			○	◎			○	
	子どもの保健Ⅰ			○	◎				
	子どもの保健Ⅱ			○	◎				
	子どもの保健演習			○	◎				
	子どもの食と栄養Ⅰ			○	◎			○	
	子どもの食と栄養Ⅱ			○	◎			○	
	家庭支援論						○	◎	
	保育課程論				◎		○		○
	乳児保育Ⅰ			◎	○			○	
	乳児保育Ⅱ			◎	○			○	

教 職 に 関 す る 科 目	障害児保育Ⅰ			◎	○				
	障害児保育Ⅱ			◎	○				
	社会的養護内容			○	○		○	◎	
	保育相談支援			○	○			◎	○
	保育実習指導Ⅰ						◎	○	○
	保育実習指導Ⅱ			○	○	○	◎		
	保育実習指導Ⅲ			○	○		◎	○	
	保育実習Ⅰ						○	◎	○
	保育実習Ⅱ						○	◎	
	保育実習Ⅲ			○	○		○	◎	
	モンテッソーリ教育法Ⅰ				◎				○
	モンテッソーリ教育法Ⅱ				◎				○
	音楽保育					○			◎
	チャイルドプロジェクト						○		◎
	レクリエーション概論								◎
	レクリエーション指導法				○	○	○		◎
	在宅保育論				○			◎	○
	教職基礎論							◎	
	教育原理		○				○	◎	
	発達心理学			◎	○			○	
	保育内容総論			◎	○				
	保育内容 健康			◎	○				
	保育内容 人間関係			◎	○				
	保育内容 環境			◎	○			○	
	保育内容 言葉			◎	○				
	保育内容 表現			◎	○	○		○	
	音楽表現					◎	○		○
	造形表現					◎			○
	身体表現				◎	○			○
	保育指導法Ⅰ			○	◎		○	○	○
	保育指導法Ⅱ			○	◎		○	○	○
	保育方法・技術				◎		○		○
	幼児理解			○				◎	
	保育・教職実践演習(幼稚園)						◎	○	○
	教育実習			○	○			◎	
ポイント合計		11	45	42	52	33	32	50	27
ポイント割合(%)		3.8	15.4	14.4	17.8	11.3	11.0	17.1	9.2

ディプロマポリシー	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考
キリスト教に基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる	信愛教育Ⅰ	キリスト教概論 信愛教育Ⅱ	信愛教育Ⅲ	信愛教育Ⅳ	
現代社会に生きる女性に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる	英語Ⅰ フランス語Ⅰ 生活とスポーツⅠ キャリアガイダンスⅠ 日本文学 心理学 生活と環境 生命と自然 日本国憲法 ライフデザイン論	英語Ⅱ フランス語Ⅱ 生活とスポーツⅡ キャリアガイダンスⅡ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ ヨーロッパ文化
子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる	保育内容総論 ↓ 保育内容 人間関係 ↓ 保育内容 環境	乳児保育Ⅰ 障害児保育Ⅰ 発達心理学 保育内容 言葉 保育内容 表現 保育内容 健康	乳児保育Ⅱ 障害児保育Ⅱ		
子どもの発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる	子どもの保健Ⅰ	保育方法・技術 保育課程論 子どもの保健Ⅱ	保育の心理学 保育指導法Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの保健演習 体育 モンテッソーリ教育法Ⅰ	保育指導法Ⅱ 子どもの食と栄養Ⅱ 身体表現 モンテッソーリ教育法Ⅱ	
保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる	情報科学 言語表現 音楽 ピアノⅠ 基礎造形Ⅰ	幼児音楽Ⅰ ピアノⅡ 基礎造形Ⅱ	音楽表現 器楽合奏 幼児音楽Ⅱ ピアノ演奏法 造形表現	幼児音楽Ⅲ	
保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる		保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	保育・教職実践演習(幼稚園)	
子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる	保育原理 教育原理 社会福祉論 社会的養護 幼児理解	教職基礎論 児童家庭福祉	社会的養護内容	相談援助 保育相談支援 家庭支援論 在宅保育論	
創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる		教育実習 保育実習Ⅰ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	音楽保育 レクリエーション概論 レクリエーション指導法 チャイルドプロジェクト	

開講一覧表

(履修届控)

クラス		番号		氏名		印
-----	--	----	--	----	--	---

平成29年度入学 幼児教育学科			単 位								履修届(単位)				修得単位				修得単位 合 計	マ ー ク シ ー ト
			学 則	開 講	卒 業 必 修	教 職 必 修	保 育 必 修	レ ク 必 修	ベ ビ 必 修	1 年		2 年		1 年		2 年				
										前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
基 礎 教 育 科 目	キリスト教概論	講	2	2	2					2									1	
	信 愛 教 育 I	演	1	1	1							1							2	
	信 愛 教 育 II	演	1	1	1								1						3	
	信 愛 教 育 III	演	1	1	1					1									4	
	信 愛 教 育 IV	演	1	1	1						1								5	
	英 語 I	演	1	1		*1				1									6	
	英 語 II	演	1	1				1											7	
	英 語 III	演	1	1					1										8	
	英 語 IV	演	1	1	2							1							9	
	英 語 V	演	1	1					1										10	
	フランス語 I	演	1	1		*2			1										11	
	フランス語 II	演	1	1					1										12	
	生活とスポーツ I	演	1	1	1	1	10		10	1									13	
	生活とスポーツ II	演	1	1	1	1					1								14	
	キャリアガイダンス I	演	1	1						1									15	
	キャリアガイダンス II	演	1	1								1							16	
	日 本 文 学	講	2	2						2									17	
	日 本 国 憲 法	講	2	2		2				2									18	
	心 理 学	講	2	2	2					2									19	
	ヨーロッパ文化	演	1	1						1									20	
	生 活 と 環 境	講	2	2						2									21	
	生 命 と 自 然	講	2	2						2									22	
	ライフデザイン論	講	2	2						2									23	
小 計			30	30	12		6	10	0	10	18	4	2	2						
専 門 教 育 科 目	情 報 科 学	講	2	2			2				2							24		
	声 楽	演	1	1	1		○		○	1								25		
	幼 児 音 楽 I	演	1	1	1		□	○	○		1							26		
	幼 児 音 楽 II	演	1	1	1			○	○			1						27		
	幼 児 音 楽 III	演	1	1	1			○	○				1					28		
	ピ ア ノ I	演	1	1	1		□			1		(I)						29		
	ピ ア ノ II	演	1	1	1						1		(I)					30		
	ピ ア ノ 演 奏 法	演	1	1				○	○			1						31		
	器 楽 合 奏	演	1	1	1							1						32		
	基 礎 造 形 I	演	1	1	1		1	○		○	1							33		
	基 礎 造 形 II	演	1	1	1			○		○		1						34		
	体 育	演	1	1	1		1	○		○			1					35		
	言 語 表 現	演	1	1			1	1		1	1							36		
	保 育 原 理	講	2	2	2			2		2	2							37		
	児 童 家 庭 福 祉	講	2	2	2			2		2		2						38		
	社 会 福 祉 論	講	2	2				2		2	2							39		

1 年前期				1 年後期				2 年前期				2 年後期						
本人印		受付印		本人印		受付印		本人印		受付印		本人印		受付印				
区分	科 目	単 位						履修届(単位)				修得単位				修得単位 合計	マ ー ク シ ー ト	
		学 則	開 講	卒業 必修	教職 必修	保育 必修	レク 必修	ベレ 必修	1 年		2 年		1 年		2 年			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
専 門 教 育 科 目	相 談 援 助 演	1	1			1		1				1					40	
	社 会 的 養 護 講	2	2			2		2	2								41	
	保 育 の 心 理 学 演	1	1	1		1		1		1							42	
	子 ど も の 保 健 I 講	2	2	2		2		2	2								43	
	子 ど も の 保 健 II 講	2	2	2		2		2	2								44	
	子 ど も の 保 健 演 習 演	1	1			1		1		1							45	
	子 ど も の 食 と 栄 養 I 演	1	1			1		1		1							46	
	子 ど も の 食 と 栄 養 II 演	1	1			1		1			1						47	
	家 庭 支 援 論 講	2	2			2		2			2						48	
	保 育 課 程 論 講	2	2			2		2	2								49	
	乳 児 保 育 I 演	1	1	1		1		1	1								50	
	乳 児 保 育 II 演	1	1			1		1		1							51	
	障 害 児 保 育 I 演	1	1			1		1	1								52	
	障 害 児 保 育 II 演	1	1			1		1		1							53	
	社 会 的 養 護 内 容 演	1	1			1		1		1							54	
	保 育 相 談 支 援 演	1	1			1		1			1						55	
	保 育 実 習 指 導 I 演	2	2			2		2	2								56	
	保 育 実 習 指 導 II 演	1	1					1			1						57	
	保 育 実 習 指 導 III 演	1	1			1		1				1					58	
	保 育 実 習 I 実	4	4			4	▲	4	4								59	
	保 育 実 習 II 実	2	2					2	2								60	
	保 育 実 習 III 実	2	2					2	2								61	
	モンテッソーリ教育法 I 演	1	1			○		○			1						62	
	モンテッソーリ教育法 II 演	1	1			○		○				1					63	
	音 楽 保 育 演	1	1			○		○				1					64	
	チャイルドプロジェクト 演	2	2	2		○		○			2						65	
	レクリエーション概論 講	2	2				2				2						66	
	レクリエーション指導法 演	1	1				1					1					67	
	在 宅 保 育 論 講	2	2					2				2					68	

クラス		番号		氏名		印
-----	--	----	--	----	--	---

区分		科 目	単 位								履修届(単位)				修得単位				修得単位 合計	マ ー ク シ ー ト	
			学 則	開 講	卒 業 必 修	教 職 必 修	保 育 必 修	レ ク 必 修	ベ ジ 必 修	1 年		2 年		1 年		2 年					
										前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
専 門 教 育 科 目	教 職 に 関 す る 科 目	教 職 基 礎 論	講	2	2			2	2		2		2							69	
		教 育 原 理	講	2	2			2	2		2									70	
		発 達 心 理 学	講	2	2			2	2		2									71	
		保 育 内 容 総 論	演	1	1			1	1		1									72	
		保育内容 健 康	演	1	1			1	1		1									73	
		保育内容 人間関係	演	1	1			1	1		1									74	
		保育内容 環 境	演	1	1			1	1		1									75	
		保育内容 言 葉	演	1	1			1	1		1									76	
		保育内容 表 現	演	1	1			1	1		1									77	
		音 楽 表 現	演	1	1			1	1	△	1			1						78	
		造 形 表 現	演	1	1			1	1	△	1			1						79	
		身 体 表 現	演	1	1			1	1	△	1				1					80	
		保 育 指 導 法Ⅰ	演	1	1			1	○		○			1						81	
		保 育 指 導 法Ⅱ	演	1	1			1	○		○				1					82	
		保 育 方 法・技 術	演	1	1			1	○		○		1							83	
		幼 児 理 解	講	2	2			2	○		○	2								84	
		保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2	2			2	2		2				2					85	
		教 育 実 習	実	5	5			5		▲		5									86
		小 計			90	90	22	28	33	60	9	62	21	19	16	16					
合 計			120	120	34	28	39	70	9	72	39	23	18	18							

※ *1または*2のいずれか2単位、□印科目の中から1単位以上
○印科目の中から6単位以上
△印科目の中から1単位以上、▲印科目の中から4単位以上

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
キリスト教概論		1 年前期		講義		2		卒業必修 資格選択必修		山下 敦	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
		◎	○								
授業の目的		「創世記」より、神の似姿として創造された人間本来の姿を学び、原罪を犯し、その結果、弱さを背負い、闇の中で生き続ける人間の現実について知る。また、「新約聖書」をとおして、その弱い人間を救いに来られたイエスの教えを学ぶ。愛とゆるしに貫かれたイエスの教えをもとに、キリスト教的価値観について学びながら、生きることの意味や、人間本来の在り方、真の幸せについて深く考察する。									
到達目標		1. キリスト教的人間像に基づく、人本来の在り方を知る。 2. 愛とゆるしの重要性の認識を深め、学んだことを日常生活に活かせるようになる。 3. 人生において、特に重大な決断や判断の際、その基準となる価値観を身に着ける。									
授業の概要		講義のテーマに即した聖書の箇所を精読し、説明する。各自に向けられている聖書からのメッセージを読み取る。随時カトリック教会の教えも参照し、理解の助けとして視聴覚教材を用いることもありえる。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1 授業内容と授業のねらい 2 「聖書」という書物についての概観			9	イエスの宣教生活と教え③						
2	「創世記」の世界① ～キリスト教的人間論～			10	小テスト(3) 「イエスの宣教生活と教え①～③」のまとめ、補足及び質疑応答 イエスの宣教生活と教え④						
3	「創世記」の世界② ～キリスト教的人間論～			11	イエスの宣教生活と教え⑤						
4	「創世記」の世界③ ～キリスト教的人間論～			12	イエスの宣教生活と教え⑥						
5	小テスト(1) 「創世記」の人間論のまとめ、補足及び質疑応答 イエスの生涯①			13	小テスト(4) 「イエスの宣教生活と教え④～⑥」のまとめ、補足及び質疑応答 イエスの受難と復活①						
6	イエスの生涯②			14	イエスの受難と復活②						
7	小テスト(2) イエスの生涯のまとめ、補足及び質疑応答 イエスの宣教生活と教え①			15	全体のまとめ						
8	イエスの宣教生活と教え②										
試験・評価		4回の小テストとまとめのレポート80%、受講態度20%で評価する。									
留意事項		講義の進行状況によって、順番が入れ替わったり内容が少し変わったりすることもある。									
準備学習 (予習・復習等)		次の講義の聖書の箇所を、事前に読んでおく。意味のわからないことばを書き留めるなどして準備する。								必要時間：3時間	
課題の フィードバック		小テストの解答・解説は、次回の授業で行う。									
テキスト		「新約聖書」新共同訳 日本聖書協会									
参考書等		「信愛教育ガイドブック」 久留米信愛女学院短期大学、「カトリックの信仰生活がわかる本」(女子パウロ会)									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
信愛教育Ⅰ		2年前期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
		◎	○								
授業の目的		「キリストの教えに基づいた真の価値観を持ち、女性として豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅰでは＜愛と奉仕＞をテーマとして、ボランティア活動を体験し、愛と奉仕の精神を身につける。									
到達目標		1. ＜ボランティア＞についての理解が深まる。 2. ボランティア活動の体験を通して、自己を他者に生かすことのすばらしさを味わう。 3. 愛と奉仕の精神が身につく。									
授業の概要		全学礼拝をもって授業を始める。＜愛と奉仕＞をテーマとし、学長講話、外部講師の講演等を通して「自己を他者に生かすこと」「愛と奉仕」「ボランティア活動を行うための心構え」を学び、小グループ毎でボランティア活動への準備を行い、実践のための計画を立て、ボランティア活動を実践する。									
授業計画											
1	全学礼拝(パイプ・オルガン演奏・聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 30年度の年度目標についての説明 2. 「愛と奉仕」を具体化するためのクラス目標を立てる			9	朝の祈り（小グループ活動） 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同 分かち合い						
2	朝の祈り 学友会活動 教職員紹介・クラブ紹介			10	全学礼拝 学友会定期総会 学友会活動内容とその活性化						
3	全学礼拝 聖母祭聖歌練習			11	全学礼拝 講演:「ボランティアについて」（外部講師）						
4	聖母祭（神の母聖マリアを讃える宗教行事） ①講話：聖母マリアについて ②みことばの祭儀			12	朝の祈り（小グループ活動） ＜ボランティア活動＞実践の準備 実践日時、場所を決める。						
5	朝の祈り 学長講話 「自己を他者に生かす」			13	全学礼拝 「愛と奉仕」…愛に生きる (ビデオ鑑賞)						
6	チャペル礼拝（学年・学科別） チャペルにて静かな祈りの一時を体験する。			14	朝の祈り（小グループ活動） ＜ボランティア活動＞実践						
7	朝の祈り（学科・学年・クラス別） (2年次)…働く女性になるために… (1年次)…女性としての礼儀マナー……			15	朝の祈り（小グループ活動） ＜ボランティア活動＞実践の反省と感想						
8	朝の祈り 「安全について」（講演とビデオ鑑賞）										
試験・評価		受講態度20%、ノート35%、レポート45%で総合評価する。									
留意事項		積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。									
準備学習 (予習・復習等)		ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。								必要時間：45分	
課題の フィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。									
テキスト		「新約聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布									
参考書等		カトリック聖歌集、典礼聖歌集									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
信愛教育Ⅱ		2年後期	演習		1	卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
		◎	○						
授業の目的		「キリストの教えに基づいた真の価値観を持ち、女性として豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅱでは、人間の尊厳のために、自己を他者に生かす隣人愛への実践の必要性を再認識する。							
到達目標		1. 人間は等しく尊い存在であることを理解するようになる。 2. 人間は神の似姿であることを知るようになる。 3. 人間の尊厳のために隣人愛が不可欠であることの理解が深まる。							
授業の概要		全学礼拝によって授業を始める。＜人間一人ひとりの存在の尊さ＞をテーマとし、学長講話、外部講師の講演やビデオ鑑賞等を通して、「人間は等しく尊い存在」「人間は神の似姿である」ことについて学ぶ。10月の練成会は＜人間の尊厳＞について祈り熟考する時をもつ。12月にはクリスマス祭が行われる。							
授業計画									
1	全学礼拝(パイプ・オルガン演奏・聖歌・祈り・聖書朗読) 学長講話 「人間は等しく尊い存在」			9	追悼祭（亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る） ①講話 死について ②みことばの祭儀				
2	朝の祈り（クラス別活動）（ビデオ鑑賞） M・コルベ神父の生き方から「人間一人ひとりかけがえない存在の尊さ」を学ぶ。			10	全学礼拝 学友会定期総会 学友会新総務委員長の選出				
3	朝の祈り（クラス別活動） 担任・副担任の講話 「一人ひとりを大切にするとはい」			11	全学礼拝 クリスマス・ミサのための聖歌練習				
4	一日練成会(3コマ)： テーマ ＜人間の尊厳＞ ＜午前＞ 指導司祭による講話（1）・ 休憩			12	全学朝礼 学友会 クリスマスお楽しみ会 クラス目標の振り返り				
5	指導司祭による講話（2） 小グループ分かち合い			13	クリスマス祭 ①講話： クリスマスについて ②クリスマス・ミサ				
6	＜午後＞ 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評 みことばの祭儀			14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」				
7	全学礼拝 学友会活動（信愛祭に向けて） リーダーシップ・責任感・協調性を培う。			15	朝の祈り(小グループ活動) 「人間の尊厳」についての講話・講演等をふまえて、各グループで討議し、各自でまとめる。				
8	全学礼拝 追悼祭の聖歌練習								
試験・評価		受講態度20%、ノート35%、レポート45%で総合評価する。							
留意事項		積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。							
準備学習 (予習・復習等)		ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。							必要時間:45分
課題の フィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。							
テキスト		「新約聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布							
参考書等		カトリック聖歌集、典礼聖歌集							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
信愛教育Ⅲ		1年前期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
		◎	○								
授業の目的		「キリストの教えに基づいた真の価値観を持ち、女性として豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅲでは、＜女性と生命＞をテーマとして、キリスト教の教えに基づいた＜生命＞について理解する。									
到達目標		1. 女性と生命の深い関係が理解できるようになる。 2. 生命そのものの尊さを大切にできるようになる。 3. 女性の尊厳と使命を自覚できるようになる。									
授業の概要		全学礼拝をもって授業を始める。＜女性と生命＞をテーマとし、学長講話、外部講師による講演、ビデオ鑑賞、小グループでの分かち合い等を通して、「女性の使命と尊厳」「子どもの虐待」「飢餓や貧困に苦しむ海外の子供たち」等について学び、宗教行事として「聖母祭」を行い、先輩と後輩の交流も行なわれる。									
授業計画											
1	全学礼拝(パイプ・オルガン演奏・聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 29年度の年度目標についての説明 2. 年度目標を具体化するためのクラス目標を立てる			9	朝の祈り(クラス別活動) 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同 小グループ分かち合い						
2	朝の祈り 学友会活動・・・教職員紹介、クラブ紹介			10	全学礼拝 学友会定期総会 学友会活動内容とその活性化						
3	全学礼拝 聖母祭の聖歌練習			11	全学礼拝 講演:「貧困や飢餓に苦しむ海外の子供たち」 (外部講師)						
4	聖母祭 (神の母聖マリアを讃える宗教行事) ①講話:聖マリアと女性像 ②みことばの祭儀			12	朝の祈り (小グループ活動) 「私たちにできること」 講演を土台として、話し合う。						
5	全学礼拝 学長講話 「現代に求められる女性像」			13	朝の祈り 「安全について」 (講演とビデオ鑑賞)						
6	チャペル礼拝 (学年・学科別) チャペルにて静かな祈りの一時を体験する。			14	全学礼拝 学友会活動 学生生活活性化のために						
7	朝の祈り (学年・学科・クラス別活動) (2年次)・・・働く女性になるために・・・ (1年次)・・・女性としての礼儀マナー・・・			15	朝の祈り (小グループ活動) 「女性の使命」についての講話・講演をふまえて各グループで討議し、各自でまとめる。						
8	朝の祈り (クラス別活動) 「子どもの虐待」について考える。 (ビデオ鑑賞)										
試験・評価		受講態度20%、ノート35%、レポート45%で総合評価する。									
留意事項		積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。									
準備学習 (予習・復習等)		ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。									
テキスト		「新約聖書」新共同訳 日本聖書協会、プリント配布									
参考書等		カトリック聖歌集、典礼聖歌集									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
信愛教育Ⅳ		1年後期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		宗教部長・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
		◎	○								
授業の目的		「キリストの教えに基づいた真の価値観を持ち、女性として豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって建学の精神を浸透させること、特に信愛教育Ⅳでは＜世界の平和＞をテーマとし本当の意味での＜平和＞について学び、実践することを目的とする。									
到達目標		1. キリスト教と平和の関係がわかるようになる。 2. 愛と正義が平和の支えであることを悟るようになる。 3. 平和のために、自己を他者に生かす生き方を実践するようになる。									
授業の概要		全学礼拝をもって授業を始める。＜世界の平和＞をテーマとし、学長講話、担任・副担任講話、練成会、クリスマス祭等を通して、「平和への努力」、「コミュニケーションの大切さ」等を学ぶ。10月には「平和」について考え、祈る1日練成会、11月には亡くなられた方々のための追悼祭、12月には「クリスマス祭」が行われる。									
授業計画											
1	全学礼拝(パイプ・オルガン演奏・聖歌・祈り・聖書朗読) 練成会の聖歌練習			9	追悼祭（亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る） ①講話 死について ②みこことはの祭儀						
2	朝の祈り ＜平和について＞ ノーベル平和賞受賞者マザー・テレサのビデオ鑑賞			10	全学礼拝 学長講話 「平和への努力」						
3	朝の祈り 担任・副担任の講話 「コミュニケーションの大切さ」について			11	全学礼拝 学友会定期総会 学友会新総務委員長の選出						
4	一日練成会(3コマ)： テーマ ＜平和＞ ＜午前＞ 指導司祭による講話(1) ・休憩			12	全学礼拝 クリスマス・ミサのための聖歌練習						
5	指導司祭による講話(2) 小グループ分かち合い			13	クリスマス祭 ①講話：クリスマスについて ②クリスマス・ミサ						
6	＜午後＞ 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評 みこことばの祭儀			14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」						
7	全学礼拝 学友会活動（信愛祭に向けて） リーダーシップ・責任感・協調性を培う。			15	朝の祈り（小グループ活動） 「平和」についての講話・講演をふまえて、各グループで 討議し、各自でまとめる。						
8	全学礼拝 追悼祭の聖歌練習										
試験・評価		受講態度20%、ノート35%、レポート45%で総合評価する。									
留意事項		積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。									
準備学習 (予習・復習等)		ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。								必要時間：45分	
課題の フィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。									
テキスト		「新約聖書」 新共同訳 日本聖書協会、プリント配布									
参考書等		カトリック聖歌集、典礼聖歌集									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
英語Ⅰ		1年前期		演習		1		卒業選択必修 免許・資格選択必修		阿久根 政子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		高校までに学んできた英語を基礎として、保育の現場で役立つ英語を学び、日常生活で使用する身近な語彙、行事の時の簡単な招待状の書き方、保護者との簡単な電話連絡等保育の現場で欠かせない日常生活の事柄を英語で表現できるような英語力を身につける。									
到達目標		1. はじめて会う保護者と英語で簡単な挨拶を交わすことができるようになる。 2. 遊び道具の名前や遊び方を英語で表現できるようになる。 3. 英語の歌を歌いながらゲームができるようになる。									
授業の概要		テキスト「新・保育の英語」を用い、本文では園生活のさまざまな場面にに応じて出てくる語句や口語表現を学習する。各章のテーマに関係ある語句の発音練習、Listening の練習、先生と子供たちや保護者との対話を英作文をかねた会話練習を行う。必要に応じて英語の絵本、英語の歌、ディズニーのビデオ鑑賞も行う。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1. 授業の進め方 2. 試験と評価の仕方 3. 高校までの英語状況アンケート調査			9	L.4 In the Sandbox (1) 1. 外あそび・遊具 2. <p> との発音練習。						
2	L.1 The School Year begins (1) 1. 新学期・園の人々・園舎 2. (hear＋目的語＋～ing)の表現 (英語絵本)			10	L.4 In the Sandbox (2) 3. 花の名前を覚える。 4. 遊びの時に用いる表現 (play tag, your turn)						
3	L.1 The School Year begins (2) 3. 初めて会う保護者との挨拶 4. 園舎の説明			11	L.5 In the Playground (1) 1. 園庭 2. pick up の異なった意味						
4	L.2 Arrival (1) 1. 登園・家族 2. 家族関係の名称 3. I wish we had～ let us know in advance (表現)			12	L.5 In the Playground (2) . 3. Ring-around-a Rousie の歌とゲーム 4. Let's sing together						
5	L.2 Arrival (2) 4. <th>の発音練習 5. 指人形作り 6. Let's sing together. <Finger Family>.			13	L.6 Lunchtime (1) 1. 昼食・献立表 2. お手伝いの表現 (help + 人+<動詞の原形>))						
6	L.3 Playtime in the Classroom (1) 1. 室内あそび・欠席の連絡 2. <bowl, sew>,と<dot , cough>,の発音練習。			14	L.6 Lunchtime (2) 3. 昼食時に準備する物の名前、食べ物 4. お弁当に関する保護者との簡単な会話。						
7	L.3 Playtime in the Classroom (2) 3. 遊び道具や遊びの表現 <第1回小テスト (L.1～ L.2) >			15	L.3～6 までの総復習。 <第2回小テスト (L.3～L.6)>						
8	<Beauty and the Beast> ビデオ鑑賞 英語を聞き取り、dictation を行う。										
試験・評価		小テスト70%、授業参加態度20%、提出物10%で総合評価する。									
留意事項		テキスト・ノート・プリント・辞書は各自、毎時間持ってくること。									
準備学習 (予習・復習等)		配付された復習ノート(プリント)で復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、復習や予習で解からなかった点を質問し、解決すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出物にはコメントを添え、小テストは採点して、次週の授業で返却、総評する。									
テキスト		「English for Nursery Schools and Kindergartens(新・保育の英語)」 森田和子著 三修社									
参考書等		「Childcare English (保育の英会話)」 赤松直子・久富陽子著 萌文書林									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
英語Ⅱ		1年後期		演習		1		卒業選択必修 免許・資格選択必修		阿久根 政子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		高校までに学んできた英語を基礎として、保育の現場で役立つ英語を学び、日常生活で使用する身近な語彙、行事の時の簡単な招待状の書き方、保護者との簡単な電話連絡等保育の現場で欠かせない日常生活の事柄を英語で表現できるような英語力を身につける									
到達目標		1. 衣類・持ち物の名前と数え方が英語で表現できるようになる。 2. 動物・昆虫の名前や子どもの感情や様子を英語で答えられるようになる。 3. 保護者に電話連絡や、行事の案内状が書けるようになる。									
授業の概要		テキスト「新・保育の英語」を用い、本文では園生活のさまざまな場面に応じて出てくる語句や口語表現を学習する。各章のテーマに関係ある語句の発音練習、Listening の練習、先生と子供たちや保護者との対話を英作文をかねた会話練習を行う。必要に応じて英語の絵本、英語の歌、ディズニーのビデオ鑑賞も行う。									
授業計画											
1	L.7 Changing Clothes and Story Time 1) 1. 着替え・おはなしの時間 2. “The North Wind and the Sun” (北風と太陽)の話			9	＜Aladdin＞ ビデオ鑑賞 英語を聞き取り、dictation を行う。						
2	L.7 Changing Clothes and Story Time (2) 3. 衣類・持ち物(1)・・・下着類 4. 持ち物の数え方・・・a pair of～			10	L.11 Preparation for Sports Day (1) 1. 運動会の案内状を書く 2. 遠足の案内状を書く。						
3	L.8 Nap Time (1) 1. トイレに関する表現・お昼寝 2. 衣類・持ち物(2)・・・制服・スモッグ・靴・通園カバン			11	L.12 The Sports Day (1) 1. 動会の競技の名前						
4	L.8 Nap Time (2) 3. トイレ・・・園児と先生の会話			12	L.12 The Sports Day (2) 2. 競技の時に用いる言葉・動作						
5	L.9. Blowing Bubbles (1) 1. シャボン玉・身体の名称 2. 歩行 (ハイハイ・つかまり立ち・おんぶ)			13	L.13 Going for a Walk (1) 1. 散歩・地図・お店 2. 慣用表現・・・ Please give her our best regards.等						
6	L.9 Blowing Bubbles (2) 3. 昆虫・動物の名前と体の部位名。Let's sing. ＜第1回小テスト (L.7～ L.8) ＞			14	L.13 Going for a Walk (2) 3. 野菜・果物等の名前とその色の名前						
7	L.10 A Sick Child (1) 1. 緊急連絡			15	L.9～L.13 までの総復習。 ＜第2回小テスト(L.9～L.13)＞						
8	L.10 A Sick Child (2) 2. 感情、状態を表すことば 3. 保護者と電話でのやりとり										
試験・評価		小テスト70%、授業参加態度20%、提出物10%で総合評価する。									
留意事項		テキスト・ノート・プリント・辞書は各自、毎時間持ってくること。									
準備学習 (予習・復習等)		配付された復習ノート(プリント)で復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、復習や予習で解からなかった点を質問し、解決すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。									
テキスト		「English for Nursery Schools and Kindergartens」(新・保育の英語) 森田和子著 三修社									
参考書等		「Childcare English (保育の英会話)」 赤松直子・久富陽子著 萌文書林									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
英語Ⅲ		2年前期	演習		1	卒業選択必修 資格選択必修		阿久根 政子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎						
授業の目的		グラマー(文法)、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。							
到達目標		1. 文法によって、英文構成力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力がつくようになる。 3. リスニングによって、聞いて理解する力がつく。							
授業の概要		ART, Job Hunting , Shopping などの内容を通して、文を構成する、主語、動詞、目的語、補語について確認し、動詞の種類と働き、修飾語句等について学習する。Reading Section では求人広告や説明文などの読み方のポイントを理解し、Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習問題を行う。							
授業計画									
1	Unit 1. ART (1) 1. 文の構成一語・句・節・文 2. 基本的な英文の構造			9	Unit 3. Job Hunting (2) 2. 練習問題 3. <求人・履歴書>を読むポイント 4. 「求人広告」「募集」「履歴書」を読む				
2	Unit 1. ART (2) 3. 練習問題 4. 英文の構造を理解するポイント			10	Unit 3. Job Hunting (3) 5. 「Job Interview」の Listening				
3	Unit 1. ART (3) 5. 画家・ブルーゲルについての英文を読む。			11	Unit 4. Historical Figures (1) 1. <補語>になるもの 名詞・代名詞・分詞・名詞句・名詞節				
4	Unit 2. Fairy Tales (1) 1. 「主語」と「主部」の区別 2. 主部となるパターン			12	Unit 4. Historical Figures (2) 2. 練習問題 3. <歴史上の人物に関する英文>を読むポイント				
5	Unit 2. Fairy Tales (2) 3. 練習問題 4. <物語>を読むときのポイント			13	Unit 4. Historical Figures (3) 4. 「A GREAT INVENTOR」を読む				
6	Unit 2. Fairy Tales (3) 5. 「The Snow Queen」の Reading & Listening			14	Unit1～Unit 4 までの総復習				
7	Unit1～2 の復習 <第1回 小テスト(Unit1～2 の範囲)>			15	Unit 3～4 の復習と質問 <第2回 小テスト Unit 3～4>				
8	Unit 3. Job Hunting (1) 1. <目的語>になるもの一名詞・名詞句・名詞節								
試験・評価		小テスト70%、授業参加態度20%、提出物10%で総合評価する。							
留意事項		テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。							
準備学習 (予習・復習等)		前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。							必要時間:45分
課題の フィードバック		小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。							
テキスト		「Power-up English<Intermediate>」 JACETリスニング研究会 南雲堂							
参考書等		「英文法ビフォー・アフター(普及版)」 豊永彰著 南雲堂							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
英語Ⅳ		2年後期		演習		1		卒業選択必修 資格選択必修		阿久根 政子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		グラマー（文法）、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。									
到達目標		1. 文法によって、英文構成力と英作文力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力が深まる。 3. リスニングによって、聞いて理解する力が速くなる。									
授業の概要		LOVE, SHOPPING, ENTERTAINMENT などの内容を通して、動詞の種類と働き、修飾語句等について学習する。Reading Section では手紙文・広告文・説明文等の読み方のポイントを学ぶ。Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習を行う。									
授業計画											
1	Unit 5. Love (1) 1. ＜基本5文型＞の復習。 2. 第5文型のポイント			9	Unit 7. Shopping (2) 2. 練習問題 3. ＜説明文＞を読むときのポイント						
2	Unit 5. Love (2) 3. 練習問題 4. ＜手紙文＞を読む時のポイント			10	Unit 7. Shopping (3) 4. ＜E-Money＞についての説明文 5. Listening to the conversation						
3	Unit 5. Love (3) 5. ＜英文の手紙＞を読む 6. Listening to the love letter			11	Unit 8. Entertainment (1) 1. ＜修飾語になるもの(1)＞句レベルの修飾語 2. 修飾語句の主なタイプ						
4	Unit 6. Health (1) 1. ＜動詞(1)＞—完了時制— 2. 動詞句			12	Unit 8. Entertainment (2) 3. 練習問題 4. ＜日本語に訳さずに読む＞ポイント						
5	Unit 6. Health (2) 3. 練習問題 4. ＜広告＞を読むときのポイント			13	Unit 8. Entertainment (3) 5. ＜An amusement park＞ 英文を前から読む練習						
6	Unit 6. Health (3) 5. ＜At Jim's Gym＞の広告を読む 6. The Vegetarian Association についてのスピーチ			14	Unit5～Unit8 までの総復習						
7	Unit 5～6 の復習 ＜第1回 小テスト(Unit 5～6 の範囲)＞			15	Unit7～8 の復習と質問 ＜第2回 小テスト Unit7～8＞						
8	Unit 7. Shopping (1) 1. ＜動詞(2)＞—知覚動詞、使役動詞—										
試験・評価		小テスト70%、授業参加態度20%、提出物10%で総合評価する。									
留意事項		テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。									
準備学習 (予習・復習等)		前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。									
テキスト		「Power-up English<Intermediate>」 JACETリスニング研究会 南雲堂									
参考書等		「英文法 ビフォー・アフター(普及版)」 豊永彰著 南雲堂									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
英語Ⅴ		別に示す	演習		1	卒業選択必修 資格選択必修		教務部	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
			◎						
授業の目的		アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学(ACU)における語学研修やアメリカ文化のプログラムに参加することで、実用英会話の基礎を修得すると同時に、大学女子寮に滞在し、他国の留学生と文化交流を図ることで、異文化コミュニケーション力を養う。							
到達目標		1. 実用英会話の基礎を修得する。 2. アメリカの文化を知る。 3. 異文化コミュニケーションの素養を培う。							
授業の概要		アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学(ACU)において、実用英会話ならびにアメリカ文化、異文化コミュニケーションなどを学ぶ。							
授業計画									
研修期間：3週間(2月下旬～3月予定)									
研修先：アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学および女子									
費用：30～33万円程度(授業料・滞在費・食費・旅費含む)									
研修内容：実用英会話・アメリカ文化・異文化コミュニケーションなど									
試験・評価		現地スタッフの評価による。							
留意事項		海外研修の募集や申込締切などに注意すること。 研修先の都合等、経済状況、世界の情勢により、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。							
準備学習 (予習・復習等)		研修中は事前にテキストに目を通し授業に臨み、授業後は反復練習すること。						必要時間:45分	
課題の フィードバック		未定							
テキスト		研修先の指定テキストを使用する。							
参考書等		研修先において、指示される。							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
フランス語Ⅰ		1年前期		演習		1		卒業選択必修 免許・資格選択必修		堺 富美子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		基礎的なフランス語を、特に会話を中心に学んでいく。ABCからはじめ、発音の基礎を学び、フランス語で外国人とコミュニケーションをする方法や、旅行などで使えるフランス語を学ぶ。フランス文化についても学ぶ。フランス語を学ぶことによって、異文化を理解する力と、英語でも通用するコミュニケーション力をつけることができる。									
到達目標		1. フランス語の音や表現に慣れる。 2. 簡単な会話を耳で聞いて理解する。 3. 簡単な日常会話を使うことができる。									
授業の概要		まずはフランス語の発音や表記に慣れるように、フランス語の歌なども取り入れながら学んでいく。同時に、身近な日常の会話表現を、個別の発音練習や、グループでの練習を取り入れて、実践的に学ぶ。会話を練習する中で、簡単な文法も、必要に応じて少しずつ理解する。スライドやDVDも使い、具体的な会話の場面や、旅行でも役立つ文化を学んでいく。									
授業計画											
1	概論 あいさつ、母音の発音 フランスについてのクイズなど			9	兄弟はいますか？ ペットを飼っていますか？ 数字11～20まで 『ドレミの歌～女の子バージョン』						
2	アルファベ tuとvousの違い 綴り字記号 みんなが見つけたフランス語 『フレールジャック』			10	「持っています」avoirの否定表現 年齢を言う カフェで注文する ① 『ロンドン、ピコタン』						
3	自分の名前・出身・国籍を言う 名詞の男性形 女性形 フランスの建築物			11	不定冠詞「持っていますか？」 三人称の表現 カフェで注文する ②						
4	相手の出身・国籍を聞く 職業を言う フランスの食べ物 『飛べ、飛べ、チョウチョ』			12	aimer(好き)の表現 定冠詞 数字11～20まで カフェで足りないものをたのむ 『雨のしずく』						
5	否定文 数字1～10まで フランスの美術館			13	私は～が好き あなたは～が好きですか？ 大好きです レストランで注文する						
6	être 動詞 habiter(住む)のまとめ 三人称 フランスの不思議 ①			14	あまり好きではない。嫌いです。 フランスの外食 カフェの食べ物						
7	中間の小テスト 会話テスト:自己紹介をする			15	前期のまとめ フランス人との会話のコツ						
8	avoir 動詞(持っている) 不定冠詞 男性名詞・女性名詞 フランスの不思議 ② 『ドレミの歌～のみバージョン』										
試験・評価		会話テスト50%、受講態度と会話練習50%で総合評価する。									
留意事項		フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。									
準備学習 (予習・復習等)		講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をする。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。									
テキスト		毎時間プリントを配布する。									
参考書等		仏和辞典(電子辞書可) 出版社は問わない。古い物でも構わない。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
フランス語Ⅱ		1年後期		演習		1		卒業選択必修 免許・資格選択必修		堺 富美子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		少し発展した内容のフランス語を、会話を中心に学ぶ。簡単な会話でコミュニケーションをとり、買い物ができるレベルまで。前期同様、会話に必要な文法も少しずつ理解する。フランス語を学ぶことで生まれた興味をつなげ、フランス文化への理解を深める。あわせてフランス語を習得するための学び方が、これからの英語学習にも役立つことを学ぶ。									
到達目標		1. フランス語を耳で聞いて理解する。 2. フランス語の表現を文法的に理解し、習得する。 3. フランス語でコミュニケーションをとることができる。									
授業の概要		前期に引き続き、少し発展した内容を、会話を中心に学んでいく。レストランやカフェで注文をしたり、簡単な買い物したりできるレベルまで、スライドやDVDなど具体的な教材を使い、実践的に学ぶ。前期同様、発音練習もかねて、フランス語の歌も取り入れる。フランス文化についても学び、実際にフランス人と話すことを想定し、自分たちで会話を作ってみる。									
授業計画											
1	前期の復習 いろいろな会話表現 フランスの秋			9	Je peux～ ～しても良いですか？ いろいろな動詞 曜日						
2	oùを使った疑問文 パリの街を歩く 地図や標識を読む 『オーシャンゼリゼ』			10	動詞のまとめ 時間の表現 看板の営業時間を読む フランスのおしゃれとメゾン(ブランドの店)						
3	月の名前 フランス生活暦(1月から12月まで)			11	お礼の表現 『きよしこの夜』 フランスのクリスマス						
4	Qu'est-ce que c'est? これは何ですか 定冠詞と不定冠詞 『サントン人形』 市場に行く 市場の値札など			12	aller à (～に行く) 一緒に行きますか？ 断る表現 『ヒバリ』 地下鉄の切符を買う 地下鉄やバスに乗る						
5	Qui est-ce? 誰ですか? 人を表す形容詞 フランスの子どもの本 リサとガスパールなど 市場に行く 欲しいものを言う			13	Tu travailles? (アルバイトしてますか?) C'est comment? どうですか？ フランスの教育について						
6	Il est comment? どんな人ですか？ 色の形容詞と形容詞の位置 フランスの市場について 『小さなお船があったよ』			14	Qu'est-ce que tu manges? 何を食べますか？ 部分冠詞 『月明かりに』 フランスの結婚式と結婚観について						
7	Je voudrais ～ ～がほしいです C'est combine? いくらですか 21以上の数 形容詞の性数一致			15	後期のまとめ 相づちの会話表現						
8	中間の小テスト 会話テスト:市場で買い物をする										
試験・評価		会話テスト50%、受講態度と会話練習50%で総合評価する。									
留意事項		フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。									
準備学習 (予習・復習等)		講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。									
テキスト		毎時間プリントを配布する。									
参考書等		仏和辞典(電子辞書可)出版社は問わない。古い物でも構わない。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
生活とスポーツⅠ		1年前期		演習		1		卒業必修 免許・資格必修		新井 真実	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎		○						
授業の目的		近年の子どもたちをとりまく社会を概観すると、遊ぶ場所・仲間・時間の減少、交通事故や犯罪への懸念などが、体を動かして遊ぶ機会の減少を招いている。本授業では、子どもたちが抱える健康問題や、保育・教育現場におけるニーズを考慮した上で、子どもの心と身体への健康づくりのあり方、基本理念について学ぶ。									
到達目標		1. 現代の子どもたちの生活をとりまく、健康・運動面の状況と問題点を学ぶ。 2. 幼児体育実践に必要な、基礎的な理論や知識を身につける。 3. 子どもの健康・運動に関わる身近なニュースについて、保育者としての視点を持ち考察する。									
授業の概要		都市化や少子化の進展による社会環境や人々の生活様式の変化、それらがもたらす子どもたちの健康問題について理解する。その上で、今日の保育・教育現場に求められる体育教育(幼児体育)のあり方、基本理念について学ぶ。グループディスカッションやレポート課題を通じて、更に考察を深めていく。									
授業計画											
1	オリエンテーション —授業内容概要、評価方法等の説明			9	振り返り学習 小テスト②						
2	近年の子どもからの異変とその対策 —子どもの生活習慣・運動習慣の見直し			10	障がい児の体育指導 —障がい児の運動指導上の留意点						
3	子どもの生活と運動 —動きのバリエーションの多様性が減少した現代社会			11	体格体力の測定・評価 —測定・評価の方法と活用						
4	子どもの発達と運動 —子どもの発達に即した、効果的な運動の質と量			12	運動と安全管理 —事故の傾向・事故防止の留意点・遊具の安全点検・指導上の留意点						
5	振り返り学習 小テスト①			13	振り返り学習 小テスト③						
6	幼児体育とは —幼児体育の意義と役割			14	復習とまとめ —全単元の振り返りとポイント確認						
7	運動発現メカニズム —随意運動の神経メカニズム			15	小テスト④ —論述課題						
8	幼児体育指導上の留意事項 —子どものからだの特性に配慮した運動指導										
試験・評価		受講態度・姿勢40%、小テスト40%、レポート20%原則とし、総合評価する。									
留意事項		理解と考察を深めるため、授業内のディスカッション、レポート課題に積極的に取り組むこと。									
準備学習 (予習・復習等)		取り扱うテーマについて、予めテキストの該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。また、授業後には関連する参考書や新聞記事等を読み、考察を深めること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出された課題は添削・採点し、学期末に各人に対してフィードバックを行う。									
テキスト		「幼児体育 理論と実践 初級 第4版 日本幼児体育学会 編」 前橋明ほか 著 大学教育出版									
参考書等		授業内で適宜紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
生活とスポーツⅡ		1年後期		演習		1		卒業必修 免許・資格必修		新井 真実	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎	○	○						
授業の目的		子どもの運動能力は、画一的な運動指導や習い事よりも、のびのびとした自由あそびの中で向上することが実証されている。本授業では、からだあそびのレパトリー、あそび方の工夫やバリエーションづくりのヒントを習得することで、子どもたちの健康・体力づくりを、楽しみの中で促すためのスキルを総合的に学習する。									
到達目標		1. 動くことの楽しさ、仲間といっしょに遊ぶことの楽しさを味わう。 2. 保育・教育現場において活用できる、体育・運動あそびのレパトリーを学ぶ。 3. 指導・援助に必要なコミュニケーション・スキルを身につける。									
授業の概要		各回テーマに沿ったからだあそびのバリエーションに触れ、自らも柔軟なアイデア出しができる応用力を養う。また、子どもの主体性を引き出しながら、共に挑戦し楽しむ、共有型の援助的サポートを体得していく。最終的には、選択課題について模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。									
授業計画											
1	オリエンテーション ―授業内容概要、評価方法等の説明			9	固定遊具を使った体育あそび ―鉄棒・ブランコ・ジャングルジム等の補助方法						
2	準備運動 ―子どもと楽しむストレッチ・ウォームアップ			10	指導・環境設営の事例 ―コーナーあそび・組み合わせあそび・障害物あそび・サーキットあそび 等						
3	からだを使った体育あそび ―用具を使わない手軽な体育あそび			11	運動会種目① 競技種目 ―かけっこ・障害物競争 等						
4	用具を使った体育あそび ―ボールあそび 等			12	運動会種目② 表現・リズム種目 ―リズム体操・キッズダンス 等						
5	用具を使った体育あそび ―フープあそび 等			13	運動会種目③ レクリエーション種目 ―親子競技・親子ダンス 等						
6	用具を使った体育あそび ―縄あそび 等			14	復習とまとめ 試験課題の発表・説明						
7	用具を使った体育あそび ―マットあそび 等			15	実技試験 ―模擬保育形式でのグループ発表						
8	用具を使った体育あそび ―平均台あそび 等										
試験・評価		受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%原則とし、総合評価する。									
留意事項		腕時計・アクセサリ類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業冒頭に当番制で行う「からだあそび紹介」について、予めグループで題材を調べて選定し、進行の練習をして、当日に臨むこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技試験は模擬保育形式のグループ発表として授業内で実施し、並行して採点、総評を行う。									
テキスト		プリント資料									
参考書等		授業内で適宜紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
キャリアガイダンスⅠ		1年通年		演習		1		卒業選択 資格選択必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎					○			
授業の目的		1. 初年次教育として、大学教育に必要なをされる学修リテラシー(情報の収集・分析、文章の読解・表現、課題の発見・解決、学習計画の立案・実行、大学生生活一般におけるPDCAサイクルの確立、等)を身につける。 2. キャリア教育として、自分の職業観や将来像を再確認し、保育士、幼稚園教諭等の資格や免許を生かした業種・職種への理解を深めることで、自己分析を身につけ、進路を見据えた就業を育成する。									
到達目標		1. 大学教育の意義を理解し、大学教育を受ける方法を身につけ、積極的に取り組む態度を確立すること。 2. 大学教育と就業に対する意識を持ち、目指す保育者像を考えることができるようになること。 3. 卒業後の進路を見据え、どのような知識・能力が求められるのかを理解できるようになること。									
授業の概要		通年で15回(前期7回・後期8回の予定)の授業を通して、就業力および社会人基礎力について学習する。 教科担当者のほかに、就職部教職員や特別講師等とも連携した授業の中で、上級生や卒業生との交流、グループディスカッション等のアクティブラーニングを行い、職業観について考え、進路の早期確定を目指す。									
授業計画											
1	オリエンテーション 自己紹介・他己紹介(アクティブラーニング) 進路希望調査の実施①			9	求人票の見方、採用までの流れについて学ぶ 自己分析をする						
2	キャリア形成(1) 学生生活における心構えとマナーについて学ぶ (ノート提出①)			10	履歴書の作成(1) 履歴書の書式について学ぶ						
3	キャリア形成(2) 働くことの意義について学ぶ (ノート提出②)			11	履歴書の作成(2) 履歴書の具体的な作成について学ぶ・履歴書作成 [履歴書提出]						
4	保育のマナーと文章表現について			12	保育職の職業観について(2) 特別講師による講話 (ノート提出④)						
5	保育職の職業観について(1) 特別講師による講話 (レポート提出①)			13	卒業生との懇談会 卒業生から現場の実情や働き方について聞く (ノート提出⑤)						
6	ポートフォリオを活用したレポート作成と提出(1) ML室でレポート(5回目の授業内容)を作成し、 提出する			14	就職内定報告会(アクティブラーニング) 2年生から就職内定までの活動報告や取り組み等について の話を聞く (レポート提出②)						
7	保育職の現状について 保育職の「今」と「これから」(外部講師講話) (ノート提出③)			15	ポートフォリオを活用したレポート作成と提出(2) ML室で各自のレポート(14回目の授業内容)を作成し、 提出する						
8	進路希望調査の実施② 今後の目標設定										
試験・評価		受講態度・姿勢30%、レポート・履歴書提出30%、ノート提出40%で評価する。									
留意事項		授業の日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認しておくこと。 ノート①～⑤はキャリア形成支援室へ提出、レポート①②は、学内のパソコンで作成し提出すること。									
準備学習 (予習・復習等)		事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ 授業時間内に質問をして解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出されたノートは添削・採点し、次回の授業で返却し総評する。レポート①②は添削・採点し、ポートフォリオ を活用してコメントを返す。									
テキスト		「キャリア形成支援BOOK」 久留米信愛女学院短期大学キャリア形成支援推進室									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
キャリアガイダンスⅡ		2年通年		演習		1		卒業選択 資格選択必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎					○			
授業の目的		「キャリアガイダンスⅠ」で培った職業観・勤労観および生き方や生活のあり方を土台に、自らの個性・能力を認識し、把握した上で、卒業後の進路を自らの責任で選び、自己実現を目指すための社会的・職業的自立を支える就業力を育成することを目的とする。									
到達目標		1. 自分のキャリア形成においてどのような知識・技能が必要になるかを理解すること。 2. 社会人また保育者として求められる水準に対応できる各種能力を身につけること。 3. 就職先の内定を得た上で、社会人、保育者として働くにあたって必要となる姿勢・態度を身につけること。									
授業の概要		通年で15回(前期7回・後期8回の予定)の授業を通して、就業力および社会人基礎力を身につける。教科担当者のほかに、就職部教職員や特別講師等とも連携した授業の中で、他学科との合同受講やグループディスカッション等のアクティブラーニングを行い、社会的・職業的自立を目指す。									
授業計画											
1	オリエンテーション 進路希望調査の実施 希望進路を確認し、具体的な目標を立てる			9	進路確認 希望進路及び就職活動状況についての確認						
2	就職活動の実際について 特別講師から就職の現状等についての講義を受ける (ノート提出①)			10	キャリア形成支援講座(3) 特別講師から新聞の読み方について学ぶ						
3	就職試験対策講座(1) 面接講座① 就職活動を始めるにあたっての心構えについて学ぶ			11	ビジネスマナー講座 特別講師から社会人として働き、生活していく中で必要とされる教養について話を聞く (ノート提出⑤)						
4	就職試験対策講座(2) 面接講座② 面接試験の概要と受験に際しての心構え等を学ぶ (ノート提出②)			12	労働法について 特別講師から労働法について話を聞く						
5	就職試験対策講座(3) 模擬面接を受け、面接のポイントについて学ぶ (ノート提出③)			13	社会人としての心構え(1) 卒業後における大学からのキャリア形成支援等について指導を受ける						
6	キャリア形成支援講座(1) 特別講師から幼稚園教諭の心構えについて学ぶ (レポート提出①)			14	社会人としての心構え(2) 早期離職の予防について話を聞く						
7	グループディスカッション(アクティブラーニング) 与えられたテーマについて、グループディスカッションを行う			15	総括・ポートフォリオを活用したレポート作成と提出 ML室でまとめのレポートを作成し、提出する (レポート提出②)						
8	キャリア形成支援講座(2) 女性としての生き方について学ぶ (ノート提出④)										
試験・評価		受講態度・姿勢30%、レポート提出30%、ノート提出40%で評価する。									
留意事項		授業の日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認しておくこと。 ノート①～⑤はキャリア形成支援室へ提出、レポート①②は、学内のパソコンで作成し提出すること。									
準備学習 (予習・復習等)		事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ 授業時間内に質問をして解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出されたノートは添削・採点し、次回の授業で返却し総評する。レポート①②は添削・採点し、ポートフォリオを活用してコメントを返す。									
テキスト		「キャリア形成支援 BOOK」 久留米信愛女学院短期大学キャリア形成支援推進室									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
日本文学		1年前期		講義		2		卒業選択必修 資格選択必修			
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		古代から現代までの作品読解と鑑賞をとおして、人間の生き方と愛の形を考え、そのアイデンティティーを探り、読み取った事柄を文章化し、鑑賞文としてまとめる。また、各時代を代表する作品にふれることにより、文学史の知識を深め、日本文学の流れを知る。									
到達目標		1. 作者の生涯と、その業績を理解する。 2. 作品を味読し、そのテーマに迫る。 3. 作品ごとに自分の感想を文章化し、互いに分かち合う。									
授業の概要		全ての作品の通読が困難であるため、作品の一部を抜粋して作った資料をテキストとして味読を図る。また、視聴覚教材の活用や担当者の説明をとおして作者の生涯や当該作品の概要を理解した上で読解に臨み、その読みを深める。更に、可能な限り、受講者相互の意見交換を行い、互いの読みを深める。									
授業計画											
1	オリエンテーション 『古事記』 1 時代背景 2 概要 3 鑑賞			9	5～8までのまとめ・補足・感想発表						
2	『万葉集』 1 時代 2 歌体・部立 3 歌風の変遷 4 鑑賞			10	芥川龍之介『奉教人の死』 1 生涯と業績 2 切支丹物 3 作品(抄)鑑賞						
3	『源氏物語』 1 貴族の生活 2 仮名文字の発明 3 作品の概要 4 作品(抄)鑑賞			11	高村光太郎『智恵子抄』 1 生涯 2 作品鑑賞 3 作品鑑賞 ―愛のかたち―						
4	1～3までのまとめ・補足・感想発表			12	5～11までのまとめ・補足・感想発表						
5	与謝野晶子『みだれ髪』 1 生涯と業績 2 作品鑑賞 3 「君死にたまふことなかれ」			13	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 1 生涯 2 作品鑑賞 「雨ニモマケズ」						
6	島崎藤村『破戒』 1 詩から小説へ 2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞			14	遠藤周作『私の・棄てた・女』 1 キリスト教文学 2 遠藤の挑戦 3 作品(抄)鑑賞 【レポートの提出】						
7	夏目漱石『三四郎』 1 生涯と業績 2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞			15	全体のまとめ						
8	夏目漱石「私の個人主義」 1 漱石の英国留学 2 主張内容の今日的意義										
試験・評価		レポート40%、発表40%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		資料(作品の抜粋プリント)は用意するが、読解を深めるため作品にはできるだけ目をとっておく。									
準備学習 (予習・復習等)		授業計画に基づき指定される作品を、予め読んで授業に臨む。							必要時間:3時間		
課題の フィードバック		授業で実施した3回の感想発表はその都度総評を行い、提出されたレポートは次週に返却し総評を行う。									
テキスト		各作品を収めた書籍については各々準備する。									
参考書等		事前に紹介する(基本的に図書館の蔵書より)。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
日本国憲法		1年前期		講義		2		卒業選択必修 免許必修・資格選択必修		生地 篤	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎					○			
授業の目的		日本国憲法は、法律の中でも基本法と呼ばれており、全ての法律の基準となるものである。日本も法治国家であるので、法によって社会が成り立っていると考えると、日本の社会の在り方が日本国憲法に定められていると考えられる。そういう観点から、日本国憲法の内容を理解していく。									
到達目標		1. 日本国憲法には、どのようなことが定められているのかを理解する。 2. 日本国憲法の目的や今日的意義を理解する。 3. 日本国憲法における人権保障の考え方を身につける。									
授業の概要		まず、日本国憲法の全体について、どのような内容なのかを「前文」「天皇」「人権」「国会」「内閣」「裁判所」「地方自治」という順に学び、それから、憲法にまつわるビックである「個人情報保護」や「社会保障」の問題、「裁判員制度」等を題材に憲法の個々の論点の理解を深めていく。									
授業計画											
1	憲法の意味・・・近代的意味の憲法 日本国憲法と太平洋戦争との関係 憲法の目的(特に、個人の尊厳とのかかわりについて)			9	プライバシー権と個人情報保護について						
2	憲法前文について 象徴天皇制と天皇の権限について			10	生存権について(1) 憲法25条の特性や役割について学ぶ。						
3	日本国憲法上の人権規定について 1、幸福追求権 2、精神的自由権 3、経済的自由権 小テスト①			11	生存権について(2) 具体的な事例を通してその役割について考える。 小テスト④						
4	刑事事件上の人権規定 1、適正手続 2、自白の禁止			12	自己決定権について(1) 憲法の規定に流れる自己決定権の考え方について学ぶ。						
5	統治機構について(1) 国会の構成・機能 小テスト②			13	自己決定権について(2) 具体的にどのような問題として現れるかを学ぶ。						
6	統治機構について(2) 内閣の構成・機能			14	裁判員制度について(1) 司法制度のなかでのこの制度の意味や制度の内容を学ぶ。						
7	統治機構について(3) 裁判所の構成・機能 小テスト③			15	裁判員制度について(2) 具体的にどのように行われるか映像資料などで学ぶ。 小テスト⑤						
8	地方自治について、予算について 憲法改正について 憲法尊重義務について										
試験・評価		小テストの合計点90%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		配布したプリントから、小テストは出題するので、講義が終了するまでプリントは毎回持参すること。									
準備学習 (予習・復習等)		事前にその範囲の日本国憲法の条文を読んでおき、授業でその条文の理解を深め、復習としてノートや配布資料を読んでおくこと。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		小テストについては、実施後の授業時間返却し、返却時に出来ていない所や誤解の多いところなどの総評を行う。									
テキスト		適宜プリントを配布する。									
参考書等		「憲法(第5版)」 芦部信喜・高橋和之 岩波書店、「憲法(新法学ライブラリ)」 長谷部恭男 新世社、「世の中がわかる憲法リル」 石本伸晃 平凡社									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
心理学		1年前期		講義		2		卒業選択必修 資格選択必修		有吉 美恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎	○	○						
授業の目的		心理学とは、心の働きやそのメカニズムを明らかにする学問である。現在、医療をはじめ教育や福祉など様々な領域で心理学の知見が活用されている。講義を通して、受講者が心理学の基礎的な知識を得ることで、日常生活における「こころ」の働きについて理解し、応用できるようになることをねらいとする。									
到達目標		1. 講義の中で学んだ心理学に関するキーワードを説明できるようになる。 2. 心のメカニズムを明らかにするために心理学が用いている実証科学的な研究の視点について理解する。 3. 身近な出来事を心理学的な観点から考察できるようになる。									
授業の概要		心理学が対象とする学問領域は幅広い。その中から、心理学史、認知心理学、学習心理学、社会心理学、発達心理学、性格心理学、臨床心理学などの主要なピックについて学習し、ものの感じ方、見方、考え方などの基礎心理について学ぶ。さらに、私たちの身近な生活や人間関係、社会問題にもふれ、実生活への応用について考察していく。									
授業計画											
1	心理学とは何か 「こころ」とは何かを理解するために、「こころ」がどのように研究されてきたかを心理学の歴史を通して学ぶ。			9	対人行動の心理学① 他者との日々の関わりの中で、私たちはどのように他者を認知し、理解するのか。対人認知について学ぶ。						
2	感覚と知覚 心を情報処理の観点から捉え、物の見え方や捉え方について学ぶ。			10	対人行動の心理学② 人の心は他者との相互作用によって変化する。ここでは、人間関係における心理メカニズムについて学ぶ。						
3	学習のメカニズム やる気はどこからくるのか。ここでは、動機付けの種類や目標志向性と行動の関係について学ぶ。			11	集団 集団の特徴と集団の中の個人について学ぶ。						
4	空間と行動 人が空間の特徴をどのように捉えて、はたらきかけているかについて学ぶ。			12	コミュニケーション行動 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて学ぶ。						
5	パーソナリティ① パーソナリティの分類について、どのような方法があるかを見ていく。			13	成長するこころ① 乳幼児期から老年期までの発達課題と危機について学ぶ。						
6	パーソナリティ② パーソナリティの検査について、どのような手法があるかを見ていく。			14	成長するこころ② 発達のつまずきと援助について学ぶ。						
7	第1回小テスト(1～6回の内容)の実施。 小テスト終了後、テストの解説を通して復習を行う。			15	第2回小テスト(8～14回の内容)の実施。 小テスト終了後、テストの解説を通して復習を行う。						
8	こころの健康 ストレスに関する主要な理論を学び、メンタルヘルスについて理解する。										
試験・評価		授業で行う2回の小テスト60%、レポート課題20%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		これまでの自分の行動や考え方を振り返り、関連付けながら学習を進めていくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で配布した資料を読みこみ、授業で学んだ知識の定着をはかること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		小テスト終了後、テストの解説を通して復習を行う。									
テキスト		講義の中で適宜資料を配付する。									
参考書等		「心理学への招待～こころの科学を知る～」 梅本堯夫・大山正編著 サイエンス社 「はじめて出会う心理学」 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦著 有斐閣									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
ヨーロッパ文化		別に示す		演習		1		卒業選択必修 資格選択必修		教務部	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
		○	◎								
授業の目的		春休みの約10日間のヨーロッパ研修(主にフランス、バチカン、イタリア)を通して、ヨーロッパ文化の源であるキリスト教の精神を学び、また学院の経営母体である“ショファイユの幼きイエズス修道会”の母修院での研修によって建学の精神を体得する。また、各国の人々、自然、教会等々に触れ、国際理解を深める。									
到達目標		1. キリスト教の精神を学ぶ。 2. 本学の建学の精神を体得する。 3. 国際理解を深める。									
授業の概要		3月の春休み中約10日間のヨーロッパ研修(主にフランス、バチカン、イタリアなど)をする。									
授業計画											
プログラム予定(3月の10日間)											
出発 ↓ 香港 香港市内研修 ↓ パリ パリ市内研修 ↓ 自主研修 ↓ リヨン リヨンへ ↓ ショファイユ バスにてショファイユへ ↓ ジュネーブ ジュネーブ市内研修 ↓ ミラノ ↓ フィレンツェ フィレンツェ市内研修 ↓ ローマ ローマ市内研修 ↓ ローマ市内自主研修 ↓ 香港 ↓ 帰国 (帰国後レポート提出)											
試験・評価		研修中の態度50%、帰国後のレポート50%で総合評価する。									
留意事項		全学科1・2年生の希望者を対象とし、費用経費を30～33万円程度に見込んでいる。 経済状況・世界の情勢によっては、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。									
準備学習 (予習・復習等)		事前にヨーロッパの文化等についてネット等を通し調査しておき、研修中はメモおよび日記を記載すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		帰国後のレポートは返却し、総評を行う。									
テキスト		なし									
参考書等		なし									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
生活と環境		1年前期		講義		2		卒業選択必修 資格選択必修		安保 康治	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		生活を取り巻く環境、特に近年重要視される「食と健康」、「食の安全」、「地球の環境」、「環境の破壊」について、社会科学および自然科学の見地からそのメカニズムなどを理解することで、生活上の対策を学習し、今後の社会生活を豊かなものにする一助とする。									
到達目標		1. 食生活についての教養が身につく、健康な生活への意識が向上すること。 2. 地球の環境問題についての教養が身につく、個人的対策が実施できるようになること。 3. 食生活や地球環境についてのメディア情報が理解できるようになること。									
授業の概要		「食と健康」では、食品に含まれる栄養がわれわれの体に必要である理由、「食の安全」では、その反対に反栄養素といわれる微生物や農薬、有害成分など、また、「地球の環境」では、地球を取り巻く環境要因の成り立ちと維持、「環境の破壊」では、地球の各環境問題についてそれらのメカニズムや対策を学習する。									
授業計画											
1	1. 食と健康 (1)食物と栄養 栄養素の役割と食事摂取基準・食生活管理			9	第1回小テストの総評 3. 地球の環境 (1)地球の誕生 (2)地球の構造 (3)空気の維持						
2	(2)肥満 肥満はなぜ起こるのか 皮下脂肪型と内臓脂肪型肥満			10	(4)温度の維持 (5)水の循環 (6)エネルギー資源						
3	(3)ダイエット 肥満予防改善の基本的な考え方 肥満予防改善の体質改善			11	4. 環境の破壊 (1)公害の歴史 イタイタイ病・四日市喘息・水俣病など						
4	2. 食の安全 (1)食物の腐敗と保存 腐敗と微生物・微生物の生育環境と食物の保存			12	(2)地球の温暖化 CO ₂ の増加と温度上昇 世界の対策と個人の対策						
5	(2)加熱調理 加熱調理の方法とその特徴 加熱調理の目的とその成分変化			13	(3)オゾン層の破壊(メカニズムと対策) (4)酸性雨(メカニズムと対策) (5)ゴミ問題(処理の現状とリサイクル)						
6	(3)加工食品とインスタント食品 保存食品・発酵食品・インスタント食品			14	9～13週の復習 ＜第2回小テスト(45分):9～13週の範囲＞						
7	(4)農薬と食品添加物 (5)食物の有害成分			15	第2回小テストの総評 まとめ						
8	1～7週の復習 ＜第1回小テスト(45分):1～7週の範囲＞										
試験・評価		授業内で行う2回の小テスト80%と受講態度・姿勢20%で評価する。									
留意事項		普段から食と健康や環境問題等について、新聞やTV等のメディア情報に関心をもつことが望まれる。									
準備学習 (予習・復習等)		事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、授業で理解できなかった点があれば復習して理解するか、授業終了後に質問し解決しておくこと。									必要時間:3時間
課題の フィードバック		授業で実施した2回の小テストは、添削・採点し、次週の授業で返却し総評を行う。									
テキスト		「現代人のための生活と環境」 安保康治著 開成出版									
参考書等		「現代人のための生活科学」 安保康治著 開成出版 生活習慣病の予防 http://www.japa.org/seijinbyou 地球を守る http://kankyo.jsf.or.jp									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
生命と自然		1 年前期		講義		2		卒業選択必修 資格選択必修		生地 暢	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎				○	○			
授業の目的		生命の成りたちについて理解し、地球上に生きている生物の生活体系と、生息する自然環境について理解する。また、生息環境にどのように適応しているかについて理解する。さらに、その生息環境を脅かす要因について理解する。									
到達目標		1. 生命の成り立ちについて知ること。 2. 生物多様性の重要性について知ること。 3. 生息環境を脅かす要因について知ること。									
授業の概要		生物とは何か、どのように成り立ったのかを知り、それら生物がどのような地球上の環境下に適応し、生活しているかを学ぶ。また、生息している環境がどのような特徴を有しているのか、どういう状況であるのかを知り、本来の生息環境でない場合、どのような影響を被っているのかを学ぶ。									
授業計画											
1	生物とは 1. 生物の起源 2. 生物と無生物との違い			9	生物多様性と環境適応Ⅳ 1. 河川・湖沼に生息する生物とその環境・適応						
2	生物の進化 1. 生物の形態の違い 2. 発生過程			10	生物多様性と環境適応Ⅴ 1. 海(沿岸域)に生息する生物とその環境・適応						
3	生命のゆりかご・地球Ⅰ 1. 陸上環境(極地・草原・森林・砂漠・山)			11	生物多様性と環境適応Ⅵ 1. 外洋・深海に生息する生物とその環境・適応						
4	生命のゆりかご・地球Ⅱ 1. 水環境(河川・湖沼・海・深海)			12	地球の変化と生き物Ⅰ 1. 地球温暖化による生き物への影響						
5	生命のゆりかご・地球Ⅲ 1. 大気環境(大気組成・雨・風)			13	地球の変化と生き物Ⅱ 1. 人為的開発による生き物への影響						
6	生物多様性と環境適応Ⅰ 1. 草原・砂漠に生息する生物とその環境・適応			14	地球の変化と生き物Ⅲ 1. 環境ホルモンによる生き物への影響						
7	生物多様性と環境適応Ⅱ 1. 森林・高山に生息する生物とその環境・適応			15	まとめ						
8	生物多様性と環境適応Ⅲ 1. 極地・熱帯雨林に生息する生物とその環境・適応										
試験・評価		レポート70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。									
留意事項		普段から自然や生物についての新聞・TVなどのメディア報道に関心をもつことが望まれる。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で興味・関心を持った生物や自然、環境について、書籍、インターネットなどで調べ、理解を深めること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		提出レポートは、単位認定試験に変えるので、フィードバックは行わない。									
テキスト		必要に応じてプリントを配布する。									
参考書等		講義中に随時提示する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
ライフデザイン論		1年前期		講義		2		卒業選択必修 資格選択必修			
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			◎								
授業の目的		自然に代表される多様な環境に適応してきた人間の英知の積み重ねである生活(＝ライフ)を、自ら主体的に創造する(＝デザイン)生き方を学ぶ。本講義では、生活文化の中における自然と人事の一体感を学ぶことにより「自然に対する愛」を再認識し、生活環境の守り手としての自覚を持ち、生活の持つ普遍性と奥深さに気づくことを目指す。									
到達目標		1. 「生活文化」の定義を把握する。 2. 「生活文化」の各領域に関する基本的な用語を習得し、生活を楽しむ姿勢を持つことができるようになる。 3. 「生活文化の伝達」という視点を持ち、「ライフデザイン」というステージに到達することの意義を理解できるようになる。									
授業の概要		生活を、その主人公(主体者)である人間の人生(ライフコース)に寄せて考察する。その際の視点として、人が生まれてから死ぬまでを春夏秋冬の四季になぞらえることとする。講義を理解しやすくするため、講義内容に関連したビデオ等を適宜視聴し、具体的な事例と共に生活文化を考察する。									
授業計画											
1	生まれるー生命と生活文化 ・「文化」とは何か ・人生の四季としての「生活文化」			9	秋②守る ・儉約の生活文化 ・暮らしを守る環境観			小テスト実施			
2	春①育つ ・社会化のプロセスとしての「子育て・子育て」 ・子育て文化の日米比較			10	語る③ ・「うた」にこめられた生活文化 ・口伝による無形の生活文化						
3	春②学ぶ ・近代以降の学校制度 ・学歴と資格			11	冬①扶けあう ・企業と地域社会の共生 ・ボランティア活動とは						
4	春③目覚める ・「こども」と「おとな」の境界 ・自我の目覚め			12	冬②味わう ・季節と年中行事 ・東西食事の作法の比較						
5	夏①働く ・「働くこと」と「仕事」と「労働」 ・家事労働の概念			13	冬③伝える ・知識から智慧へ ・話す文化と書く文化			小テスト実施			
6	夏②遊ぶ ・「遊ぶこと」と「生きること」 ・文化としての遊び			14	まとめ ・生活文化の原点としての江戸文化						
7	夏③結びあう ・結婚の社会的意味 ・男女が結び合うメカニズム			15	レポート作成 「ライフデザインする生き方について」						
8	秋①愛でる ・「雪月花」を愛でる文化 ・「ペットの愛玩」にみられる社会文化的側面										
試験・評価		受講態度20%、小テスト3回分30%、レポート50%で総合評価する。									
留意事項		授業中にプリントや新聞記事のコピーなども教材として配布するので、紛失しないよう保管すること。									
準備学習 (予習・復習等)		事前に教科書を読んでから授業に臨むこと							必要時間:3時間		
課題の フィードバック		授業内で実施した小テストは次回に返却し解説を行う。									
テキスト		「生活文化の世界」 臼井和恵・岡部千鶴他 酒井書店									
参考書等		「祖母・母たちの娘時代」 湯沢雅彦・岡部千鶴他 クレス出版									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
情報科学		1 年前期		講義		2		卒業選択 免許必修		眞部 真紀子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎			○		
授業の目的		ネットワーク社会の現代において、保育者にもパソコンスキルが求められている。現場では、保育活動以外の時間は限られているので、事務作業を効率よく進めることが必要となる。本科目は、そのためのスキルを習得することを目的とする。									
到達目標		1. Wordによるさまざまな文書作成およびそれに合わせたページ設定ができる。 2. Excelによる名簿管理と差し込み印刷ができる。 3. PowerPointによるスライド作成およびプレゼンテーションができる。									
授業の概要		ネットワーク社会の現代に不可欠なメール操作やインターネットについて学習する。Wordでは保護者向けの文書や園だよりを作成し、Excelでは名簿管理と宛名ラベルの印刷、さらにPowerPointで、保護者向け・子どもたち向けなどのスライドを作成する。									
授業計画											
1	パソコンのログオン、メールユーザー登録と設定をおこなう。パソコン室のプリンターについて理解する。 (1 回目は履修しない学生も出席すること)			9	Excelの特徴を学ぶ。 文書を作成し、Wordとの違いを知ること、目的にあったソフトを選択することを学ぶ。						
2	Wordによる日本語入力とページ設定および保存方法を学習する。 メールによる添付ファイルの送信方法を習得する。			10	Excelのデータベース機能を学ぶ。 並べ替え、フィルタを学習し、Wordのデータと連携したさまざまな差し込み印刷機能を習得する。						
3	Wordで作成されたさまざまな文書を見て、そのページ設定や書式設定を考えながら、作成して学ぶ。			11	PowerPointによるスライド作成を学ぶ。 スライドレイアウトの違いを知り、目的にあったスライドを選択することを習得する。						
4	各自でテーマを持ち、ページ設定や書式設定を考えながら、実際に文書を作成して理解を深める。【課題】			12	スライドのテーマとオブジェクトの挿入方法およびアニメーションについて学ぶ。						
5	Wordの表作成を学ぶ。 行・列・セルを理解し、表の書式設定ができるようになる。			13	各自でテーマを持ち、プレゼンテーションを目的に、スライドを作成する。						
6	Wordの図形描画を学ぶ。 表現力のある文書を作成するために、さまざまな図形を挿入し、その編集方法を習得する。			14	各自でテーマを持ち、プレゼンテーションを目的に、スライドを作成する。						
7	【Wordの総合問題】 これまで学習した内容の理解度を確認するために、文書作成の問題を行う。			15	作成したスライドを使って、プレゼンテーションを行う。 【発表】と【スライド提出】						
8	Excelのワークシートおよびセルの概念を学ぶ。 基本的な操作方法および表計算を学習し、Excelの便利な機能を理解する。										
試験・評価		【課題】(20%)、【Wordの総合問題】(25%)、【発表】(20%)、【スライド提出】(25%)、学習態度・意欲(10%)を合わせて評価する。									
留意事項		文字入力が苦手な学生は、空き時間を利用して練習すること。 他の授業のレポートなど、多くの文書作成をする機会を作るようにすること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で行ったパソコン操作を次週までにもう一度行なう。授業時間の作業が終わらなかった学生は、空き時間を利用し完成させる。								必要時間: 3時間	
課題の フィードバック		【課題】は次週に解説し、【Wordの総合問題】は回答を回収後に解説を行う。【発表】は授業内にコメントする。									
テキスト		「情報リテラシー アプリ編」 富士通エフ・オー・エム株式会社著 制作 FOM出版									
参考書等		「イチからしっかり学ぶ！Offise基礎と情報モラル」 noa出版著 制作 株式会社ワークアカデミー									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
声楽		1年前期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		笠井 キミ子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎					
授業の目的		本科目では、保育者として基礎的な歌唱力の修得を目指すとともに、音楽についても理解を深めることで、より豊かな感性や表現力を養うことを目的とする。そして、保育者として、歌うことを通して子どもたちに音楽の楽しさや喜びを伝え、心身の発達を促していく音楽教育への基盤となる力をつける。									
到達目標		1. 基礎的な歌唱力(正しい音程、拍子、リズムなど)を修得する。 2. 歌について音楽理論も含めた理解を深める。 3. 到達目標1, 2でつけた力を音楽表現に生かす。									
授業の概要		「子どもとともに歌うた」「みんなで楽しむ手あそびうた」を中心に、こどものうた、わらべうた、手遊び歌、楽典などについて学習していく。参考書「コールユーブンゲン」の中から数曲を練習する。小テスト① までは、主に個人で歌う練習をするが、それ以降は合唱など集団での活動となる。									
授業計画											
1	声楽の授業内容を知り、目標と意義を理解する。テキストの内容確認をする。歌唱の正しい姿勢について学び、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			9	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。テキスト中の7曲程度を歌い、小テスト① の課題を確認し、練習する。						
2	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音名について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			10	〔小テスト①〕歌う姿勢や正しい音程、拍子、リズム等に気をつけながら課題曲を歌う。						
3	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音符や休符について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			11	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。本日举行合唱曲を練習する。						
4	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音符や休符について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			12	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。本日举行合唱曲を練習する。						
5	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。リズムと拍子について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			13	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。より豊かな表現を目指し合唱曲を練習する。						
6	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。リズムと拍子について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			14	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。より豊かな表現を目指し合唱曲の仕上げをする。小テスト② の課題を確認し、練習する。						
7	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。反復記号と省略記号について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。			15	〔小テスト②〕発声の仕方や正しい音程、拍子、リズム等に気をつけながら、課題曲を歌う。授業評価を行う。						
8	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。										
試験・評価		授業で行う2回の小テスト60%(各30%)と受講態度・普段の歌唱40%で総合評価する。									
留意事項		個人、またはグループでそれぞれ積極的に練習を行うこと。									
準備学習 (予習・復習等)		次週までに授業で学習した歌を復習し、出来ない部分を練習する。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		授業で実施する小テスト①②については採点し、次週の授業で総評を行う。									
テキスト		「子どもとともに歌うた」「みんなで楽しむ手あそびうた」 笠井キミ子他 権歌書房									
参考書等		「コールユーブンゲン」 城多又兵衛解説 音楽之友社									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
幼児音楽Ⅰ		1年後期		演習		1		卒業必修 免許・資格選択必修		進藤 務子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○				
授業の目的		幼児教育における音楽教育の重要性を理解し、幼稚園・保育園における保育現場で必要とされる保育者の音楽的基礎技能と基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、簡単な子どもの歌を覚え、楽典、キーボード・ハーモニー、歌唱法、伴奏法を学び、授業の中で実践していく。									
到達目標		1. 到達目標幼児の前で童謡の指導ができるようになる。 2. 簡単な曲の伴奏ができるようになる。 3. 簡単な曲の弾き歌いができるようになる。									
授業の概要		約20曲の童謡を覚え、幼児に指導するコツを学ぶ。また、楽典やキーボード・ハーモニーの基礎を学び歌唱力や伴奏力を養う。さらに、歌唱力と伴奏力を統合する弾き歌いを習得する為に、授業の中で課題の練習成果を発表し、意欲を高める。									
授業計画											
1	授業の内容、進め方についてのオリエンテーション ノート作成、伴奏づけ、弾き歌いの説明			9	弾き歌い実習(5) 「いもほり」「どんぐりころころ」						
2	伴奏づけ実習(1) 「てをたたきましょう」「むすんでひらいて」			10	弾き歌い実習(6) 「メリーさんの羊」「こぎつね」						
3	伴奏づけ実習(2) 「おおきなぐりの木の下で」「ごあいさつ」			11	弾き歌い実習(7) 「サンタクロース」「ジングルベル」						
4	伴奏づけ実習(3) 「おべんとう」「おかえりのうた」			12	弾き歌い実習(8) 「おしょうがつ」「もちつき」						
5	弾き歌い実習(1) 「ちょうちょう」「チューリップ」			13	弾き歌い実習(9) 「まめまき」「うれしいひなまつり」						
6	弾き歌い実習(2) 「ぶんぶんぶん」「かたつむり」			14	弾き歌い実技小テスト準備						
7	弾き歌い実習(3) 「しゃぼんだま」「うみ」			15	弾き歌い・実技小テスト 課題曲演奏						
8	弾き歌い実習(4) 「めだかのがっこう」「とんぼのめがね」										
試験・評価		平常点60%、実技テスト30%、ノート作成10%で総合評価する。									
留意事項		毎週の課題をよく準備して授業に臨むこと。									
準備学習 (予習・復習等)		毎週の演奏課題をよく練習し、練習カレンダーに記録すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。									
テキスト		「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社									
参考書等		「手遊びうた50」第1集 二階堂邦子編 学事出版									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
幼児音楽Ⅱ		2年前期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		進藤 務子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○				
授業の目的		子どもの心身発達に合わせた教材曲の選択及び指導法を実践を通して学ぶ。また、5月の幼稚園実習、8月の保育園実習(2回目)に対応できるよう、弾き歌いの技術をレベルアップさせる。さらに、就職試験の為に、過去の幼児音楽弾き歌いの課題への取り組みや初見奏のコツを学ぶ。									
到達目標		1. 子どもの心身発達に合わせた教材曲を選択できるようになる。 2. 5月の幼稚園実習において、子どもに指導できる曲が3～5曲ある。 3. 8月の保育園実習において、子どもに指導できる曲が3～5曲ある。									
授業の概要		保育者として幼児音楽を指導する際、子どもの発達に合わせた教材の適切な選び方や指導法を身につける為、約30の課題曲に取り組む。また、幼稚園、保育園実習への対応や就職試験準備として、各自の演奏技術レベルに合った演奏法を習得し、レパートリーを増やす。									
授業計画											
1	適切な導入・展開の仕方と実習(1) 148『おつかいありさん』 149『ありさんのおはなし』			9	弾き歌い実習(5) 131『あひるのぎょうれつ』 168『ふしぎなポケット』						
2	適切な導入・展開の仕方と実習(2) 72『こいのぼり』 145『ことりのうた』			10	弾き歌い実習(6) 80『たなばたさま』 プリント『さんぽ』 プリント『ミッキーマウス』						
3	適切な導入・展開の仕方と実習(3) 73『おかあさん』 101『おはながわらった』			11	弾き歌い実習(7) 183『おばけなんてないさ』 プリント『にんげんっていいな』						
4	適切な導入・展開の仕方と実習(4) プリント『つばめになって』 プリント『山のワルツ』			12	弾き歌い実習(8) プリント『アイスクリームのうた』 プリント『ドロップスのうた』						
5	弾き歌い実習(1) 76『はをみがきましよう』 175『きゅつきゅつきゅつ』 プリント『すてきなパパ』			13	弾き歌い実習(9) 185『とんでったバナナ』 199『サツちゃん』						
6	弾き歌い実習(2) 78『とけいのうた』 79『はやおきどけい』 プリント『おおきな古時計』			14	実技小テスト準備 ・各自のレパートリーを作成する。 ※ノート提出						
7	弾き歌い実習(3) 103『あめ』 125『あめふり』 プリント『ニャニャニョのてんきよほう』			15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト						
8	弾き歌い実習(4) 98『おたまじゃくし』 106『かえるのうた』										
試験・評価		毎週の課題に対する評価60%、実技テスト30%、ノート作成10%で総合評価する。									
留意事項		毎週の課題をよく準備して授業に臨むこと。									
準備学習 (予習・復習等)		毎週の演奏課題曲を十分に練習し、練習カレンダーに記録すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。									
テキスト		「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社									
参考書等		授業の中で紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
幼児音楽Ⅲ		2年後期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		進藤 務子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎			○		
授業の目的		子どもの日常生活における表現活動や日本の伝統的な行事における歌を通して、教育的価値を深く理解し、音楽の果たす役割について学ぶ。また、四季の歌、動物の歌、行事の歌の弾き歌いの技能を習得すると共に、毎週の課題をクラス全員の前で発表することにより、演奏技術の向上を目指す。									
到達目標		1. 子どもの表現活動における音楽の果たす役割がわかる。 2. 日本の伝統的な行事における教育的価値がわかる。 3. 四季の歌、動物の歌、行事の歌の弾き歌いができるようになる。									
授業の概要		四季の歌、動物の歌、行事の歌を中心に弾き歌いの実習を通して、技能を高める。また、講義した内容を土台にオリジナルノートを作成し、保育者としての思考を深める。さらにレパートリーを増やし、幼児音楽の指導計画や指導方法の基礎についても学ぶ。									
授業計画											
1	授業内容の説明 ・弾き歌いのアレンジの方法について ・ノート作成について			9	弾き歌い実習(8) 84『あわてん坊のサンタクロース』 167『おもちゃのチャチャチャ』						
2	弾き歌い実習(1) 115『まつぼっくり』 116『こおろぎ』			10	弾き歌い実習(9) 120『コンコンクシヤンのうた』 ブ『北風小僧の寒太郎』						
3	弾き歌い実習(2) プ『まっ赤な秋』 プ『赤とんぼ』			11	弾き歌い実習(10) 92『おもいでのアルバム』 93『いちねんせいになったら』						
4	弾き歌い実習(3) ブ『ゆうやけこやけ』 ブ『ななつのこ』			12	弾き歌い実習(11) ブ『せかいじゅうのこどもたちは』 82『ともだちさんか』						
5	弾き歌い実習(4) 166『うちゅうせんのうた』 187『せんろはつづくよどこまでも』			13	弾き歌い実習(12) 178『ゆりかごのうた』						
6	弾き歌い実習(5) 138『やぎさんゆうびん』 139『やまのおんがくか』			14	実技小テスト準備 各自のレパートリーを作成する。 ※ノート提出						
7	弾き歌い実習(6) 135『ぞうさん』 140『いぬのおまわりさん』			15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト						
8	弾き歌実習(7) 133『おんまはみんな』 152『アイアイ』										
試験・評価		毎週の課題に対する評価60%、実技テスト30%、ノート作成10%で総合評価する。									
留意事項		毎週の課題をよく準備して授業に臨むこと。									
準備学習 (予習・復習等)		毎週の演奏課題曲を十分に練習し、練習カレンダーに記録すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。									
テキスト		「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社									
参考書等		授業の中で紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
ピアノⅠ		1 年前期		演習		1		卒業必修 免許選択必修		原 浩美・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○				
授業の目的		幼稚園教諭および保育士として必要なピアノ演奏・伴奏の基礎を修得する。 ピアノⅠでは、楽譜を正しく読む力をつけ、楽譜通りにピアノ演奏ができるようになる。楽譜の成り立ちを理解し、自己のピアノ演奏について振り返ることが出来るようになることを目的とする。									
到達目標		1. 楽譜の正しい読み方を学ぶ。 2. 楽譜をよく理解し、ピアノ演奏が出来るようになる。 3. 自己の改善点が理解できるようになる。									
授業の概要		個人指導で受講する。楽譜の読み方を学びよく理解した上で楽譜通りのピアノ演奏が出来るよう、学ぶ。また、実技小テスト前は、基本事項等の確認のため、学生同士の演奏や模範演奏を聴いて相互評価を行う。実技の小テスト及び筆記テストでは、一斉授業になる。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1. 授業の主旨・目的・概要の説明 2. 楽譜の読み方(1) 3. 課題曲 No12、13、20、23			9	個人指導 1. 楽譜の読み方(8) 2. 課題曲 No85、92						
2	個人指導 1. 楽譜の読み方(2) 2. 課題曲 No29、31、37			10	個人指導 1. 楽譜の読み方(9) 2. 課題曲 No92、75						
3	個人指導 1. 楽譜の読み方(3) 2. 課題曲 No48、44、52			11	個人指導 1. 楽譜の読み方(10) 2. 課題曲 No75、80						
4	個人指導 1. 楽譜の読み方(4) 2. 課題曲 No66、55			12	個人指導 1. 楽譜の読み方(11) 2. 課題曲 No80、81						
5	個人指導 1. 楽譜の読み方(5) 2. 課題曲 No61、72			13	個人指導 1. 楽譜の読み方(12) 2. ブルグミュラーの選曲 3. 課題曲の復習及び予備の練習曲 No79、83、84 等						
6	個人指導 1. 楽譜の読み方(6) 2. 課題曲 No72 3. 課題曲の復習 と相互評価			14	個人指導 1. 楽譜の読み方(13) 2. ブルグミュラーの選曲 3. 課題曲の復習と相互評価						
7	1. バイエルの実技小テスト ① 2. 筆記小テスト 拍子、音符、調性等を問う			15	1. バイエルの実技小テスト② 2. まとめ						
8	個人指導 1. 楽譜の読み方(7) 2. 課題曲 No74、85										
試験・評価		授業内で行う2回の実技小テスト70%(①30%・②40%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。									
テキスト		「標準バイエルピアノ教則本」 全音楽譜出版社									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
ピアノⅡ		1年後期		演習		1		卒業必修		原 浩美・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○				
授業の目的		ピアノⅠの成果を踏まえ、更にピアノ演奏の基礎技術と、表現の向上を目指す。ピアノに、特にブルグミュラー25の練習曲では、楽曲の構成や情緒を感じ、音で伝える表現力を身につけることをノⅡでは、楽譜を正しく読む力を深め、楽譜上の表現記号に配慮した演奏を学ぶ。表現の多様さを理解することを目的とする。									
到達目標		1. 楽譜上の表現記号を理解し、その多様さを知ることができるようになる。 2. 表現記号の多様さを理解し、それを演奏できるようになる。 3. 「ブルグミュラー25の練習曲」より選曲し、音楽性を引き出す表現活動ができるようになる。									
授業の概要		個人指導で受講する。実技小テストでは一斉授業となる。ピアノⅠから引き続き楽譜を正しく理解する力を付け、表現力に重点を置いた演奏法を学ぶ。「ブルグミュラー25の練習曲」より1曲を選び、場合によっては暗譜演奏し、「自己の演奏を注意深く聴く演奏」を体験する。さらに相互評価をすることで音楽的感性を育てる。									
授業計画											
1	個人指導 1. 楽譜の読み方(1) 2. 課題曲 No86、ブルグミュラー	9		個人指導 1. 楽譜の読み方(8) 2. 課題曲 No97、ブルグミュラー							
2	個人指導 1. 楽譜の読み方(2) 2. 課題曲 No88、ブルグミュラー	10		個人指導 1. 楽譜の読み方(9) 2. 課題曲 No99、ブルグミュラー							
3	個人指導 1. 楽譜の読み方(3) 2. 課題曲 No91、ブルグミュラー	11		個人指導 1. 楽譜の読み方(10) 2. 課題曲 No101、ブルグミュラー							
4	個人指導 1. 楽譜の読み方(4) 2. 課題曲 No93、ブルグミュラー	12		個人指導 1. 楽譜の読み方(11) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー 3. 予備の練習曲 No98、100 等							
5	個人指導 1. マーチの実技小テスト① 2. 楽譜の読み方(5) 3. 課題曲 No94、ブルグミュラー	13		個人指導 1. 楽譜の読み方(12) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー 3. 相互評価							
6	個人指導 1. 楽譜の読み方(6) 2. 課題曲の復習 3. ブルグミュラー	14		1. バイエルの実技小テスト③ 2. ブルグミュラー							
7	個人指導 1. 楽譜の読み方(7) 2. 課題曲の復習と相互評価 3. ブルグミュラー	15		1. ブルグミュラーの実技小テスト④ 2. まとめ							
8	1. バイエルの実技小テスト②と筆記テスト 2. ブルグミュラー										
試験・評価		授業で行う4回の実技小テスト80%(各20%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢10%で総合評価する。									
留意事項		爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。									
テキスト		「標準バイエルピアノ教則本」 全音楽譜出版社、「ブルグミュラー25の練習曲」 全音楽譜出版社									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
ピアノ演奏法		2年前期		演習		1		卒業選択 資格選択必修		原 浩美・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○	○			
授業の目的		ピアノⅠ・Ⅱで基礎的な技術を身につけた上で、保育の現場に活かせるような様々なジャンルの楽曲を演奏し、表現力を身につける。1～5回では教育実習で要求される幼児音楽を演奏する。6回以降は自由曲を1曲選択し各々の演奏表現の向上を図る。それに加え簡単な伴奏付と初見奏を身につける。									
到達目標		1. 実習で弾く幼児音楽の雰囲気をつかみ、止まらずに弾き歌いができるようになる。 2. 選択したピアノ曲の理解が深まり、表現豊かに演奏できるようになる。 3. 簡単な伴奏付と初見奏ができるようになる。									
授業の概要		前半は、教育実習で弾く幼児の歌を準備・練習することから入る。実習後は、保育者として要求されるピアノ演奏をイメージしてその表現力をさらに深めることに主眼を置き学習する。それには、子どもに馴染みが深く喜ぶ楽曲を選択し実演することで、保育する場合のイメージを具体化し活かすことを学ぶ。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1. 授業の説明 2. 幼児音楽の選曲	9		個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(3)							
2	個人指導 1. 実習に活かす幼児音楽(1) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏	10		個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏について							
3	個人指導 1. 実習に活かす幼児音楽(2) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	11		個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(1)							
4	個人指導 1. 実習に活かす幼児音楽(3) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	12		中間発表会 1. 各自の選択曲を演奏し、相互評価をする							
5	個人指導 1. 実習に活かす幼児音楽(4) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	13		個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(2)							
6	個人指導 1. 選択曲(クラシック、ディズニー、ジブリ等より教師と相談の上選曲する) 2. 簡単な伴奏付について	14		個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(3)							
7	個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(1)	15		実技小テストとまとめ							
8	個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(2)										
試験・評価		実技小テスト60%、伴奏付・初見奏20%(各10%)、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		爪を切り、出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行う。伴奏付・初見奏を採点し、次週の授業で振り返り演奏法をチェックして総評を行う。									
テキスト		「新・子どもの歌200」チャイルド社、「こどものうた名曲大全集」デプロ、「宮崎駿スーパーヒット曲集」オンキョウ、「日本の子どもの歌」音楽の友社等から選ぶ。									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
器楽合奏		2年前期		演習		1		卒業必修		椎山 克己	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					○	◎					
授業の目的		本科目では、保育現場において行われている幼児を対象とした合奏やマーチングの指導に必要な知識、並びに技術を習得することを目的とする。具体的にはパーカッションの奏法、リズム奏の創作、カラーガードの操法および合奏技術について、その知識・技術を習得する。									
到達目標		1. 保育で使われるパーカッションの奏法、カラーガードの基本的操法を習得する。 2. 基本的なリズムの構造について理解し、リズムフレーズの創作ができるようになる。 3. 合奏やマーチングの指導に関する知識を習得する。									
授業の概要		保育で用いられるリズム奏や器楽合奏を行う中で各楽器の奏法、合奏の指導方法を学び、カラーガードについても実際の創作演技を通してフラッグの操法を習得する。また、基本的なリズムの構造を学び、幼児に向けたリズム奏の創作を通して理解を深めて行く。									
授業計画											
1	器楽合奏の基礎知識 1. 授業オリエンテーション 2. 保育現場で行われている楽器を使った保育内容			9	リズムフレーズの創作 1. リズムフレーズの作り方 2. 自作したリズムを用いた合奏 3. 課題の提示						
2	カラーガードの操法Ⅰ 1. カラーガードに関する基本的知識 2. フラッグの基本的な操法			10	小テスト リズム奏の実技テスト						
3	カラーガードの操法Ⅱ 1. フラッグの様々な操法 2. 振り付けの創作方法			11	合奏Ⅰ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント						
4	カラーガードの振り付けⅠ 1. 子どもを対象とした振り付け 2. 振り付けの創作			12	合奏Ⅱ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント						
5	小テスト 1. カラーガード演技の実技テスト (グループごとに発表会形式で行う)			13	合奏Ⅲ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 各々の楽器のリズムフレーズの使い方						
6	パーカッションの奏法Ⅰ 1. スティックやマレットの持ち方、ストロークの方法 2. 簡単なリズム奏、小テストの課題提示			14	合奏Ⅳ 課題提出日 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 課題の提出						
7	パーカッションの奏法Ⅱ 1. 基本的なリズムパターンを使ったリズム奏 2. パーカッションの各楽器の奏法			15	合奏Ⅴ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 提出課題の合奏						
8	リズムに関する基礎知識 1. 基本的なリズムの構造 2. リズム奏の創作方法										
試験・評価		講義中に行う実技テスト(30%×2)、課題作品(30%)に受講態度(10%)で総合評価する。									
留意事項		2回～5回は体を動かすため、動きやすい服装(体操服等)で受講すること。									
準備学習 (予習・復習等)		カラーガードとリズム奏は必ず個人・もしくはグループで放課後等に練習を行い、操作を確実に習得しておくこと。また合奏の際には事前に楽譜を読んでおくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出作品は添削を行い、最終回に返却する。その際に、いくつかの作品を実際に合奏し、総評を行う。									
テキスト		「保育にいかすマーチング曲集」、「保育にいかす器楽合奏曲集」 椎山克己 権歌書房									
参考書等		「マーチングバンド・バントワーリング指導書」 上・下巻 日本マーチングバンド・バントワーリング協会									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
基礎造形Ⅰ		1年前期	演習		1	卒業必修 免許必修・資格選択必修		櫻井 晋伍	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						◎			○
授業の目的		美術を通じた教育は、心理面、情緒面を含んだ総合的な人間形成のために重要な役割を果たす。本授業では、幼児教育において必要な、造形に関する基礎的な知識や技術を身に付ける事を目的とする。 さまざまな材料、技法に触れながら、造形が楽しく有意義であることに理解を深める。							
到達目標		1. 造形の基礎となる、素材の知識および表現技法を習得する。 2. 造形教育の意義と、それを支える概念を理解する。 3. 将来の造形教育に必要な、指導技術の基礎を習得する。							
授業の概要		美術・造形に関する知識や技術を身につけるために、実践的な作品制作を行う。発想力や構想力を養い、将来の造形指導の基盤となる技能を身に付ける。 様々な造形素材・描画材料・技法素材に触れる事を通して、その性質を理解する。							
授業計画									
1	ガイダンス 授業説明 (ビデオ・スライド等の視聴覚機材を用いた講義は、初回以外にも、必要に応じて行う。)			9	さまざまな表現テクニック①（デカルコマニー、スパッタリング、マーブリング等）水や物理法則を用いた技法等より幅広い表現の可能性を探る				
2	「幼児期の絵画」 発達段階と、幼児絵画の関係を見る			10	さまざまな表現テクニック② (にじみ、スタンピング等)偶然性から生まれる美について理解し造形教育の幅を広げる				
3	「記憶と表現」 記憶と認識 固定概念と人間形成について学ぶ			11	さまざまな表現テクニック③ (出来た物は後期コラージュに一部利用する)				
4	壁面制作① 壁面制作の技法・構成・発案などの基本			12	「文字と記号」 言語と思考の関わりから教育の可能性を探る				
5	壁面制作② 図案と切り紙等の応用技法			13	「切り紙・ペーパーアート」 色紙を「折る・切る・曲げる」などの基本を学び、さらに構成力を持たせた装飾的模様を作る。				
6	風景スケッチ 基礎的な素描の方法を学び、スケッチを行う			14	「紙立体・ポップアップカード制作①」 立体構成、ポップアップカードの原理を学ぶ				
7	粘土造形① 紙粘土等で立体造形を行う。三次元での基礎的な造形感覚を養う			15	「紙立体・ポップアップカード制作②」 構造的なものの作りに対する理解、「切る・折る・組む」などの基本				
8	粘土造形② 彩色を施し、色彩と形態の関係について学ぶ								
試験・評価		提出物60%、基礎評価(受講態度等)40%で総合評価する。							
留意事項		日常より美術書・画集等を読み、美術館等に足を運び美術に触れることを心がける。							
準備学習 (予習・復習等)		授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。						必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。							
テキスト		授業中にプリントを配布する。							
参考書等		「芸術による教育」ハーバート・リード著 フィルムアート社							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
基礎造形Ⅱ		1年後期		演習		1		卒業必修 資格選択必修		櫻井 晋伍	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎			○		
授業の目的		基礎造形Ⅰの成果を踏まえ、更なる基礎技術・能力の向上を目指す。 心理や情緒性と結びついた表現技法を学び、感性を豊かにし、様々な実技制作を実践しつつ造形に関する理解を深める。 指導者として必要な応用力と創造性を身に付ける。									
到達目標		1. 造形の基礎となる、素材の知識および表現技法を習得する。 2. 造形教育を行う意義と、それを支える概念を理解する。 3. 将来の造形教育に必要な、指導技術の基礎を習得する。									
授業の概要		美術・造形に関する知識・技術を身に付けるために、実践的な作品制作を行う。発想力や構想力を養い、 基礎的な表現技法を学ぶ事で、造形教育の基礎となる技能を身に付ける。 現場で用いられることの多い身近な素材を用いて、表現の可能性や表現方法を探る。									
授業計画											
1	ガイダンス 授業説明 (ビデオ・スライド等の視聴覚機材を用いた講義は、初回以外にも、必要に応じて行う。)			9	「折り紙制作」 季節ごとのお花の折り紙の作り方を学ぶ						
2	「色彩」の基本 我々の心理にも関わりのある色彩の世界を探り、その効果を利用した教育の可能性を考える			10	「クロッキー」 基礎的な素描の技法を用いて、友人の似顔絵を描く						
3	「自然から学ぶ」 自然と人との繋がりを考え、それを絵画表現に結び付け、教育に生かすことを学ぶ			11	リサイクルアート① 家庭から出るごみ・不用品・廃棄物を再利用する制作						
4	「メディアとコミュニケーション」 現代で大きな影響力を持つ情報メディアと教育について、美術の視点から考える			12	リサイクルアート② 環境や消費社会、地域社会を考え、制作に結びつける						
5	「身体を使って」 アクションペインティング・ドローイング 身体で表現する絵画から、幼児期に重要な身体性について考える			13	リサイクルアート③ 素材の性質を生かす為の発想力、構想力を養う						
6	コラージュ作り① 雑誌等の切り抜き及び様々な紙質・絵肌(マチエール)の材料を用いた平面構成			14	リサイクルアート④ 身近で安価な素材を用いて、オブジェ・玩具・日用品等を制作する						
7	コラージュ作り② 様々な色調の効果を生かした構成力を養う はさみやカッター等の扱いを覚える			15	リサイクルアート⑤ 素材を加工し、質感や形態を利用する造形能力を養う						
8	「キャラクターを作ろう」 デフォルメ・形式化表現について学ぶ “かわいさ”とは何か										
試験・評価		作品提出物60%、基礎評価(受講態度等)40%で総合評価する。									
留意事項		日常より美術書・画集等を読み、美術館等に足を運び美術に触れることを心がける。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。							必要時間:45分		
課題の フィードバック		提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。									
テキスト		授業中にプリントを配布する。									
参考書等		「チゼックの美術教育」 W. ヴィオラ著 黎明書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
体育		2年前期		演習		1		卒業必修 免許必修・資格選択必修		新井 真実	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎		○		○		
授業の目的		保育者の心と身体の「しなやかさ」は、子どもたちが安心して身体活動を行うための、かけがえのない環境となる。本授業では、子どもの生き生きとしたからだづくりを援助する、からだあそびの基礎的な知識とレパトリーを習得する。また、自身の身体意識を高め、からだを通した周囲とのコミュニケーション能力を養う。									
到達目標		1. 自己の身体と向き合う楽しさ、仲間の身体を感じる喜びを味わう。 2. からだあそびのバリエーションに触れ、レパトリーを習得すると共に、アレンジの方法を学ぶ。 3. 子どもたちの身体能力の目覚め、動きの発見を促す、効果的な働きかけ・言葉かけを身につける。									
授業の概要		各回テーマに沿ったからだあそびやリズム運動のバリエーションに触れ、子どもの育ちに視点を置きながら体験することで、理論と実践の両面から体得していく。まとめのグループワークでは、グループ毎の課題について模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。									
授業計画											
1	オリエンテーション ―授業内容概要、評価方法等の説明			9	素材を用いたからだあそび ―身近な素材を利用し、特性を生かした動きの発見・発展						
2	アイスプレイキング ―自己紹介ゲーム、他己紹介ゲーム			10	手具を用いたからだあそび ―手具を利用し、特性を生かした動きの発見・発展						
3	ストレッチ ―柔軟性向上、美しい姿勢の維持、リラクゼーションの為に			11	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン① ―ステップワークを中心に						
4	コミュニケーションを楽しむからだあそび ―表情・視線・身振り・相手との距離に着目して			12	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン② ―コンビネーションを中心に						
5	手あそびうたを使ったからだあそび ―身近な手あそび歌からの発展を楽しむ			13	グループワーク① ―課題の確認と計画づくり						
6	わらべうたを使ったからだあそび ―伝統的なわらべうたを使ったあそびの魅力を探る			14	グループワーク② ―発表準備						
7	じゃんけん・鬼ごっこを使ったからだあそび ―ポピュラーあそびを、より豊かにアレンジ			15	グループワーク③ ―最終確認 実技試験						
8	輪になって楽しむからだあそび ―輪(サークル)の隊形の特性を生かして										
試験・評価		受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%原則とし、総合評価する。									
留意事項		腕時計・アクセサリー類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。									
準備学習 (予習・復習等)		取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を発展させること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点、総評を行う。									
テキスト		プリント資料									
参考書等		授業内で適宜紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
言語表現		1 年前期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		川俣 沙織	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎			○		
授業の目的		本科目は、幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目に位置づけられる。 本科目は、小学校国語科の内容である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について学び、幼児教育・保育と国語科指導における幼児・児童への指導・援助についての理解を深める科目である。また、幼稚園教諭・保育士として必要とされる基礎的な国語力を獲得することも併せて目的とする。									
到達目標		1. 小学校国語科の内容を踏まえ、幼児期から小学校への学びの連続性について説明できる。 2. 日本語の歴史と現代日本語の概観を理解し、説明することができる。 3. 幼稚園教諭・保育士として必要とされる基礎的な国語力を有している。									
授業の概要		小学校国語科の目標及び内容、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」としての国語の歴史と国語の概観について学び、その上で「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の実際を詳しく学ぶ。 さらには実践的言語コミュニケーションの実態や児童文化財の実演についても扱う。									
授業計画											
1	オリエンテーション (授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明)			9	「書く」こと① (文字、表記、修辞法の実際)						
2	「国語」とは① (国語の歴史)			10	「書く」こと② (書き言葉の実際①)						
3	国語とは② (国語の文字・音声・語彙・文法・文章・敬語・言語行動・方言①)			11	「書く」こと③ (書き言葉の実際②、メールなどの新たな情報伝達ツール)						
4	国語とは③ (国語の文字・音声・語彙・文法・文章・敬語・言語行動・方言②、世界の中の日本語)			12	「読む」こと① (絵本・紙芝居・素話などの児童文化財を用いた言語活動と小学校国語科・読書活動との接続②)						
5	国語とは④ (学校教育と国語、幼児教育・保育と小学校教育の接続)			13	「読む」こと② (絵本・紙芝居・素話などの児童文化財による受容遊びと小学校国語科・読書活動との接続③)						
6	「話す」こと・「聞く」こと① (口承文学としての神話・説話)			14	「読む」こと③ (絵本・紙芝居・素話などの児童文化財による受容遊びと小学校国語科・読書活動との接続④)						
7	「話す」こと・「聞く」こと② (絵本・紙芝居・素話などの児童文化財を用いた言語活動と小学校国語科・読書活動との接続①)			15	まとめ						
8	「話す」こと・「聞く」こと③ (話し言葉の実際、方言)										
試験・評価		受講態度25%、提出物45%、小テスト30%で総合評価する。									
留意事項		提出物・小テストはすべて評価の対象とする。									
準備学習 (予習・復習等)		次回授業内容に関わる課題を課すことがある。また、授業のふりかえりにあたる課題を課すことがある。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		小テストは採点し、次週の授業で返却し総評する。レポートは採点し、次週(あるいはそれ以降)の授業で返却し、総評を行う。									
テキスト		なし(適宜資料を配布)									
参考書等		文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」 日本文教出版									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育原理		1年前期		講義		2		卒業必修 資格必修		森光 義昭	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			○				○	◎			
授業の目的		保育に関する基礎理論を学習する。保育に関する思想・歴史・制度・内容・方法・計画の基礎理論を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。幼児教育入門の役割も果たす。この授業の中で、①自分なりの保育観・子ども観を養う、②自分なりの保育スタイルの創造、③自分なりの研究的精神の涵養、を目指す。									
到達目標		1. 代表的な子ども観を説明することができ、自分の子ども観と教育観を表現することができる。 2. 幼稚園・保育所・認定こども園の役割や制度を理解し、自分自身の資質・適性を理解することができる。 3. 保育者に必要な知識を学び、保育者に必要とされる態度・使命・責任について省察することができる。									
授業の概要		①保育の意味等の基礎知識、②保育の基本原則(内容・方法・計画に関わる7項目)、③保育の歴史と制度(幼稚園・保育所・認定こども園等)、④子どもの発達の原理、以上の順で講じる。そのなかで、なぜ「一人ひとりの子どもを大切に保育」「一日いちにちを大切に保育」が必要なのかを学生自身に考えてもらう。									
授業計画											
1	本科目の導入と授業計画 1.教職とは何か 2.社会における仕事 3.社会人とは何か			9	保育者に求められるもの 1.求められる人間関係 2.コミュニケーション能力 3.現場で求められる人材						
2	保育の意味 1.人間の徳性 2.教育と保育 3.子育てと保育			10	保育とカリキュラム 1.カリキュラムの意味 2.教育課程の意義 3.指導計画作成の手順						
3	子どもを取り巻く環境 1.時代の変化と子ども 2.保護者の子育て意識 3.保育と家庭支援			11	保育の方法 1.保育方法の意義 2.保育における遊び 3.幼稚園教育要領のポイント						
4	集団保育施設の現状 1.施設の成立 2.施設の課題 3.施設の問題点			12	保育の形態 1.保育形態の要因 2.集団保育の意義 3.活動の分類						
5	保育に関する理論 教育思潮 2.主体者としての子ども観 3.経験主義教育			13	保育の評価 1.評価の意義 2.評価の実際 3.評価を保育に生かす方法						
6	保育の制度と歴史 1.初期の保育制度 2.戦後の保育制度 3.現代の保育制度			14	保育の技術 1.感性を育てる 2.言葉かけ 3.保育と子育て						
7	保育の内容と活動 1.保育の内容 2.幼稚園教育要領 3.保育の活動			15	保育の展望と課題 1.これからの保育 2.子育て支援 3.時代の変化に対応した保育						
8	幼児の発達と学習 1.成長と発達 2.子どもの発達 3.成熟と学習										
試験・評価		単位認定試験30%、ノート25%、レポート25%、授業態度20%で総合評価する。									
留意事項		スクリーン上の文字のみならず、講義内容や自分の考えもメモをとること。									
準備学習 (予習・復習等)		実習の事前においては常に保育現場を想定し、事後は自分の活動と結び付けること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		毎時、学習課題を提示し、レポートを提出し、それを添削し、次時の授業で総合的に解説を加える。									
テキスト		適宜授業で活用する授業資料や課題プリント等を配布する。									
参考書等		「保育原理」 上野恭裕 保育出版社 2010									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
児童家庭福祉		1年後期		講義		2		卒業必修 資格必修			
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			○	○			○	◎			
授業の目的		家族を取り巻く社会的環境の変化がもたらす児童養育への影響を理解し、保育士を目指す学生が権利擁護の視点を持って児童家庭福祉の現状と課題を学び、児童養育中の家庭がかかえる課題に気づき、支援に結び付けていくために必要な基本的知識を習得することを目的とする。									
到達目標		1. 児童福祉の理念を理解し、児童福祉の専門職としての自覚を持てるようになる。 2. 児童と家庭を取り巻く現状を把握する 3. 児童家庭福祉に関する諸制度を理解する									
授業の概要		児童家庭福祉の理念・歴史・課題及び関連施策の体系を全般的に学ぶ。特に、「子ども子育て支援新制度」を中心に現行の制度を中心に解説を行う。講義をさらに深く理解するため、講義内容に関連したビデオや新聞記事などの資料を活用する場合もある。									
授業計画											
1	児童家庭福祉とは何か ・児童(子ども)とはどのような存在か ・児童家庭福祉の目的			9	＊第2回小テスト(第6週から8週までの範囲) 子育て支援サービスと児童の健全育成 ・子ども子育て支援新制度						
2	児童と家庭を取り巻く現状 ・子どもの生活環境の変化 ・子どもの成長や発達をめぐる問題			10	母子保健サービス ・母子保健の理念 ・母子保健サービスの実施と体系						
3	子どもの権利 ・子どもの権利飛翔の歴史 ・わが国の子どもの権利保障			11	保育サービス ・保育所と待機児童 ・保育サービスの実際と課題						
4	児童家庭福祉の歴史① ・イギリスの児童福祉 ・アメリカの児童福祉			12	＊第3回小テスト(第9週から11週までの範囲) 社会的養護 ・社会的養護と代替的養護						
5	児童課程福祉の歴史② ・日本の児童福祉			13	障がいのある子どもの福祉 ・新たな福祉観と「障がい」観 ・障がい児への福祉施策						
6	＊第1回小テスト(第1週から5週までの範囲) 児童福祉の制度と法体系① ・児童福祉法			14	情緒障がい・少年非行問題 ・情緒障がいとは、要因と背景、対応 ・非行の要因と背景、対応						
7	児童福祉の制度と法体系② ・児童家庭福祉に係る法律			15	児童家庭福祉専門職間における連携 ・様々な専門職 ・連携の重要性と課題						
8	児童家庭福祉行財政と実施機関 ・行政機関、審議機関、財政と費用負担 ・児童福祉施設及び事業										
試験・評価		3回の小テスト30%、受講態度20%、試験50%で総合評価する。									
留意事項		授業中にプリントや新聞記事のコピーなども教材として配布するので、紛失しないよう保管すること									
準備学習 (予習・復習等)		事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、授業で理解できなかった点があれば復習して理解するか、オフィス・アワーで質問し解決しておくこと。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		授業内で実施した3回の小テストは、次週の授業で返却し総評を行う。									
テキスト		「保育と児童家庭福祉」 櫻井奈津子他 みらい									
参考書等		「データで読む平成期の家族問題」 湯沢雅彦 朝日選書									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
社会福祉論		1年前期		講義		2		卒業選択 資格必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			○				○	◎			
授業の目的		少子・高齢化の進展のもと、社会福祉の公私にわたる政策、制度、実践の状況は変化しつつあり、その現状を基盤とした社会福祉全般の把握を通してその意義、位置づけ、必要性に関し理解を深める。以上の理解のもと、サービス利用者の主体的活用への在り方を修得する。									
到達目標		1. 「生存権保障」の理念に基づく「公的責任」について把握する。 2. 公私にわたる社会福祉事業の現状についての知識を深める。 3. 社会福祉事業の対象(全国民への広がり)について把握する。									
授業の概要		現代社会における社会福祉サービスについての正しい理解に関して、成り立ちからの道筋及び現行制度、サービス内容の返遷・現状等の全般及び諸分野ごとの認識を深める。併せて、福祉関連機関・業務内容・専門職員の位置づけ、財政基盤等について理解する。									
授業計画											
1	社会福祉の現状 社会福祉に関する基本的視点を通し、正しい理解及び現代的意義を学ぶ。			9	社会福祉法制及び実施体制 現代の社会福祉の法律体系とそれに基づく実施体制（機関、職員、事業内容等）について学ぶ。						
2	社会福祉と関連制度・施策 国民生活の安定に向けた社会福祉をとりまく関連諸制度、施策の状況について学ぶ。			10	社会福祉援助技術とは何か 社会福祉専門職が活用する専門技術に関する基礎を学ぶ。						
3	社会福祉の今日までの道筋(展開・変遷)を理解し、今日的意義について学ぶ。 (1)古代社会～昭和20年までの動向			11	社会福祉に関する諸分野の目的、対象、発展過程、現状、課題等について学ぶ。 (1)地域福祉 (2)高齢者福祉 (3)障害者福祉 (4)子ども・家庭福祉 (5)生活困窮者の福祉						
4	(2)現代社会～昭和20年以降の動向 推移・現状・問題点等。			12							
5	(3)少子高齢社会の進展のもとでの制度、施策の現状 推移・現状・問題点等。			13							
6	(4)欧米における今日までの動向の理解 ・ 英国における歴史的展開 ・ 米国における歴史的展開			14	サービス利用者からみた制度 今日的テーマとしての社会福祉サービス利用者にとっての主体的活用を支える制度の概要を学ぶ。						
7	社会福祉体系化の再認識 日本の社会福祉の生成～今日までの道筋を再確認し、その特質を学ぶ。			15	まとめ及び補足説明による全般的理解の修得 質問・疑問に答える。						
8	社会福祉事業の財政 社会福祉事業の実践の基盤的支えである財源に関し学ぶ。										
試験・評価		筆記試験80%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		積極的受講による理解の一環として、疑問、質問は授業中においても随時受け付ける。									
準備学習 (予習・復習等)		授業内容の復習を通して、正しい理解に努めること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック											
テキスト		「社会福祉」 吉田眞理著 青踏社									
参考書等		「児童福祉六法」 児童福祉法規研究会 中央法規									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
相談援助		2年後期		演習		1		卒業選択 資格必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○		○	◎			
授業の目的		園児の保護者をはじめとする保育所をとりまく地域社会の子育て家庭への支援の必要性に伴い、保育士の専門性として、児童の保育・養護と併せ、相談援助に関わる実践力の修得に向け、意義、原則、さらに実際について理論との関連を通して理解を深める。									
到達目標		1. 相談援助への臨む姿勢を身につける。 2. 子育てに家庭をとりまく社会状況について理解を深める。 3. 保育所、児童福祉入所施設における事例を通して保育士としての専門性を高める一助とする。									
授業の概要		個別援助技術に関する概要の正しい理解を土台として、その実際場面への応用展開。すなわち相談援助のより良き在り方に関し、現場での事例をもとに相談利用者の視点を含め、演習形式での修得をはかることを通して、保育士としての専門性を深める一助とする。									
授業計画											
1	保護者に対する相談援助の意義と原則について人権視点を含め学ぶ。			9	(1)意義 (2)必要性 (3)面接 (4)記録						
2	保護者に対する相談援助の実際 保護者支援に向け、その内容、方法、技術及び計画、記録・評価等を学ぶ。			10	相談援助・保育とソーシャルワーク 位置づけ・関連・応用等を学ぶ。						
3	社会福祉に関する専門性 実践の意義、目的、方法の概容及び実践に臨む基盤としての専門性、人間性について学ぶ。			11	事例研究 事例をもとに、個別援助技術の実践への適用に関し、グループ別話し合い、発表、意見交換を通じて修得する。						
4	個別援助技術の現代的意義 現代社会の複雑化に伴い、その必要性が増している個別援助技術について、社会状況との関連のもとその意義を学ぶ。			12	保育所における応用 児童、保護者、家庭に向けた保育所における個別援助技術の適用について修得する。						
5	個別援助技術の発展、体系化 個別援助技術が社会福祉援助技術として、確立し体系化へ至る道筋を学ぶ。			13	児童福祉施設における応用 (1)児童福祉入所施設における入所児童への個別援助技術の適用について修得する。						
6	個別援助技術の基本原則(相談援助の理論と実際) 基本原則に則った専門職としての位置づけについて、保育職との関連のもと学ぶ。			14	(2)入所児童の保護者、家庭への個別援助技術の適用について修得する。						
7	個別援助技術の適用範囲 社会福祉援助技術が活用されている機関、施設などの状況及び位置づけの理解を通し、保育職への応用を学ぶ。			15	まとめ及び補足説明による全般理解の修得。 質問・疑問に答える。						
8	社会福祉援助技術の保育者の活用(応用) 社会福祉援助技術に関する以下の項目の理解、確認のもとに保育者の活用展開について2週にわたり学び、修得する。										
試験・評価		筆記試験80%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		双方向授業の一環として、疑問、質問への随時応答を基本に進めるので、積極的受講を心がける。									
準備学習 (予習・復習等)		授業内容の復習のもと、実践への礎としていくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック											
テキスト		「相談援助」 伊藤嘉余子著 青踏社									
参考書等		「2015 目で見える児童福祉」 こども未来財団									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
社会的養護		1年前期		講義		2		卒業選択 資格必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○				◎			
授業の目的		子どもと家庭を取り巻く環境の変化を受け、養護問題が多様化している現在、社会的用語の意義や必要性が強調されている。現代社会における社会的用語の意義、理念と基本原理、体系、社会的養護を必要とする子どもの心理的ケアや保護者支援の必要性について学習し、社会的養護の中心を担う児童福祉施設の保育士には独自の役割と専門性があることを認識する。									
到達目標		1. 近年の養護問題の特徴を学び、現代社会における社会的養護の意義について知識を習得する。 2. 子どもの権利擁護、自立支援、家族関係の再構築等の基本原理や社会的養護の体系について知識を習得する。 3. 社会的養護における保育士の役割と専門性や自立支援の必要性について理解し、説明できるようになる。									
授業の概要		テキストや配布資料を使用した講義を中心とし社会的養護に関する知識の習得を目指す。授業中に出題するレポート課題の考察を通して社会的養護の中心を担う保育士の支援の専門性や基本的な技術、社会的養護の意義や基本原理について学生が自身で主体的に考えられるようになることを目指す。									
授業計画											
1	児童家庭福祉と社会的養護 児童福祉から児童家庭福祉への転換について、子どもと家庭を取り巻く環境の変化から学ぶ。			9	社会的養護の制度・施策 社会的養護に関係する法律や制度を学ぶ。						
2	近年の養護問題の特徴 現代の社会環境の変化がもたらす養護問題の特徴について学ぶ。			10	社会的養護の体系 社会的養護のしくみや種類、実施体制を学ぶ。						
3	現代社会における社会的養護の意義① 「子育ての社会化」と社会的養護について学ぶ。			11	施設養護の特質と基本原則 施設養護の基本的な役割や支援過程、方法等を学ぶ。						
4	現代社会における社会的養護の意義② 今後推進される社会的養護の基本的方向性について学ぶ。			12	施設養護の実践① 児童養護系施設の種類と目的、支援内容と課題等を学ぶ。						
5	自立支援 社会的養護における自立支援の必要性について学ぶ			13	施設養護の実践② 障がい児系施設等の種類と目的、支援内容と課題を学ぶ。						
6	社会的養護において保育士に求められる視点 専門職としての保育士の役割と専門的アプローチについて学ぶ。			14	家庭(的)養護の特質と基本原則 家庭(的)養護の基本的な役割や支援過程・方法等を学ぶ。						
7	保育士とソーシャルワーク 社会的養護におけるソーシャルワークの必要性、ソーシャルワークの基本原則等を学ぶ。			15	これからの社会的養護 今後に期待される社会的養護の支援体制等について学ぶ。						
8	子どもの権利擁護 現代社会において児童の権利とはどのような意味を持つのかを学ぶ。										
試験・評価		筆記試験70%、レポート課題20%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		意欲的に取り組むこと。ノートを各自持参すること。授業中の携帯電話の使用は禁止する。									
準備学習 (予習・復習等)		学習した内容を復習し、次回学習する内容はテキストを読んでおく。理解しづらい点はピックアップしておき、授業中に質問するなどして理解する。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック											
テキスト		「社会的養護の原理」 櫻井奈津子編著 青踏社									
参考書等		授業の中で適宜紹介する。									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
保育の心理学		2年前期	演習		1	卒業必修 資格必修		池田 可奈子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○	
授業の目的		子どもは一人ひとり、心身の発達の様相や興味・関心が異なる。個々の子どもたちをどのように理解するかにより、その後の保育や教育におけるかかわり方が大きく左右される。そのことをしっかり理解し、生活や遊びの中で子どもの行動や心理をとらえる具体的な知識や方法、また発達援助の在り方について学習する。							
到達目標		1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。 3. 保育における発達援助について学ぶ。							
授業の概要		発達心理学で学んだ子どもの発達に関する知識を深め、実践的理解へと広げていくために、保育現場の映像や遊びの実践、保育事例の検討を積極的に行う。そうした演習課題を通して、子どもの行動を理解し、援助していく視点を養う。さらに、グループ討議等を通して学生同士で互いに学ぶ姿勢を育み、協働で働く大切さを学ぶ。							
授業計画									
1	子どもの発達と保育実践 子どもを理解するとはどのようなことかについての視点を整理する。			9	行動観察を通して見る子どものこころ③ 保育の日常場面の観察を通して、子どもの気持ちを推測する方法について学ぶ。				
2	保育実践と指導① 活動への動機づけ(モチベーション)の理論について学習する。			10	遊びを通した学びの過程① 遊びと学びの関係について理解する。				
3	保育実践と指導② 指導の形態について学習し、学びの場面設定の工夫について考える。			11	遊びを通した学びの過程② 保育実践の遊びを通して、子どもの発達する側面について考える。				
4	保育実践と指導③ 学級集団の成り立ちや崩壊の危機等について学習し、クラス運営について考える。			12	保育における発達援助① 事例研究の意義について学ぶ。				
5	保育実践と指導④ チームワーク理論について学び、保育における協同とは何かについて考える。			13	保育における発達援助② 課題分析を通して子どもの基本的な生活習慣の発達の評価方法について学ぶ。				
6	保育実践と指導⑤ 発達援助における協同の姿勢について、チームワーク課題を通して学ぶ。			14	保育における発達援助③ 課題分析に基づいた目標設定の仕方及び援助計画の立て方について学習する。				
7	行動観察を通して見る子どものこころ① 子どもの発達を理解するために必要な観察法の理論と実際について学習する。			15	まとめと考察 保育現場で私ができることを考え、レポートにまとめる。				
8	行動観察を通して見る子どものこころ② 幼児・児童理解のための心理検査・発達検査について学ぶ。								
試験・評価		レポート課題30%、授業中の演習課題50%、受講態度20%を総合して評価する。							
留意事項		演習課題に対して常に積極的に関与すること。自分自身で考える姿勢を大切にすること。							
準備学習 (予習・復習等)		授業で配布した資料を読みこみ、授業で学んだ知識の定着をはかること。授業で学んだテーマに関連する時事問題に常に興味を持ち、情報収集を心がけること。							必要時間:45分
課題の フィードバック		授業内で取り組んだ課題は、その場でコメントし、解説する。また、次週以降に提出課題を採点し、授業期間中に返却する。							
テキスト		適宜資料を配付する。							
参考書等		授業の中で適宜紹介する。							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの保健Ⅰ		1年前期		講義		2		卒業必修 資格必修		椎葉 美千代 渡邊 晴美	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎						
授業の目的		子どもの心身の問題、栄養、生活、母子関係、環境、社会の制度や施策などについて学び、現在の子ども達がどのような状況におかれているか、そして今後どのように支援していくかを理解し、知識を修得する。									
到達目標		1. 子どもの生理・運動・精神機能の発達、適切な生活環境が説明できるようになる。 2. 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴について理解する。 3. 「子どもの保健Ⅱ」とあわせ、保育所(園)・幼稚園などでの保育や将来の家庭での育児における実践の準備ができる。									
授業の概要		日常の子どもの保健の実践を主体とし、家庭での育児あるいは保育所(園)・幼稚園などでの保育にあたって参考となるような事項を、テキスト(子どもの保健 巷野悟郎 編 診断と治療社)や、適時配布する補助プリントを利用して学ぶ。									
授業計画											
1	子どもの健康と保健の意義(P1-12) 1. 子どもとは？ 子どもの特徴 2. 子どもの保健の方策			9	子どもの食事① (P67-92) 1. 子どもの栄養の特徴 2. 消化と吸収 3. 人工栄養 4. 離乳						
2	子どもの発育・発達と保健① (P14-23) 1. 子どもの形態的变化			10	子どもの食事② (P67-92) 1. 母乳栄養						
3	子どもの発育・発達と保健② (P21-32) 1. 子どもの身体発育の評価			11	新生児 (P149-156) 1. 新生児の特徴と養護						
4	生理機能の発達と保健 (P33-43) 1. 体温 2. 呼吸 3. 脈拍と血圧 4. 感覚 5. 排泄 6. 睡眠			12	母子保健 (P237-266) 1. 母子保健の現状 2. 母子保健行政						
5	運動機能の発達と保健 (P44-55) 1. 運動機能の発達 2. 原始反射 3. 乳児期・幼児期の運動機能 4. 体力			13	健康と病気 (P157-169) 1. 発育の時期による病気の特徴 2. 症状と看護						
6	精神機能の発達と保健 (P56-64) 1. 言葉 2. 情緒 3. 社会性 4. 精神発達の評価 5. 豊かな心の発達			14	感染症と予防接種(P184-196)						
7	中間のまとめ・評価 (小テスト)			15	事故と応急手当 (P170-183)						
8	子どもの精神保健 (P123-130) 1. 発達障害 2. 子どもの気になる行動 3. 虐待										
試験・評価		中間評価(小テスト)30%、筆記試験60%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		子どもや育児に関連する新聞やニュースに関心を持つことが望まれる									
準備学習 (予習・復習等)		教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 又、授業後はポイントを復習し理解を深めること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		授業で実施した小テストは採点し、採点終了した翌週の授業で返却し総評を行います。									
テキスト		「子どもの保健」 巷野悟郎 編 診断と治療社									
参考書等		授業内で適宜紹介します									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの保健Ⅱ		1年後期		講義		2		卒業必修 資格必修		森谷 由美子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎						
授業の目的		子どもの成長の過程で、よく遭遇する病気を理解し、また子どもが病気になったとき家庭のみならず保育所（園）・幼稚園などでのケア、予防等の参考となるような事項について学び、その実践の準備ができる。									
到達目標		1. 子どもの成長の過程でよく遭遇する病気を理解し、説明できるようになる。 2. 子どもが病気になったとき家庭のみならず保育所（園）・幼稚園などでのケア、予防等を理解する。 3. 「子どもの保健Ⅰ」とあわせ、保育所・幼稚園などでの保育や将来の家庭での育児における実践の準備ができる。									
授業の概要		子どもが病気になったとき家庭のみならず保育所（園）・幼稚園などでのケアの参考となるような事項を、テキスト「お母さんに伝えたい 子どもの病気 ホームケアガイド」（日本外来小児科学会 編著 医歯薬出版株式会社）、「子どもの保健」（巷野悟郎 編 診断と治療社）ならびに補助プリント、スライド、DVD を参考、利用して学ぶ。									
授業計画											
1	子どもの事故防止 1. 事故防止（各年齢のチェックポイント） 2. 応急手当、処置の復習 小テスト①			9	皮膚の病気 1. あせも 2. 水いぼ 3. とびひ 4. じんましん 5. しもやけ 6. しらみ・その他 小テスト③						
2	基本的な家庭でのケア 1. 診察 2. 薬、飲ませ方 3. 熱・解熱剤 4. お風呂 5. 抗菌薬 6. 子どもの精神保健			10	泌尿器、胃・腸・肛門の病気 1. 血尿・蛋白尿 2. 尿路感染症 3. 包茎 4. 腸重積 5. 幽門狭窄症 6. その他						
3	感染症 1 1. EB 2. プール熱 3. インフルエンザ 4. おう吐下痢症 5. 腸炎 6. ウイルス性肝炎			11	骨・関節の病気、その他 1. ろうと胸 2. O 脚・X 脚 3. 肘内障 4. 熱中症 5. 先天性股関節脱臼 小テスト④						
4	感染症 2 1. 耳下腺炎 2. 蟻虫症 3. クループ 4. 細気管支炎 5. 夏風邪 6. 突発性発疹			12	長びく病気、子どもの心身症、発達障害 1. ひきつけ・熱性けいれん 2. てんかん 3. チック 4. おねしょ 5. 学習障害(LD) 6. 自閉症スペクトラム障害(ASD) 7. 注意欠如/多動性障害(AD/HD)						
5	感染症 3 1. はしか 2. 百日咳 3. 風疹 4. ヘルペス 5. マイコプラズマ 6. 水痘 7. その他 小テスト②			13	アレルギー・その他 1. ぜんそく 2. アトピー性皮膚炎 3. 花粉症 4. 食物アレルギー 5. 肥満・貧血 6. その他 小テスト⑤						
6	予防接種と出席停止 1. 予防接種の種類と時期、意義 2. 出席停止期間 3. 感染予防の基礎知識			14	赤ちゃんの病気、その他 1. おむつかぶれ 2. 便秘 3. 夜泣き 4. 目ヤニ・鼻づまり 5. 低出生体重児・早産児 6. 乳幼児突然死症候群(SIDS)						
7	全身の病気 1. リンパ節 2. 紫斑病 3. 川崎病 4. 心雑音・その他			15	まとめテスト						
8	目・耳・鼻・のどの病気 1. 斜視 2. 中耳炎 3. 鼻血 4. 扁桃腺 5. その他										
試験・評価		授業内の小テスト(5回)50%、まとめのテスト40%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		理解度等により授業進度・内容・計画を変更することがある。									
準備学習 (予習・復習等)		予習を行い、理解しづらい点をピックアップしておき、それをもって授業に臨み、理解すること。小テストの復習をして知識を定着させておくこと。								必要時間：3時間	
課題の フィードバック		授業で実施した小テストは採点し、次回の授業で返却、解答及び解説を行う。									
テキスト		「お母さんに伝えたい 子どもの病気 ホームケアガイド」 日本外来小児科学会 編著 医歯薬出版株式会社 「子どもの保健」 巷野悟郎 編 診断と治療社									
参考書等		適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの保健演習		2年前期		演習		1		卒業選択 資格必修		平田 ナツ子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎						
授業の目的		子どもの保健演習は「子どもの保健」において学習した知識・理論を基礎として展開する。そこで本科目では、広く子どもたちが生活する地域社会の中、保育所・幼稚園・児童福祉施設・学校や家庭などの保育・育児・教育の場において実践できる能力を修得する。									
到達目標		1. 子どもの心身の健康増進と安全な発育・発達をうながすための保健活動について理解できる。 2. 子どものかかりやすい病気や遭遇しやすい事故について異常の早期発見と予防法について説明できる。 3. かかりやすい病気や事故時の適切な対応ができ、安全管理についても理解できる。									
授業の概要		子どもの心身の健康増進と安全な発育・発達をうながすための保健活動について学ぶ。そのために子どもにかかりやすい病気や起こりやすい事故等について深め、その予防法と異常の早期発見ならびに適切な対処法について具体的に学ぶ。また安全教育・安全管理についてもグループワーク等を通して深める。									
授業計画											
1	Ⅰ. 「子どもの保健演習」の意義と目的 ・子どもと健康について			9	子どもがよくかかる病気について② 1. よくかかる感染症 2. 感染症の予防 3. 薬の与え方 4. 体調不良時の対応						
2	Ⅱ. 子どもの発達を知る① 1. 成長発達の一般的原則 2. 胎児の発育・胎児の発育に影響する因子 3. 乳幼児の身体発育とその評価			10	Ⅶ. よく起こる事故について 1. 子どもの死因統計 2. 子どもの事故の特徴 3. 安全管理・安全教育						
3	Ⅲ. 子どもの発育を知る② 1. 運動機能の発達と評価 2. 原始反射・粗大運動の発達 3. 精神機能の発達の測定とその評価			11	Ⅷ. いざという時の応急処置について① 1. 子どもの応急処置における留意点 2. 傷病時の応急処置						
4	Ⅳ. 子どもの健康状態を知る 1. 生理的機能の発達、免疫・感覚機能の発達 体温・呼吸・循環・体温調節・免疫・感覚			12	いざという時の応急処置について② 1. 急変時の応急処置 2. 心肺蘇生法の実践						
5	Ⅴ. 日常における養護の方法① 1. 抱き方・おんぶの仕方 2. 食事の与え方 3. 口腔内の衛生			13	Ⅸ. 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について 1. 医療費等の援助 2. アレルギー性疾患等						
6	日常における養護の方法② 1. 衣服の着せ方 2. 排泄のさせ方 3. 沐浴・入浴のさせ方 4. 外出時に注意すること			14	Ⅹ. 子どもの生活習慣について 1. 生活習慣病の予防 2. 肥満とやせ 3. 食生活等 4. 就寝時刻と起床時刻 5. 心身症						
7	子どもの保育環境づくり 1. 施設環境 2. 日常の健康管理等 3. 健康診査			15	ⅩⅠ. 世界の子どもの保健について 1. 子どもの保健の国際協力 2. 日本の子どもの保健の現状 3. 在日外国人の保健の現状						
8	Ⅵ. 子どもがよくかかる病気について① 1. 病気についての基礎知識 2. 体調不良時の状況別対応										
試験・評価		筆記試験・演習技術90%、受講態度・姿勢10%で総合評価する。									
留意事項		視聴覚教材の使用および実際に体験する機会を多く取り入れていく。 演習では積極的に取り組む姿勢を期待する。									
準備学習 (予習・復習等)		「小児保健」で学んだことの復習、および小児期に応じた成長発達の特徴を予習する。小児期にかかわる社会保障制度、特に病気・障害に関する制度についても復習								必要時間:45分	
課題の フィードバック											
テキスト		「子どもの保健演習ノート」 榊原洋一監修・小林美由紀執事 診断と治療社出版									
参考書等		「子どもの保健」第2版 巷野吾朗著 診断と治療									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの食と栄養Ⅰ		2年前期		演習		1		卒業選択 資格必修		山下 浩子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎			○			
授業の目的		小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。									
到達目標		1. 栄養の基礎知識を習得する。 2. 乳児期、幼児期の望ましい食生活のあり方を理解する。 3. 保育士として、子どもの食育の意義を理解する。									
授業の概要		講義形式で、栄養の基礎知識、子どもの食生活の現状と望ましい食生活のあり方について学ぶ。また、保育士としての子どもの食育への取組みを習得するために、自身の食生活チェックやグループ討議など演習を行う。実習では、調乳とだしのとり方を行う。									
授業計画											
1	子どもの栄養と食生活の現状 子どもたちの栄養の実態について知る。 食育(1)-「楽しく食べることの大切さ」を学ぶ。			9	小児期の栄養・食生活(3)-乳汁期 母乳栄養・人工栄養・混合栄養、調乳について学ぶ。						
2	食生活の評価 「食事バランスガイド」を使って、自身の食生活について評価を行う。			10	小児期の栄養・食生活(4)-離乳期 「授乳・離乳支援ガイド」に基づき、離乳開始から完了までの支援、離乳食の与え方や献立について学ぶ。						
3	栄養の基礎知識(1) 栄養とは何か、五大栄養素の働き、三色食品群について学ぶ。			11	<実習1> 調乳(無菌操作法)を学ぶ。 冷凍母乳バックの取り扱いを知る。						
4	栄養の基礎知識(2) 消化と吸収のしくみについて学ぶ。			12	<実習2> だしのとり方を学ぶ。 「うま味」を知る。						
5	栄養の基礎知識(3) 栄養バランスのとれた食事の指標・評価となる食事摂取基準、食品構成、食品群などについて学ぶ。			13	小児期の栄養・食生活(5)-幼児期 幼児期の栄養の特徴、食習慣の成立、咀嚼力・食行動の発達について学ぶ。						
6	小児期の成長と発達 小児期の区分、体の成長・発達の基本、成長の評価方法について学ぶ。			14	小児期の栄養・食生活(6)-幼児期 共食や間食、弁当の意義および食生活上の問題点とその対策について学ぶ。						
7	小児期の栄養・食生活(1) 教育実習を終えて、「子どもの食」について、グループ討議・発表を行う。			15	児童福祉施設の食生活(1) 保育所給食の役割、現状、課題について学ぶ。 食育(2)-食育の視点から給食を考える。／まとめ						
8	小児期の栄養・食生活(2) 胎児の発育と栄養、妊娠期の食生活について、「妊産婦のための食生活指針」などを参照し理解する。										
試験・評価		筆記試験(70%)、受講姿勢(30%)で評価する。									
留意事項		教育実習の時期に合わせ、授業予定の週を変更する場合がある。									
準備学習 (予習・復習等)		授業計画に沿って、テキストを読んでおくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック											
テキスト		「子どもの食と栄養〔第2版〕」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社									
参考書等		「保育所保育指針」ほか随時紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
子どもの食と栄養Ⅱ		2年後期		演習		1		卒業選択 資格必修		山下 浩子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎			○			
授業の目的		小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。									
到達目標		1. 離乳食の進め方を理解する。 2. 幼児食を通じた子どもの食育を理解する。 3. 「保育所保育指針」における食育の位置づけと保育士の役割を理解する。									
授業の概要		はじめに、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ離乳期、幼児期の食のあり方を復習し、各期の食事作りを行う。内容は、離乳期における離乳食の展開および12～18か月ころの子ども向けの食事と幼児期の日常食、行事食および弁当である。講義においては、保育所における食育を中心に学習する。									
授業計画											
1	オリエンテーション 「子どもの食と栄養Ⅰ」の復習			9	<実習8> 幼児食5 レポート⑦ 行事食(クリスマスケーキ)						
2	小児期の栄養・食生活(7)-離乳期・幼児期 離乳食の進め方、幼児の食について復習する。 小テスト①			10							
3	<実習3> 離乳食1 レポート① 離乳期9～11か月児の離乳食(お粥他2品)を作り、 7～8か月児、5～6か月児向けに展開する。			11	<実習9> 幼児食6 レポート⑧ 行事食(郷土料理「がめ煮」)						
4	<実習4> 離乳食2 レポート② 離乳期12～18か月児の食事(昼食)			12	小児期の栄養・食生活(8)-学童期・思春期 学童期・思春期の栄養の特徴、学校給食および食生活上の問題点とその対策について学ぶ。						
5	<実習5> 幼児食1 レポート③ 1～2歳児の食事(朝食)			13	小児期の栄養・食生活(9) 保育所における食物アレルギー児への対応について学ぶ。						
6	<実習6> 幼児食2 レポート④ 間食(小魚おやき、お茶)			14	食育(3)-子育て支援と食育 食育を通して、保護者へのアプローチの方法を考える。／小テスト②						
7	<実習7> 幼児食3 レポート⑤ 3～5歳児の食事(夕食)			15	まとめ 実習レポートの総評を受け、学習内容をまとめる。						
8	<実習10> 幼児食4 レポート⑥ 幼児の弁当										
試験・評価		授業内で行う小テスト(30%)、実習レポート(40%)、受講姿勢(30%)で総合評価する。									
留意事項		実習レポートの提出は期限を守ること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業計画に沿って、テキストを参照し、実習テーマおよび講義の内容を確認しておくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		小テストは、実施後に解説し、次回に返却する。実習レポートは、最終回に総評および返却する。									
テキスト		「子どもの食と栄養 〔第2版〕」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社									
参考書等		「保育所保育指針」ほか随時紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
家庭支援論		2年後期		講義		2		卒業選択 資格必修			
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							○	◎			
授業の目的		保育士とは「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」であることを自覚し、保育所の持つ「子育て支援」機能が重要な社会的役割であることを理解し、児童・親を含めた家族全体が保育の対象であることを認識する。									
到達目標		1. 現代の様々な家族のあり方を知り、それをふまえて適切な「相談・助言」を行うことができるようになる。 2. 子育て支援に関する社会政策・制度について諸外国の事例も含め、概観できるようになる。 3. それぞれの家庭のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、関係機関との関連について把握できるようになる。									
授業の概要		保育所の持つ「子育て支援」機能が重要な社会的役割であることを理解するために、家族・家庭の機能、現代社会における子育てをめぐる問題とその背景、支援にあたっての基本的理念を学ぶ。講義をさらに深く理解するため、講義内容に関連したビデオ等を適宜視聴し、具体的な事例と共に家庭支援のあり方を考察する。									
授業計画											
1	はじめに ・保育士の仕事とその責任 ・家族とのかかわり	9	家庭支援に関する政策動向と展望③ ・乳児院と児童養護施設 ・関係機関のネットワークについて								
2	家族・家庭とは ・「家族・家庭」は自分にとってどのような存在か ・家庭の持つ機能	10	子どもへの虐待を考える① ・虐待の歴史、定義、発生件数 ・児童虐待防止法								
3	現代の家族を取り巻く社会状況① ・高齢化・少子化 ・合計特殊出生率の推移と婚姻状況の変化	11	子どもへの虐待を考える② ・久留米市の状況 ・虐待防止にむけた関係機関とのネットワーク								
4	現代の家族を取り巻く社会状況② ・男女共同参画社会基本法 ・育児休業法	12	子どもへの虐待を考える③ ・「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と子ども ・DV 防止法と関係機関との連携								
5	現代の家族を取り巻く社会状況③ ・育児の孤立化とは ・子育てに果たす祖父母の役割	13	家族・家庭の再生① ・ひとり親家庭への支援 ・赤ちゃんポスト								
6	現代の家族を取り巻く社会状況④ ・情報化の進行 ・貧困による格差の拡大	14	家族・家庭の再生② ・里親ホーム ・特別養子制度								
7	家庭支援に関する政策動向と展望① ・これまでの政策の流れ	15	まとめ ・諸外国の子育てについて ・これからの家庭支援に求められる視点								
8	家庭支援に関する政策動向と展望② ・家庭的保育 ・ファミリーサポートセンター										
試験・評価		ビデオ視聴後のフィードバックシートと受講態度40%、試験60%で総合評価する。									
留意事項		授業中にプリントや新聞記事のコピーなども教材として配布するので、紛失しないよう保管すること									
準備学習 (予習・復習等)		日頃から新聞を読み「家族」「出産」「育児」等、授業に関連する記事を切り抜くなどをして、家庭支援のあり方について考えをまとめておく。								必要時間: 3時間	
課題の フィードバック		ビデオ視聴後のフィードバックシートは添削し、次週の授業で返却し総評を行なう									
テキスト		「実践家庭支援論」 松本園子他著 ななみ書房									
参考書等		「データで読む平成期の家族問題」 湯沢雍彦 朝日選書									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育課程論		1年後期		講義		2		卒業選択 資格必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎		○		○		
授業の目的		質の高い保育を展開するためには子どもを理解し、それを指導計画に反映する力が求められる。本講義では、保育課程・教育課程・全体的な計画と指導計画のつながりについて理解し、計画立案の基礎を学ぶと共に、保育のPDCA サイクルによる保育実践の展開について理解する。									
到達目標		1. 保育課程・教育課程・全体的な計画に基づいた指導計画を作成するための基本を理解する 2. 指導計画立案および保育のPDCA サイクルについて理解する 3. 実習における指導案作成方法を理解し習得する									
授業の概要		子どもの発達を見通し、その時期に必要な保育内容を子どもが経験するためにどのような環境を作り出していくのか、それらを指導計画に反映させる方法について学びを深め指導計画の基本的な理念を理解する。実際に計画を作成しながらそれを実習における指導案や日案作成および保育実践に活かす力を習得する。									
授業計画											
1	オリエンテーション/保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育課程・教育課程・全体的な計画とは			9	指導計画の基本と作成⑥ 環境の構成と予想される子どもの姿						
2	保育課程、教育課程、全体的な計画の編成			10	指導計画の基本と作成⑦ 保育者の援助と配慮						
3	保育課程・教育課程・全体的な計画と指導計画			11	指導案作成の実際① 制作あそびの指導案の作成(グループワーク)						
4	指導計画の基本と作成① 子どもの発達過程と指導計画導			12	指導案作成の実際② 遊びの実践を通して自由課題を設定する (グループワーク)						
5	指導計画の基本と作成② 子ども理解(子どもの姿をとらえる視点)			13	指導案作成の実際③ 指導案作成(グループワーク)						
6	指導計画の基本と作成③ 子ども理解に基づくねらいと内容のとらえ方			14	指導案作成の実際⑤ プレゼンテーション(グループワーク)						
7	指導計画の基本と作成④ 保育内容の総合的なとらえ方(遊びの実践)			15	保育の実践と評価・省察、まとめ						
8	指導計画の基本と作成⑤ 子ども理解・保育理解と保育内容の関係 (グループワーク)										
試験・評価		試験50%、ワークシート30%、指導案10%、学習状況10%で総合評価する。									
留意事項		私語、スマートフォン・携帯操作・居眠りをしないこと。実習につなげられるように意識して講義に参加すること。									
準備学習 (予習・復習等)		他の講義と関連性を持つ科目であるため相互に学びを生かせるように意識して全ての講義を受講すること。講義には前回の講義内容を振り返った上で参加すること。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		ワークシートは次週の講義時に返却をして総評を行う。									
テキスト		「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 フレーベル館									
参考書等		必要に応じて講義内で提示する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
乳児保育Ⅰ		1年後期		演習		1		卒業必修 資格必修		萩尾 ミドリ	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○			○			
授業の目的		保育所保育指針では「・・・入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」と、保育所保育のあり方が示されている。この授業では0歳児、1歳児、2歳児の発達の特性を理解し、指導のあり方・援助について理解を深める。									
到達目標		1. 乳児保育の理念と歴史的変遷および役割について理解する。 2. 3歳未満児の生活と遊びから保育所での一日の流れを理解する。 3. 歌い継がれている“ふれあいうた・あそびうた”を習得する。									
授業の概要		人と人とのかかわりの中で、日々成長していく乳幼児のかわいらしさ、すばらしさ、たくましさなど乳児保育ならではの楽しさを伝える授業内容を計画し、養護と教育を一体的に行う保育のあり方について学習する。 語り継ぐ意味も含めて ふれあいうた・あそびうたを習得する。									
授業計画											
1	乳児保育の理念と役割 ・心身ともに健やかに育つ ・マフィン人形での(実習)			9	・小テスト ・ふれあいうた・わらべうた(実技)						
2	乳児保育の意義と基本 ・「乳児保育」とは ・ふれあいうた・あそびうた(実技)			10	乳児保育の保健衛生及び安全 ・集団保育と保健 ・生活と健康						
3	乳児保育の歴史と現状 ・「乳児保育」のあゆみ			11	子どもの食事 ・子どもの育ちと食事の重要性 ・食の悩みと考え方						
4	子どもの育ち ・乳幼児の発達 ・乳幼児の生活			12	保育の計画と記録(1) ・乳児保育を支える保育の計画 ・次の保育に生かす記録						
5	子どもの生活と遊び(1) ・0歳児クラス・デイリープログラム(前期)			13	保育の計画と記録(2) ・記録をする上でのポイント ・事例をもとに連絡帳を書く(提出)						
6	子どもの生活と遊び(2) ・0歳児クラス・デイリープログラム(後期)			14	保育の計画と記録(3) ・提出された連絡帳から学ぶ(提出) ・記録を保育につなぐ省察・評価						
7	子どもの生活と遊び(3) ・1歳児クラス・デイリープログラム			15	乳児保育の今後の課題 ・子育て環境の変化と乳児保育 ・家庭・地域との連携						
8	子どもの生活と遊び(4) ・2歳児クラス・デイリープログラム										
試験・評価		小テスト50%、課題30%(15%×2回)、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		日頃より保育関連のニュースに関心をもつことが望まれる。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後の復習をすることで知識をより確かなものにしていくように。 理解出来なかったところは、次回質問出来るように準備しておくこと。								必要時間： 45分	
課題の フィードバック		小テスト及び課題は、添削・採点し次回の授業で返却 振り返りの時間をとる。									
テキスト		「乳児保育」 増田まゆみ編著 北大路書房									
参考書等		「保育所保育指針」、「乳児の生活と保育」 松本園子編著 ななみ書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
乳児保育Ⅱ		2年前期		演習		1		卒業選択 資格必修		山内 享子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○			○			
授業の目的		乳児は、他者との関わりを初めて持ち、その中で人格が形成されるなど、子どもの心身の発達にとって極めて重要な時期である。この時期に大きな役割をもつ乳児保育の意義と関わり方の重要性を学び、乳児を愛情豊かに受容し、心身ともに健全な成長・発達に導くための専門性を身に付けていく。									
到達目標		1. 乳児の健全な発達を促すために必要な知識・技術を習得する。 2. 発達に応じた保育環境と保育方法を学ぶ。 3. 乳児保育に必要な保護者支援・職員間の連携について理解を深める。									
授業の概要		乳児の成長に合った保育環境を整え、安心・安全に過ごせるように、保育内容・乳児の発達について理解を深める。具体的な事例を参考にしながら実際に保育現場で働いた時を想定し、グループ演習・参加型で学習する。									
授業計画											
1	乳児保育Ⅱ 授業概要 乳児保育の意義と基本			9	1・2歳児クラス 保育の実際・保育環境 第1回小テストの総評						
2	乳児の発達と保育内容① 身体・運動発達の特性			10	乳児保育計画と記録 保育課程の編成と指導計画の作成						
3	乳児の発達と保育内容② 生活リズムの確立(食事・睡眠・排泄・着脱・清潔)			11	乳児保育計画と記録 保育に生かす記録・記録の必要性・自己評価						
4	乳児の発達と保育内容③ 認識とことばの育ち・あそび			12	乳児保育における連携 保育者の役割・職員間の連携 レポート提出						
5	乳児の発達と保育内容④ 人との関わり・社会性の育ち・あそび			13	乳児保育における連携 保護者支援と連携 レポート総評						
6	乳児期にかかりやすい病気と対策 保健計画・食物アレルギー レポート提出			14	乳児保育における連携 地域との連携・保育園の社会的役割 第2回小テスト(45分):8～13週の範囲						
7	集団保育と安全 事故予防・応急処置・発生時の対応 レポート総評			15	乳児保育の現状と課題 前期講義のまとめ 第2回小テストの総評						
8	0歳児クラス 保育の実際・保育環境 ＜第1回小テスト(45分):1～7週の範囲＞										
試験・評価		授業内で行う小テスト50%、レポート30%、授業態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		子育てに関する情報に関心をもつ。乳児を見たり触れたりする経験を通して授業の理解と結びつけて考え、子どもの実際を認識する。									
準備学習 (予習・復習等)		授業内容に関するテキストを読み予習復習を行う。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		授業で実施した2回の小テスト・レポートは、添削・採点し、次週の授業で返却し総評を行う。									
テキスト		プリント、乳児保育[新版] 増田まゆみ編著 北大路書房									
参考書等		「保育所保育指針」									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
障害児保育Ⅰ		1年後期		演習		1		卒業選択 資格必修		岡田 良子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的		障害を持っていることで生活上の不便や配慮を必要とするが、障害のみに目を奪われてはならない。 障害児保育の理念や障害の概念等について学ぶ。そして書か維持への支援・保育及びその親への支援の内容と必要性について理解する。あわせて様々な障害について理解する。									
到達目標		1. 障害の概念、障害児保育の理念について理解し、説明できる。 2. 障害児への支援の概要について理解し、習得する。 3. 障害児の親の心理的受容について理解し、支援について習得する。									
授業の概要		本授業では、家庭や保育現場であるいは医療現場で、「今」を生きて生活している子どもたちに焦点を当て、その子どもたちのニーズ、その保護者のニーズに接近しながら、保育者として何が自分に必要とされているのか を学ぶ。そして自分自身の「障害観」の見直しを同時に行っていくことを重要視している。									
授業計画											
1	障害の理解			9	発達障害児への理解と支援①						
2	障害児保育の基本			10	発達障害児への理解と支援②						
3	保護者や家族に対する理解と支援①			11	発達障害児への理解と支援③						
4	保護者や家族に対する理解と支援②			12	知的障害児への理解と支援①						
5	保護者や家族に対する理解と支援③			13	知的障害児への理解と支援②						
6	統合保育①			14	知的障害児への理解と支援③						
7	統合保育②			15	まとめ						
8	統合保育③										
試験・評価		単位認定試験50%、課題及びシート30%、授業への積極的参加20%で総合評価する。									
留意事項		授業中の私語、居眠り、スマートフォン等の使用は原点の対象とします。									
準備学習 (予習・復習等)		前回の授業の復習をすること。何回か課題を出します。							必要時間：45分		
課題の フィードバック		毎回の授業開始時にシートを発表して貰います。課題はコメントをつけて返却します。									
テキスト		教科書は使用しない。教員作成資料をその都度配布する。									
参考書等		「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、その他授業中に紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
障害児保育Ⅱ		2年前期		演習		1		卒業選択 資格必修		岡田 良子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的		障害児保育Ⅰで学んだ理論や方法をもとに、様々な障害児の理解や支援方法について学ぶ。障害のある子どもの指導計画を作成し、個別支援について理解を深める。障害のある子どもの支援や保育に関する現状と課題について理解する。									
到達目標		1. 障害児への発達支援方法について理解する。 2. 個別支援計画の作成について習得する。 3. 自分なりの障害児保育の基本方針と方向性を身につけることが出来ている。									
授業の概要		日常生活での、保育現場での困り感、家庭での困り感、社会生活上での問題などに焦点を当てて、具体的に支援の方法と課題を探っていく。実際の保育現場で役に立つ支援について身に付けていく。									
授業計画											
1	障害児の理解と支援①			9	記録及び評価①						
2	障害児の理解と支援②			10	記録及び評価②						
3	障害児の理解と支援③			11	地域の専門機関と個別支援計画						
4	障害児の理解と支援④			12	障害のある子どもの保育に関する現状と課題①						
5	障害児の理解と支援⑤			13	障害のある子どもの保育に関する現状と課題②						
6	障害児の理解と支援⑥			14	障害のある子どもの保育に関する現状と課題③						
7	指導計画の作成①			15	まとめ						
8	指導計画の作成②										
試験・評価		単位認定試験50%。課題及びシート30%。授業への積極的参加20%で総合評価する。									
留意事項		授業中の私語、居眠り、スマートフォン等の使用は減点の対象です。									
準備学習 (予習・復習等)		前回の授業を復習した上で、次回の授業に参加すること。課題の提示もあります。								必要時間：45分	
課題の フィードバック		毎回の授業の開始時に前回の授業のシートを4～5名発表して貰います。 課題はコメントをつけて返却します。									
テキスト		教科書は使用しない。教員作成資料をその都度配布する。									
参考書等		「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、その他授業中に紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
社会的養護内容		2年前期		演習		1		卒業選択 資格必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○		○	◎			
授業の目的		児童の権利擁護や保育士等の倫理を土台として、入所前、入所中、退所、退所後の一連の日常生活における児童への関わりに向けての、特に保育士の立場(視点)から実際的アプローチの在り方をさぐると共に、今日のキーワードとしての自立支援の意義及び実際について理解する。									
到達目標		1. 現在の社会的用語に関する実施の概要の把握 2. 施設在所中の日常生活に関する正しい理解 3. 自立支援に関する実情の把握を事例を含め修得する。									
授業の概要		保育士の視点を土台とした施設における児童処遇アプローチの在り方に関し、児童相談所との連携、里親制度との関連等処遇へ向けての社会的協働に関する事例及び退所後の自立支援に関する事例を含め修得することを通して、施設保育士としての専門性確立への一助とする。									
授業計画											
1	社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務について学ぶ。			9	生活の安定の基盤である健康への配慮の全般的ポイント及び発達段階別、夏季、冬季別ポイントを学ぶ。						
2	社会的養護の実施体系 施設養護、里親制度等について学ぶ。			10	中学生以上の施設在所率の高まりの中、自立支援へ向けての配慮のポイントを修得する。						
3	支援の計画と内容及び事例分析 個別支援計画の作成をもとに、日常生活支援、治療的支援、自立支援に関し、事例分析から学ぶ。			11	人間一生の基礎をなす幼児期の健全な成長発達へ向けての配慮のポイントを修得する。						
4	施設養護の実践に臨むにあたっての、保育士としての児童観を学ぶ。			12	退所にあたっての児童ならびに保護者(家庭)に向けての配慮のポイントを学ぶ。						
5	日常生活のリズム化、集団生活の基盤でもある日課に関し、その意義、在り方等を修得する。			13	退所後のアフターケアの目標としての自己実現、自立支援のポイントを修得する。						
6	施設における多様な日常生活領域への配慮ポイントについて修得する。			14	施設保育士としての専門性 ソーシャルワークに関する知識・技術の理解及び応用について修得する。						
7	人間形成の基盤である基本的な生活習慣・技術及び施設内学習への配慮のポイントを修得する。			15	今後の展望と課題 施設の小規模化、地域関係等を中心として学ぶ。						
8	集団生活の特質の積極的活用が発揮できる場面としての余暇、遊びへの配慮のポイントを修得する。										
試験・評価		筆記試験80%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		施設での実習の想定のもと、その現状の正しい理解へ向け、前向きに授業へ臨むことを心がける。									
準備学習 (予習・復習等)		授業内容のふりかえりをもとに、施設実習に向け、正しい現状把握を実践への基盤として築いていく。								必要時間:45分	
課題の フィードバック											
テキスト		「社会的養護内容」 吉田真理編著 萌文書林									
参考書等		「2015 目で見える児童福祉」 こども未来財団									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育相談支援		2年後期		演習		1		卒業選択 資格必修		池田 可奈子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○			◎	○		
授業の目的		子どもを取り巻く環境や育児のあり方が多様化している現在、保護者に対して子育て支援を適切に行える保育士の養成が求められている。本科目では保育相談支援に関する基本的理論や知識を習得し、具体的な相談援助の技術等について学習することを目的とする。									
到達目標		1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保育相談支援の基本的理論を学び、その内容や方法を理解する。 3. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する。									
授業の概要		保護者支援の意義と原則について理解し、保護者や家族に対する理解と援助のあり方について学習する。さらに地域社会全体を視野に入れた支援や外部機関との連携などについても理解する。また具体的な相談援助の技術や子育て支援プログラムの立て方等についても学習する。									
授業計画											
1	保育相談支援の概要 子育て環境の多様化について学び、保育相談支援の意義と原則について理解する。			9	相談支援の技術② 電話相談、連絡帳を通した支援など、多様なツールを用いた支援の方法と技術について学ぶ。						
2	保育相談支援の実践「子育て支援プログラム①」 子育て支援の実践について学び、保護者支援の内容と方法について考える。			10	保育相談支援の実践「お便りの作成」 子育てを支える情報発信として、保護者向けのお便りの作成を通した支援の方法と技術について学ぶ。						
3	保育相談支援の実践「子育て支援プログラム②」 子育て支援プログラムの計画、記録、評価、カンファレンスの一連の流れについて理解する。			11	保育相談支援の実践「子育て支援プログラム③」 子育て支援プログラム演習を終えての振り返りを行う。						
4	家庭の変容と保育相談支援① 家庭環境が大きく変化している現代社会の様相を理解し、家族理解と保護者理解の基本姿勢を学ぶ。			12	家庭支援の実践① 妊娠、出産、子育てをめぐる家族支援について学習する。						
5	家庭の変容と保育相談支援② 対象者の家族関係を理解するために作成する図、ジェノグラムの書き方について学ぶ。			13	家庭支援の実践② 障害や病気を抱える子どもを持つ家族への支援について学ぶ。						
6	相談支援の基本① 保護者の養育力をサポートする相談支援について学ぶ。			14	家庭支援の実践③ 地域資源の活用と関係機関との連携・協力の在り方について学ぶ。						
7	相談支援の基本② 守秘義務、受容的関わり、信頼関係の構築など、相談支援を行うための基本原則について学習する。			15	保育者の心の健康 これから卒業して、保育現場で働く保育者自身の心の健康について学ぶ。						
8	相談支援の技術① カウンセリングマインドや面接の基本技術について学習する。										
試験・評価		つどいの広場での子育て支援活動の実践とお便り作成60%、授業中の演習課題30%、受講態度・姿勢10%で総合評価する。									
留意事項		つどいの広場やくるんなどの子育て支援の現場を積極的に見学したり、参加したりすること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で配布した資料を読みこみ、授業で学んだ知識の定着をはかること。またつどいの広場での保育実践では、しっかりと指導計画をたて、練習を積み重ねること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		つどいの広場での保育実践は、実践後すぐに振り返り、コメントをする。お便りの作成については、制作物を学生に配布し総評する。授業内で取り組んだ課題は、その場でコメント・解説し、採点后授業期間中に返却する。									
テキスト		テキストは特に使用しない。講義の中で適宜資料を配布する。									
参考書等		「演習 保育相談支援」 小林育子著 萌文書林									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習指導Ⅰ		1・2年 通年		演習		2		卒業選択 資格必修		重永・池田 渡邊・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							◎	○	○		
授業の目的		保育・施設実習の意義目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。実習直前指導では書類の準備を行い、オリエンテーションで具体的な実習の情報を習得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い新たな課題や実習目標を明確にする。									
到達目標		1. 実習の意義 目的を理解し、実習の内容と自らの課題を明確にする。 2. 事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。 3. 事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や実習目標を明確にできる。									
授業の概要		保育実習の意義 目的を理解し、プライバシーの保護と守秘義務、実習の計画、記録の方法や内容について学ぶ。施設実習の意義と目的を理解し、各種施設（児童養護施設、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、その他）について学習する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、反省とまとめを行う。									
授業計画											
保育所						施設					
1	保育実習にいくための実習依頼の手順について					1	施設実習の意義と目的				
2	保育実習の意義と目的・実習の方法について					2	施設保育士の役割				
3	実習生としての心構え、全国保育士倫理綱領について					3	福祉の理念				
4	実習に必要な事務手続きについて					4	種別の理解(1) 児童養護施設・乳児院				
5	実習記録の意義と方法、観察の視点について					5	種別の理解(2) 障害児・者入所施設ほか				
6	実習記録の実際①日誌の各項目の理解					6	実習記録の取り方(1)児童養護施設・乳児院ほか				
7	実習記録の実際②ワーク 実習先でのオリエンテーションについて					7	実習記録の取り方(2)障害児・者入所施設ほか				
8	実習記録の実際③フィードバック					8	個人票や書類の作成を通した実習の目標設定や守秘義務等について				
9	指導計画の意義と方法					9	施設実習の不安を軽減しよう				
10	指導案作成の実際①基本的事項と設定(部分)保育					10	施設でのオリエンテーションについて(施設実習書類の準備)				
11	指導案作成の実際②教材研究の基本					11	施設実習班員での事前学習と打ち合わせ				
12	指導案のプレゼンテーション 腸内細菌検査について					12	施設実習直前指導（腸内細菌検査・実習生としてのマナー・諸注意他）				
13	学内直前指導					13	事後指導における実習の自己評価と振り返り				
14	事後指導における実習の総括と自己評価					14	事後指導における実習体験報告会				
15	事後指導における振り返りと課題の明確化					15	事後指導における施設実習のまとめと総括				
試験・評価		毎回のレポート50%、課題レポート20%、受講態度20%、最終回ノート提出10%で総合評価する。									
留意事項		体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。施設でのプライバシー保護に留意する。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。							必要時間:45分		
課題の フィードバック		各回提出のノートは次週の授業時に返却し総評を行う。									
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイドー準備から記録・計画・実践までー」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針 解説書」 厚生労働省 フレーベル館									
参考書等		授業中に知らせる。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習指導Ⅱ		2年通年		演習		1		卒業選択 資格選択必修		進藤 務子・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○	○	◎				
授業の目的		保育実習Ⅱの意義目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、指導案・日案等について準備をおこなう。また個人情報の取り扱い、子どもの安全に対する配慮、職員間の連携などについて学び、実習生として留意すべき事項を理解する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行う。									
到達目標		1. 保育実習の意義と目的を理解し、実習に向けての自己の課題を明らかにする。 2. 事前指導では、今までの実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育実践における自己の課題を明らかにできる。									
授業の概要		保育実習Ⅱの意義と目的、内容について学ぶ。保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題を明らかにして改善する。具体的には日誌、指導案等の振り返りを行うと共に、今までの学習をもとに指導案や日案等の作成を行い、指導計画・観察記録等について学ぶ。また、実習後には総括と自己評価を行い、自己の目標を明確にする。									
授業計画											
1	オリエンテーション 実習依頼の注意事項について 実習園探しの心得、依頼の手順とマナー			9	実習事前準備⑦ 子どもの発達に合わせた教材研究						
2	保育実習Ⅱの意義と目的、内容について 保育実習Ⅱの位置づけ 具体的な実習内容			10	実習事前準備⑧ 実習生としての心得とマナー 細菌検査資料配布・説明						
3	実習事前準備① 子どもの健康・安全について 個人票作成			11	事後指導① 保育所実習Ⅱの自己評価 実習報告書の作成とレポート課題						
4	実習事前準備② 個人情報の取り扱い及び誓約書作成			12	事後指導② 実習日誌、指導案等の振り返り 自己課題の明確化						
5	実習事前準備③ 観察実習のポイントと日誌の書き方			13	保育士資格の申請について 申請手続きの説明						
6	実習事前準備④ 指導案作成のポイント・指導案作成			14	事後指導③ 実習報告会						
7	実習事前準備⑤ 日案作成のポイント、日案作成 実習日誌・オリエンテーション資料の配布			15	まとめ 保育者として成長するために レポート課題						
8	実習事前準備⑥ 保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の明確化 (レポート課題)										
試験・評価		毎回のノート45%、受講態度20%、2回のレポート20%、最後のノート提出15%で総合評価する。									
留意事項		欠席が無いよう注意し、他教科との連携を意識すること。提出物の期限は厳守。									
準備学習 (予習・復習等)		テキストに目を通し、理解が不足している点は、質問して解決・復習する								必要時間:45分	
課題の フィードバック		毎回のノートは、添削・採点し、次週の授業で返却し、総評を行う。									
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイドー準備から記録・計画・実践までー」 太田光洋編著 ミネルヴァ出版									
参考書等		授業の中で紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習指導Ⅲ		2年後期		演習		1		卒業選択 資格選択必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○		◎	○			
授業の目的		保育実習Ⅲ（保育所以外の施設実習）に関し、施設内処遇を中心に学びをすすめていくことにより、施設に関する一層の理解の一助とする。又、実習を通して児童の現状、地域社会、保護者（家庭）、関係機関、ボランティア等幅広い理解の機会とする。									
到達目標		1. 保育実習Ⅰの施設における実習を通して体得した知識、実践力の一層の進展をはかる。 2. 希望園(種別)に関する全般理解。 3. 施設保育士の専門性の視点から、実習後の自己評価及び施設に関する知識、理解、処遇の在り方を総合的にとらえる。									
授業の概要		保育実習Ⅰ（施設）の総括、自己評価を通して施設保育士としての処遇に関する実践力の確認と共に、実習園に関する概要についての詳細な理解により実習の意義を深めると共に実習終了後の自己評価、課題認識等を通して施設保育士としての専門性確立への一助とする。									
授業計画											
1	保育実習Ⅰの施設実習の総括と自己評価のふりかえり。			9	施設の全体計画(年間、月課、週間、日課)に基づく、実践の位置づけを学ぶ。						
2	施設実習の意義と目的を基盤に、施設処遇について総合的に学ぶ。			10	以上1～9の把握をもとに、学生個々の希望園、希望種別園について、意見交換、話し合いのうえ選定(決定)する。						
3	施設保育士としての専門性と職業倫理について学ぶ。			11	実習決定園及び種別等に関する概要の説明。 当該施設の変遷・現状等。						
4	施設実習に関するポイントの学び ①子どもの最善の利益を目指した処遇の在り方を理解する。			12	実習施設におけるオリエンテーション(その為の心得、事前準備等を含む)。						
5	②子どもの処遇と保護者支援の実際を学ぶ。 事例をもとに理解する。			13	実習施設におけるオリエンテーション内容をもとに、実習に関する心得・必要な知識等を確認する。						
6	施設処遇の実践力について学ぶ。 ①子どもの状態に応じた適切ななかかわりについて学ぶ。			14	事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い課題や認識を明確にする。						
7	②施設の専門性(処遇技術)をもとにした実践への応用を事例を通して学ぶ。			15	まとめ(補足) 実習を通して体得した施設に関する知識、理解の確認を行う。						
8	施設実習における観察、記録の意義及びポイントについて学ぶ。										
試験・評価		毎回のノート45%、課題レポート20%、受講態度・姿勢20%、最終回ノート提出15%で総合評価する。									
留意事項		自ら主体的に問題意識を持ち希望施設(種別)の理解、把握に努めること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業内容の復習を通して、実習に伴う多様な要素の把握に努めること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック											
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房									
参考書等		「実習の手引き」 久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科 教育実習・保育実習研究会 権歌書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習Ⅰ		別に示す		実習		4		卒業選択 資格選択必修		重永・池田 渡邊・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							○	◎	○		
授業の目的		既習の強化の内容を踏まえ、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し保育士の役割、職業倫理を学ぶ。保育所実習では、観察や子どものかかわりを通じて、発達過程に応じた保育内容や環境を学ぶ。児童福祉施設における実習では、種別ごとの養護内容や生活環境を学び個々の状態に応じた援助を理解する。									
到達目標		1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して子ども、利用者への理解を深める 3. 保育士の役割と倫理を理解する。									
授業の概要		保育所実習では、保育所で生活を営む乳幼児への理解を深め、保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶ。施設実習ではその意義と目的を理解し、各種施設(保育所、障害児入所施設、障害者支援施設、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、その他)で働く保育士の職務について学習する。									
授業計画											
保育所実習2単位(学外):1年次2月(おおむね10日間) 施設実習2単位(学外):2年次9月(おおむね10日間) 「保育所実習の内容」 1. 実習施設について理解を深める 2. 保育所の状況や一日の流れを理解する 3. 乳幼児の発達を理解する 4. 保育計画・指導計画を理解する 5. 保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 家庭・地域社会との連携について理解する 8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ 9. 保育士の倫理観を具体的に学ぶ 10. 安全及び疾病予防への配慮について学ぶ 「居住型福祉施設等及び障害児・者支援施設等における実習の内容」 1. 施設実習の意義と目的を理解する 2. 各種施設の役割と機能を理解する 3. 各種施設の利用児・者について理解する 4. 専門職としての施設保育士の役割と倫理を学ぶ 5. 各種施設の養護内容(支援内容)と生活環境を理解し、実習記録のとり方を理解する 6. 利用児・者の個別の支援計画と援助について理解する 7. 健康管理・安全対策について理解する 8. 多様な専門職との連携や役割分担について理解する 9. 宿泊実習に伴う生活上の注意点を理解する 10. 施設実習のふり返りを通して自己課題を明確化する											
試験・評価		保育実習の評価80%と、実習日誌20%で総合評価する。									
留意事項		体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。									
準備学習 (予習・復習等)		保育実習指導Ⅰでの学びを準備学習とし、各回の内容を振り返っておくこと。 実習先でのオリエンテーションで指示された課題の準備を行うこと。							必要時間: 指定せず		
課題の フィードバック		実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う									
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針 解説書」厚生労働省 フレーベル館									
参考書等		保育実習指導Ⅰの授業内で紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習Ⅱ		別に示す		実習		2		卒業選択 資格選択必修		進藤 務子・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							○	◎			
授業の目的	保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰでの体験を元に、保育所で実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、保育士の業務内容と職業倫理への理解をより深め、自己の課題を明確にする。また、家庭と地域の生活実態に触れて、子どもと家庭福祉に対する理解を深める。										
到達目標	1. 保育士の業務についての理解を深め、保育の実践力を高める。 2. 保育士として必要な職業倫理を理解する。 3. 幼児への理解をより深める。										
授業の概要	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、観察を通して乳幼児への理解を深め、実際に行う設定保育等の指導実習の中で、保育の計画の立て方や保育技術、子どもとの関わり方などの実践力を身に付けていく。また、保育者同士の役割分担や連携、家庭や地域社会との連携の実際について理解を深める。										
授業計画											
実施時期：2年次8月におおむね10日間実施する。											
実習の内容： 1. 保育所の役割や機能、実習施設について理解を深める 2. 保育所の状況や一日の流れ、保育指導の動きや実践を理解する 3. 子どもの心身と活動の観察と、乳幼児の発達を理解する 4. 保育計画・指導計画を理解する 5. 保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 家庭・地域社会との連携について理解する 8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ 9. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 10. 安全および疾病予防への配慮について学ぶ 11. 保育士の倫理観を具体的に学び、多様な保育の展開と業務を理解する											
試験・評価	保育所実習の評価80%、基礎評価(実習日誌等)20%で総合評価する。										
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。										
準備学習 (予習・復習等)	事前にオリエンテーション等での打ち合わせ事項を再確認し、指導案や教材研究等の準備を行うこと。									必要時間：指定せず	
課題の フィードバック	なし										
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイドー準備から記録・計画・実践までー」 太田光洋編著 ミネルヴァ出版										
参考書等	授業中に知らせる。										

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育実習Ⅲ		別に示す		実習		2		卒業選択 資格選択必修		重永 茂	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○		○	◎			
授業の目的		児童福祉施設等の多様な側面(養護の目的、内容、対象児童、年齢規定、専門職配置及び他の専門職との連携)に関して、実習を通して正しい理解をもとに実践力の向上を図る。 さらに、保護者・家庭への支援、地域社会との関わり、他機関、施設との連携(協働)状況に関し理解を深める。									
到達目標		1. 当該種別及び施設に関する深い理解。 2. 当該種別及び施設に関する日常生活への専門性の必要性の理解把握。 3. 自立支援への専門的関わりについての修得。									
授業の概要		当該(希望)施設に焦点をあて、その成り立ち及び変遷、社会的意義、地域との関わり、対象及び実際の状況、日課にそった処遇の展開の状況、諸行事及びその意義、ほかの施設機関等との連携、職員としての専門性、課題等全般把握に努め、正しい理解をすすめる。									
授業計画											
・ 実習期間:2年次12月～1月(おおむね10日間) ・ 内容 1. 児童福祉施設(保育所以外)の役割と機能について理解する。 2. 施設における支援の実際に関し、子どものニーズの把握と理解について、個人差、生活環境をもとに把握する。 3. 保育士以外の専門職との連携、協働の在り方について学ぶ。 4. 施設と地域とのかかわりについて学ぶ。 5. 実習施設(種別)一覧 ・乳児院 ・母子生活支援施設 ・児童養護施設 ・知的障害児施設 ・知的障害児通園施設 ・盲ろうあ児施設 ・肢体不自由児施設 ・重症心身障害児施設 ・情緒障害児短期治療施設 ・児童自立支援施設 ・児童厚生施設 ・知的障害者更生施設 ・知的障害者授産施設 障害児支援施設 ・知的障害者更生施設 ・知的障害者授産施設 障害者支援施設											
試験・評価		実習施設のオリエンテーション及び実習状況、出席状況、実習日誌の記載内容、実習施設の講評及び評価80%、学内事前事後指導等の受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		問題意識と正しい理解の維持及び深化									
準備学習 (予習・復習等)		実習内容のふり返りを通して、施設全般の正しい理解に努めること。								必要時間:指定せず	
課題の フィードバック											
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房									
参考書等		「実習の手引き」 久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科 教育実習・保育実習研究会 樺歌書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
モンテッソーリ教育法Ⅰ		2年前期		演習		1		卒業選択 資格選択必修		関 聡	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎				○		
授業の目的		モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論(思想・原理)、②モンテッソーリ法の実践(日常・感覚・数・言語・文化の領域)の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。									
到達目標		1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。									
授業の概要		90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅰ」においては、5領域(日常・感覚・数・言語・文化)のうち、日常生活の練習の領域について学習する。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅰ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明			9	1、前半 誕生からの教育(乳児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習 「磨く」						
2	1、前半 モンテッソーリ教育法の発見と展開Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「注ぐ」			10	1、前半 言語の神秘(乳児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「絞る」						
3	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「巻き伸ばし」			11	1、前半 言語の神秘(乳児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習 「お茶のサービス」						
4	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「巻き伸ばし」			12	1、前半 運動の意味(1歳～)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「花の水替え」						
5	1、前半 胎生学(胎生期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習 「掃く」			13	1、前半 運動の意味(1歳～)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習 「野菜の皮むき」						
6	1、前半 環境と人間(新生児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「折る」			14	前期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成						
7	1、前半 環境と人間(新生児期の発達について)Ⅱ 2、後半 日常生活の練習 「拭く」			15	前期のまとめⅡ 1、グループワーク 2、レポート作成						
8	1、前半 誕生からの教育(乳児期の発達について)Ⅰ 2、後半 日常生活の練習 「洗う」										
試験・評価		レポート80%、授業態度20%を原則として総合評価する。									
留意事項		モンテッソーリ教育法に興味・関心のある者が受講する科目である。									
準備学習 (予習・復習等)		予習:テキストを読んでおくこと。復習:授業で行った提供法(M 教具の使用方法)を指定の様式(アルバム)で次回までにまとめておくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。									
テキスト		「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著 エンデルレ書店 絶版になったのでコピーを配付する。									
参考書等		本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
モンテッソーリ教育法Ⅱ		2年後期		演習		1		卒業選択 資格選択必修		関 聡	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎				○		
授業の目的		モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論(思想・原理)、②モンテッソーリ法の実践(日常・感覚・数・言語・文化の領域)の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。									
到達目標		1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。									
授業の概要		90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅱ」においては、5領域(日常・感覚・数・言語・文化)のうち、日常生活の練習の領域について学習する。									
授業計画											
1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅱ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明			9	1、前半 意志の発達(3歳～6歳)Ⅱ 2、後半 感覚教育 「幾何立体」						
2	1、前半 活動のはじまり(1歳半～)Ⅰ 2、後半 感覚教具 「円柱さし」Ⅰ			10	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅰ 2、後半 感覚教具 「布合わせ」						
3	1、前半 活動のはじまり(1歳半～)Ⅱ 2、後半 感覚教具 「円柱さし」Ⅱ			11	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅱ 2、後半 数教具 「数の棒と数字カード」						
4	1、前半 自分をつくる(3歳)Ⅰ 2、後半 感覚教具 「ピンクタワー」			12	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅲ 2、後半 言語教具 「絵カード」						
5	1、前半 自分をつくる(3歳)Ⅱ 2、後半 感覚教具 「茶色の階段」			13	1、前半 モンテッソーリ教師Ⅳ 2、後半 文化教具 「国旗」						
6	1、前半 性格の形成について(3歳～6歳)Ⅰ 2、後半 感覚教育 「赤い棒」			14	後期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成						
7	1、前半 性格の形成について(3歳～6歳)Ⅱ 2、後半 感覚教育 「色つき円柱」			15	後期のまとめⅡ 1、グループワーク 2、レポート作成						
8	1、前半 意志の発達(3歳～6歳)Ⅰ 2、後半 感覚教育 「色板」										
試験・評価		レポート80%、授業態度20%を原則として総合評価する。									
留意事項		モンテッソーリ園に就職希望者は履修すること。モンテッソーリ園に就職が決定した者の中途聴講を認める。									
準備学習 (予習・復習等)		予習:テキストを読んでおくこと。復習:授業で行った提供法(M 教具の使用方法)を指定の様式(アルバム)で次回までにまとめておくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。									
テキスト		「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著 エンデルレ書店 絶版になったのでコピーを配付する。									
参考書等		本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
音楽保育		2年後期	演習		1	卒業選択 資格選択必修		椎山・原・進藤	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
						○			◎
授業の目的	音楽に関する保育実践について、A:幼児音楽、B:器楽合奏、C:ピアノ演奏の3分野の中から1分野を選択して学ぶ。実際に保育の場で実践されている音楽的表現に関する保育教材の研究、並びに指導法研究を行い、指導のために必要な知識と技能を習得する。								
到達目標	1. 選択した分野(幼児音楽・器楽合奏・ピアノ演奏)の技能が深まる。 2. 音楽的な保育実践に必要な教材研究を行う能力が高まる。 3. 音楽的な保育実践の発表に必要な知識を習得する。								
授業の概要	A:幼児音楽では、弾き歌いの表現の工夫を行い、レパートリーを増やし、最後に発表会を行う。 B:器楽合奏では、おもに合奏曲の編曲法を学び、自分でアレンジした作品の発表を行う。 C:ピアノ演奏では、オペレッタや連弾を通してピアノ伴奏法を学び、その発表を行う。								
授業計画									
1	講義ガイダンス 1. :幼児音楽、器楽合奏、ピアノ演奏の選択の決定 2. 選択分野ごとのガイダンス			9	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす② B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)③ C:ピアノ連弾①				
2	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫① B:器楽合奏曲への編曲法(リズム楽器について)① C:オペレッタ、連弾のピアノ伴奏法の役割について			10	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす③ B:日常の保育における楽器遊びについて C:ピアノ連弾②				
3	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫② B:器楽合奏曲への編曲法(リズム楽器について)② C:課題を選択			11	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす④ B:幼児のマーチング指導法について C:ピアノ連弾③				
4	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫③ B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)① C:オペレッタのピアノ伴奏法①			12	A:研究発表会の準備① B:幼児の器楽合奏指導法について C:ピアノ連弾④				
5	A:幼児音楽教材研究と実際① B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)② C:オペレッタのピアノ伴奏法②			13	A:研究発表会の準備② B:発表会の演出方法について① C:研究発表準備①				
6	A:幼児音楽教材研究と実際② B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)③ C:オペレッタのピアノ伴奏法③			14	A:研究発表会の準備③ B:発表会の演出方法について② C:研究発表準備②				
7	A:幼児音楽教材研究と実際③ B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)① C:オペレッタのピアノ伴奏法④			15	A:研究発表会と相互評価 B:課題作品発表と相互評価 C:研究発表と相互評価				
8	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす① B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)② C:オペレッタのピアノ伴奏法⑤								
試験・評価	研究発表または課題作品90%、受講態度10%で総合評価する。								
留意事項	A:欠席をしない。 B:課題作品の提出期限を守ること。C:欠席をしない。								
準備学習 (予習・復習等)	A:毎週の演奏課題曲を充分に練習し、練習カレンダーに記録すること。B:課題を通しての復習、各楽器の奏法の個人練習を行うこと。C:毎週の課題を復習し、事前に渡された課題については、予習・練習をすること。							必要時間:45分	
課題の フィードバック	A:課題については、授業中に評価を行う。 B:課題作品は発表時に総評を行い返却する。C:授業で発表を行い、並行して採点し、総評を行う。								
テキスト	A:「子どもの歌200」 小林美実編 チャイルド社 B:プリントを配布 C:プリントを配布								
参考書等	A:なし B:「幼児に生かす編曲法」 椎山克己 権歌書房 C:適宜紹介する								

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者		
チャイルドプロジェクト		2年通年		演習		2		卒業必修 資格選択必修		学科教員		
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8			
							○		◎			
授業の目的	地域社会が抱える子どもや子育てに関する様々な問題について、各自の興味・関心のある分野を選び自主研究を行うことを通して、保育者としての専門性を高める。また、学生が主体的に研究課題を設定し、地域社会と連携した研究を行うことにより、学生各自が自己研鑽力を高めていく。											
到達目標	1. 自分たちで研究テーマや課題を設定し、研究方法を立案できる。 2. 研究の成果を文章にまとめる力を身につける。 3. 地域社会が抱える子ども・子育てに関する問題を知り、その問題解決に取り組むことができる。											
授業の概要	地域社会が抱える子ども・子育てに関する課題を見つけ、その問題解決を図るための研究をアクティブ・ラーニングの手法を用いて実施する。学生自身が取り組む分野・研究テーマを選び、各研究会に分かれて1年間の研究を行い、その成果を発表し報告集に掲載する。											
授業計画												
研究会名(分野)						指導教員						
表現研究会						椎山克己						
子どもの英語研究会						阿久根 政子						
ピアノ・トーンチャイム研究会						原 浩美						
ボランティア研究会						重永 茂						
幼児音楽研究会						進藤 務子						
保育の心理学研究会						池田 可奈子						
保育環境研究会						渡邊 由恵						
からだあそび研究会						新井 真実						
手作りおもちゃ研究会						櫻井 晋伍						
どの研究会で学ぶかは、学生の希望を事前にアンケート調査し、調整の上、決定する。 具体的な研究課題・内容については講義の中で決定する。 研究の成果については研究報告書を15回目に提出する。												
試験・評価	各研究会での活動・成果80%、受講態度20%で総合評価する。											
留意事項	学生が主体的に研究をおこなうので、意欲的に発言すること。											
準備学習 (予習・復習等)	各自の課題についての取り組みを放課後等を実施すること。								必要時間:45分			
課題の フィードバック	提出した研究報告書については、報告集を作成し配布する。											
テキスト	必要に応じてプリントを配布。											
参考書等	各研究会にて指示する。											

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
レクリエーション概論		2年前期		講義		2		卒業選択 資格必修		原田 弘美	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
									◎		
授業の目的		レクリエーションの歴史や支援者の役割を基礎理論で、個人や社会の様々なニーズに多様に応えるレクリエーションの魅力を事業論で、対象者を主役にする対人関係づくりや働きかけを支援論で習得する。また、楽しさや心地よさを活用して人々を支援する基礎的な考え方や技術を学ぶ。									
到達目標		1. レクリエーションが地域社会の課題に幅広く用いられていることを理解する。 2. レクリエーションの支援の知識を学び、対象者の主体性を尊重する姿勢を身につける。 3. レクリエーション・インストラクターの資格を取得する。									
授業の概要		現代社会のなかで余暇やレクリエーションの持つ意味を理解し、レクリエーションが充実した人生づくり・豊かな人間関係の基盤になることを学習する。レクリエーションの支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢などレクリエーション支援を理解し、一人ひとりの豊かなライフスタイルにむけてレクリエーションを意図的に活用することを学習する。									
授業計画											
1	ガイダンス			9	レクリエーション事業論 レクリエーション事業の考え方を理解する						
2	レクリエーションの基礎理論 レクリエーションとは何かをレクリエーション運動の背景や歴史から学ぶ			10	レクリエーション事業論 市民を対象とした事業を作ろう ①						
3	レクリエーションの基礎理論 レクリエーション運動を支える制度を学ぶ			11	レクリエーション事業論 市民を対象とした事業を作ろう ②						
4	レクリエーションの基礎理論 レクリエーション・インストラクターに期待される役割を学ぶ			12	レクリエーション事業論 市民を対象とした事業を作ろう ③						
5	レクリエーション支援論 ライフスタイルとレクリエーションのかかわりを学ぶ			13	レクリエーション事業論 市民を対象とした事業を作ろう ④(発表)						
6	レクリエーション支援論 少子高齢化の課題とレクリエーションのかかわりを学ぶ			14	レクリエーション事業論 レクリエーション活動の安全管理を学ぶ						
7	レクリエーション支援論 地域の課題とレクリエーションのかかわりを学ぶ			15	レクリエーション事業論 事業論のまとめと小テスト②						
8	レクリエーション基礎理論・支援論 基礎・支援論のまとめと小テスト①										
試験・評価		筆記試験80%、授業態度20%で総合評価する。									
留意事項		単元ごとの小テストを活用して、授業で理解できなかった点を質問し解決していくように努力すること。									
準備学習 (予習・復習等)		身近な地域のレクリエーション協会の組織や展開している事業など事前に調べておく。 身の周りの課題や対象者の課題にレクリエーション協会がどのように応えているのか自分なりにまとめる。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		単元ごとの小テストは添削、採点し総評をおこなう									
テキスト		「レクリエーション支援の基礎」 編集・発行(財)日本レクリエーション協会 「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」 編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会									
参考書等		随時、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
レクリエーション指導法		2年後期		演習		1		卒業選択 資格必修		原田 弘美	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					○	○	○		◎		
授業の目的		様々な集団や個人のニーズに応じたレクリエーション活動の多様さを体験をとおして学ぶ。仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習を深め、集団をリードし一体感を生み出す楽しい時間を演出する指導技術の習得をめざす。さらに目的や対象に応じたレクリエーションの支援を試みる。									
到達目標		1. レクリエーション、インストラクターに必要とされる各分野の指導法を身につけるとともに、自ら工夫、発見していく創造的姿勢を養う。 2. 授業全体を通して、楽しい人間関係を作り出す支援者の基本的な考え方、仲間づくり、人々のふれあい活動等の方法を学ぶ。 3. レクリエーション演習をとおして企画・実施・評価の流を体験し指導力を確かなものにする。									
授業の概要		レクリエーション活動における指導、援助の基礎を学び、仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習する。さらに集団をリードし一体感を生み出すアイスブレイキングの技術を身につける。対象や目的にあわせたレクリエーション活動の実験を経験し、グループで課題にそった集いを企画・実施し評価を共有することで指導力を確かなものにする									
授業計画											
1	レクリエーション活動における指導、援助とは			9	レクリエーション演習 ① 対象に合わせたレクリエーション支援の実際						
2	コミュニケーションワーク 仲良く楽しい人間関係を作り出すために①			10	レクリエーション演習 ② 対象にあわせたレクリエーション支援の実際						
3	コミュニケーションワーク 仲良く楽しい人間関係を作り出すために②			11	レクリエーション演習 ③ 目的にあわせたレクリエーション支援の実際						
4	コミュニケーションワーク 仲良く楽しい人間関係を作り出すために③			12	レクリエーション演習 ④ 目的にあわせたレクリエーション支援の実際						
5	コミュニケーションワークまとめ アイスブレイキングの課題発表（個人支援）①			13	グループ発表 ① 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどい						
6	コミュニケーションワークまとめ アイスブレイキングの課題発表（個人支援）②			14	グループ発表 ② 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどい						
7	レクリエーション種目の実際① 協力・協調をひきだす遊びのいろいろ			15	グループ発表まとめとふりかえり						
8	レクリエーション種目の実際② 協力・協調をひきだす遊びのいろいろ										
試験・評価		アイスブレイキングの実技発表50%、グループ演習50%で総合評価する。									
留意事項		楽しい人間関係を作り出すよう心掛ける。									
準備学習 (予習・復習等)		身近なレクリエーション協会の組織や展開している事業について調べておく。							必要時間:45分		
課題の フィードバック		ふりかえりシートを活用しながら個人支援・グループ発表の良かった点や改善点を全体で共有し、次回の単元に反映できるように総評をおこなう									
テキスト		「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」 編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会 「レクリエーション支援の基礎」 編集・発行(財)日本レクリエーション協会									
参考書等		随時、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
在宅保育論		2年後期		講義		2		卒業選択 資格必修		濱元 篤子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					○			◎	○		
授業の目的		少子高齢社会における子育て支援のあり方について考える。「子ども・子育て新システム」において家庭訪問保育(在宅保育)が重要な施策として位置づけられたことの意義を理解し、全国保育サービス協会認定のベビーシッター資格取得を目指して、在宅における乳幼児の個人もしくは、小集団の保育について学ぶ。									
到達目標		1. 多様な保育ニーズについて把握する。 2. 家庭訪問保育(在宅保育)の意義を理解する。 3. 家庭訪問保育者(ベビーシッター)の業務に必要なスキルを習得する。									
授業の概要		在宅における保育の特殊性や在宅保育の子育て支援としての役割について、また、職業としての在宅保育と法的責任を理解する。1 対 1、2 程度の少人数の保育に対する理解を深めると同時に、病後児保育、産後ケア等についても理解する。在宅保育におけるマナーや緊急時の対応についても理解する。									
授業計画											
1	家庭訪問保育の体系と研修内容 保育者として身につけたい保育マインド			9	居宅訪問型保育における環境整備 ・小児保健 ・健康上の留意点と応急処置 (濱元)						
2	居宅訪問型保育の概要① ・家庭訪問保育の歴史 ・居宅訪問型保育の実態			10	居宅訪問型保育の保育内容と環境整備 (濱元)						
3	居宅訪問型保育の概要② ・子ども・子育て支援新制度の概要 ・居宅訪問型保育事業			11	さまざまな家庭訪問保育① ・安全確保とリスクマネジメント ・事故の予防と保育上の留意点 (濱元)						
4	居宅訪問型保育の保育内容① ・居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズ			12	さまざまな家庭訪問保育② ・居宅訪問型保育における保護者への対応 ・居宅訪問型保育者のマナー、保護者支援の必要性 (濱元)						
5	居宅訪問型保育の保育内容② ・地域子ども子育て支援事業との関連 ・居宅訪問型保育の有効性と課題			13	さまざまな家庭訪問保育③産後ケア、病児・病後児保育、障碍児保育、送迎同行保育、多胎児の保育、学童の保育、外国の子どもの保育 (濱元)						
6	一般家庭訪問保育業務の流れ (濱元)			14	一般家庭訪問保育業務の流れ② ・現役の居宅訪問保育者の体験談、レポート作成 (濱元)						
7	乳幼児の発達と心理 (濱元)			15	まとめ・・・在宅保育論を学んで						
8	乳幼児の生活と遊び (濱元)										
試験・評価		授業内で行う発表とレポート課題60%に受講態度・姿勢等40%を加え、総合的に評価する。									
留意事項		全国ベビーシッター協会認定によるベビーシッター資格が取得できる。欠席せず受講すること。 15回の講義のうち、6回分を岡部が、9回分を濱元がそれぞれ担当する。順序は変更される場合がある。									
準備学習 (予習・復習等)		普段から保育問題等について、新聞や TV 等のメディア情報に関心をもつことが望まれる。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		授業で実施したレポートは、添削・採点し、返却する。									
テキスト		「家庭訪問保育の理論と実際」 公益社団法人全国保育サービス協会 中央法規									
参考書等		必要に応じて指示する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
教職基礎論		1年後期		講義		2		卒業選択 免許・資格必修		森光 義昭	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
								◎			
授業の目的		今の時代に育った子どもをどのように教育すればよいかということ、これからの家庭や社会の変化に対応した真の教育とは何かという課題を問ひかけ、幼児教育に携わる保育者としての資質や能力とは何かを学習課題とし、人間性を高め子どもへの関わり方や指導技術の在り方を理解し、保育者としての力量の向上を目指す。									
到達目標		1. 現代社会の特徴を把握し、教育と時代との関連から、時代に合った教育の在り方を明らかにする。 2. 人間の発達を理解し、子どもの発達課題を踏まえ、発達に適した子どもへの関わり方を身につける。 3. 学校の組織と機能を理解し、保育者としての見聞を広め、保育者の在り方を身に付け、力量を高める。									
授業の概要		学習プリントに記載してある学習課題を把握し、自らの生活体験を基に課題に取り組む。また、自らが学習課題を設定し、これまでの経験を踏まえて、自分の見方や考え方を講義内容より確認する。さらに、教育実習における体験を基にその課題に取り組み、子どもへの関わり方と現代社会に対応した教育の在り方を探究する。									
授業計画											
1	幼稚園教諭及び保育士の見識 1. 本科目のねらい 2. 幼稚園の現状 3. 保育所の現状 4. 幼児教育の現状 5. 幼児教育の課題			9	保育者としての子どもの見方と考え方 1. 子どもの実態 2. 遊びの変化 3. 物事の本質 4. 子どもの見方 5. 子どもへの接し方						
2	教師教育と教員養成制度の歴史 1. 教育の歴史 2. 公教育の意義 3. 教育制度の起源 4. 教育課程 5. 教員免許状制度			10	人間の発達過程と保育者の関わり方 1. 人間の本性 2. 人間形成の基礎 3. 人間の発達過程 4. 人間の感情 5. 人間の環境要因						
3	現代社会の特徴と教育の関連 1. 現代社会 2. 産業と経済の事情 3. 学校の見方 4. 子どもの遊びの変化 5. 時代が求める教育			11	現代社会に対応した保育者の在り方 1. 少子社会 2. 福祉社会 3. 情報社会 4. 国際社会 5. 産業社会						
4	学校文化と学校文化の形成 1. 文化 2. 人間の行動様式 3. 学校ミニ社会4. 学校の文化 5. 学校の組織			12	保育者に求められる人間関係 1. 幼児教育の意義 2. 関わり方の時期 3. 子どもとの関係 4. 保育者同士の関係 5. 保護者の関係						
5	学校における教育の目的と機能 1. 教育の機能 2. 教育の目的 3. 教育の種類 4. 教科のねらい 5. 教育の三位一体			13	教育関係教職員の服務と研修 1. 教育の法関係 2. 教育職員免許状 3. 保育者に関する法律 4. 研修の目的 5. 研修の種類						
6	学校における教職の意義と保育者像 1. 教職の意義 2. 保育者の条件 3. 保育者の類型 4. 保育者との出会い 5. 保育者への期待観			14	21世紀の時代と保育者の理想像 1. 20世紀時代 2. 時代の要請 3. 時代と教育 4. 21世紀の教育 5. 今後の保育者像						
7	学校における教育課程と教育経営 1. 学校の組織体 2. 教育課程の基本 3. 幼稚園教育要領 4. 学級組織 5. 学級担任の役割			15	これからの幼稚園教諭と保育士の在り方 1. 教育と幼稚園・保育所の創造 2. 子どもの心 3. 保育者の心 4. 保護者の心 5. 研究と修養						
8	保育者の資質と能力を高める基礎 1. 資質の意味 2. 能力の意味 3. 見方と考え方 4. 学習支援機器 5. 保育者の研究と修養										
試験・評価		単位認定試験30%、ノート25%、レポート25%、授業態度20%で総合評価する。									
留意事項		教育実習における体験を振り返り、現代社会における教育課題を把握し、学習に対して意欲的に取り組む。									
準備学習 (予習・復習等)		学習前に授業内容に関わる保育現場の状況を参考文献、マスコミ等から情報を得るように心掛ける。							必要時間：3時間		
課題の フィードバック		毎時、学習課題を提示し、レポートを提出し、それを添削し、次時の授業で総合的に解説を加える。									
テキスト		授業時間に自作した学習プリントを適宜活用し、学習課題を把握した上で本時の学習のねらいを達成する。									
参考書等		「教職必修新教師論」 山下省蔵他 実教出版									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
教育原理		1年前期		講義		2		卒業選択 免許・資格必修		関 聡	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
			○				○	◎			
授業の目的		教育に関する基礎理論を学習する。教育に関する思想・歴史・制度・内容・方法・計画の基礎理論を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。「教育する者」にとって必要なものとは何か、目指すべき教育の姿とは何かを自覚的に探究することが本科目の目的である。									
到達目標		1. 教師に必要な知識・態度・思考について、自覚的に論じることができる。 2. 「教育的価値」「教育的思考」「教育的関係」「教育的はたらきかけ」について、論理的に論じることができる。 3. 教育の目的・思想・歴史・制度・内容・計画など、教育の構造の基礎を説明できる。									
授業の概要		1. 教育の意味・意義等の基礎知識 2. 教育の内容・方法・計画等に関わる理論 3. 教育の歴史と制度に関わる知識 4. 子どもの見方や教育の考え方(子ども観・教育観) 5. 教育に関する時事問題									
授業計画											
1	教育とは何か 1. 本科目のねらい 2. 教育の意味 3. 教師との出会い			9	学習の技術 1. 学習技術の特質 2. 発問と板書 3. コミュニケーション						
2	教育の本質 1. 教育と文化 2. 教育と子ども観 3. 教育と学校・			10	教材研究 1. 教材研究の意味 2. 教材と教具 3. 教具の効果的な活用						
3	教育の目的 1. 学校における教育 2. 家庭における教育 3. 地域社会における教育			11	教材研究 1. 教材研究の意味 2. 教材と教具 3. 教具の効果的な活用						
4	教育の制度 1. 学校制度の成立 2. 教育行政の意味 3. 教育委員会の役割			12	学級の経営 1. 学級の特徴 2. 学級担任の役割 3. 学級経営の留意点						
5	教育関係法規 1. 日本国憲法と法体系 2. 学校教育法 3. 学校教育法施行規則(免許法)			13	教師の歴史 1. 教師の歴史と概観 2. 教師の歴史 3. 教育における人間関係						
6	教育の内容 1. 教育課程とカリキュラム 2. 各領域の関連性 3. 指導計画の意義と種類			14	教育関係教職員 1. 教員の職務 2. 教員の身分 3. 教師の研修						
7	学習の方法 1. 目的と内容と方法 2. 学習指導と生活指導 3. 学習過程の方法と種類			15	教育の推進と展望 1. 新しい学力観 2. 学校・家庭・地域の連携 3. これからの教育の在り方						
8	学習の方法 1. 目的と内容と方法 2. 学習指導と生活指導 3. 学習過程の方法と種類										
試験・評価		レポート80%、授業態度20%で総合評価する。									
留意事項		学修を通して、①教師になる自覚を持つこと、②自分自身を見つめる機会を持つこと、③小さい者・弱い者への温かいまなざしを持つこと、④問題を発見し解決する姿勢を持つこと、以上を身につけてほしい。									
準備学習 (予習・復習等)		予習:授業内容に関わる保育現場の状況を参考文献、マスコミ等から情報を得る。 復習:授業内容から自分なりの保育観・子ども観・教育観をつくりあげる。								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		試験終了後、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付け るが、オフィスアワーを十分に活用すること。									
テキスト		授業内で必要に応じて紹介する。									
参考書等		授業内で必要に応じて紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
発達心理学		1年後期		講義		2		卒業選択 免許・資格必修		平石 徳己	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○			○			
授業の目的		人は、胎児期から老年期に至るまで、身体的側面・心理的側面・社会的側面など、様々な側面において年齢とともに変化し、成長していく。本講義では、そうした人の生涯にわたる発達の過程の中でも、特に乳幼児期に重点を置きながら、発達を説明する主要な諸理論を学び、基本的な理解を得ることを目的とする。									
到達目標		1. 発達心理学に関するキーワードを説明できるようになる。 2. 様々な子どもの行動について、心理学的な観点から説明できるようになる。 3. 生涯発達の観点から発達プロセスや初期経験の重要性について理解する。									
授業の概要		乳幼児期に重点を置きながら、発達を説明する主要な諸理論および身体と運動、認知と思考、言語とコミュニケーション、愛着、感情、自己などのキーワードについて学ぶ。さらに、発達のつまずきや生涯発達についても学び、人が発達するとはどういうことか、発達を援助するとはどういうことかについて理解を深める。									
授業計画											
1	心理学とは ・心理学の歴史・心理学的な物の考え方 ・心理学を学ぶ意義			9	遊びと仲間関係の発達 ・遊びとは何か ・遊びの発達の变化 ・仲間関係の発達特徴						
2	発達とは ・発達が意味するもの ・発達を規定するもの ・発達研究の方法			10	道徳性と向社会的行動の発達 ・思いやりの芽生えと発達 ・道徳性の発達 ・向社会的行動の発達						
3	乳児の発達 ・赤ちゃん研究最前線 ・有能な乳児			11	子どもの行動の心理学的理解 ・DVD視聴を通して、これまでの学びの振り返りを行う						
4	自己の発達 ・自己という意識 ・他者と自己の関係			12	生涯発達についての理解① 青年期における発達の概要						
5	愛着と親子関係 ・愛着の発達とその機能 ・親の子育てと親の発達			13	生涯発達についての理解② 成人期・老年期における発達の概要						
6	感情と動機づけの発達 ・感情とその機能 ・動機づけ			14	発達のつまずきとその支援① ・発達障害の理解						
7	言語・コミュニケーションの発達 ・前言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーション ・養育者の役割			15	発達と保育支援のあり方 まとめと考察						
8	認知と思考の発達 ・ピアジェの発達理論 ・各時期の認知・思考の発達特徴										
試験・評価		テストによる評価70%、レポート課題10%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		保育者となることを自覚しながら学ぶこと。									
準備学習 (予習・復習等)		事前に学習する範囲のテキストに目を通して頂くこと。復習では、授業で配布した資料やテキストの要点をまとめ、知識の定着をはかること。									必要時間:3時間
課題の フィードバック		提出されたレポートについては添削・評価後、最終回の授業時に返却し、総評を行う。									
テキスト		「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち」 岡本依子 菅野幸恵 塚田一城みちる著 新曜社									
参考書等		講義の中で適宜、紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育内容総論		1 年前期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的		保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の基本を理解し、保育内容について総合的に学ぶことを目的とする。保育所、幼稚園、幼保連携型認定子ども園の実践における乳幼児の生活と発達を学ぶ中で、保育を構成していく際に必要な要素について理解を深める中で、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。									
到達目標		1. 指針・要領における保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する 2. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ 3. 子どもの生活を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する									
授業の概要		保育の基本と保育内容、乳幼児の発達と生活など、保育を展開するにあたり必要とされる基本的事項について理解を深める。子どもたちが遊びや生活を通して総合的に成長していく姿を事例から読み解き、園生活において保育内容がどのような仕組みで子どもたちの発達を支えているのかを学ぶ。									
授業計画											
1	オリエンテーション 保育制度と保育内容			9	保育内容と領域 環境・言葉・表現						
2	乳幼児の発達と園生活 保育所の1日(3歳未満児)			10	保育の方法 環境を通しておこなう保育と保育者の役割						
3	乳幼児の発達と園生活 幼稚園の1日(3歳以上児)			11	保育内容の総合的なとらえ方① グループワーク(遊びの実践)						
4	幼保連携型認定こども園とは			12	保育内容の総合的なとらえ方② グループワーク(ラベルトーク)						
5	保育の基本 遊びや生活を通して学ぶということ 環境を通しておこなう保育			13	保育内容の総合的なとらえ方③ グループワーク(発表)						
6	幼稚園教育 幼稚園教育要領の構成と保育内容			14	保育の内容と計画 保育の計画と考え方 保育における観察と記録						
7	保育所保育 保育所保育指針の構成と主な内容			15	現代社会と保育 家庭・地域・小学校との連携 特別な配慮を要する子どもの保育						
8	保育内容と領域 健康・人間関係										
試験・評価		試験60%、各回ワークシート30%、学習状況10%で総合評価する。									
留意事項		各授業終了時に提出するワークシートは保管し復習に役立てると共に、小テストに備えること。 私語、スマートフォン・携帯操作、居眠りをしないように。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後にワークシートとテキストを読み返し学びを深めること。不明な点、さらに学びたい内容があれば次回の授業で質問をすること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		ワークシートは次週の授業で返却し総評を行う。									
テキスト		「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 フレーベル館									
参考書等		「保育の理論と実践 -ともに育ちあう保育者をめざして-」清水陽子 他 ミネルヴァ書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育内容 健康		1年後期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		萩尾 ミドリ	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的		乳幼児が置かれている環境や社会状況を読み取り具体的な姿や実例から、生涯にわたる健康の土台、基礎となる乳幼児期の健康の捉え方を学ぶ。その中で遊びの意義、安全の指導のあり方を身体的側面、運動的側面、精神的側面の発達について理解し適切な関わりができる保育者を目指す。									
到達目標		1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 2. 子どもの心と体の健康の大切さや安全への配慮について理解を深める。 3. 0歳～5歳児までの生活と遊びの実践について事例から指導のポイントを学び理解する。									
授業の概要		今置かれている乳幼児の状況を把握し保育所、幼稚園、認定子ども園の重要な役割を確認する。安全に安心して過ごせる保育所、幼稚園、認定子ども園での子どもたちの体と心の発達や運動発達を理解し、行事や季節感を取り入れた生活と遊びの中に健康のねらいがあることを学習する。									
授業計画											
1	本学習の目的、内容説明 ・健康で、安全な幸福な生活のために ・「健康」とは何か			9	Ⅳ実際編 ・0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得 行きつもどりつする獲得の過程						
2	Ⅰ 子どもの心と体の健康 ・幼児期の健康な生活とは (課題1)			10	Ⅳ実際編 ・0～2歳児の遊び 生活の中にある遊びから戸外遊び (課題5)						
3	Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・子どもの身体の発達			11	Ⅳ実際編 ・3～5歳児の生活習慣の獲得 それぞれの年齢における生活習慣の獲得						
4	Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・運動能力と動きの獲得			12	Ⅳ実際編 ・3～5歳児の運動遊びの実践 多様な動きの経験と子どもの主体性 (課題6)						
5	Ⅱ 子どもの身体の発達と運動能力 ・安全の指導 (課題2)			13	Ⅳ実際編 ・3～5歳児の運動遊びのポイント 運動遊びと動機づけ						
6	Ⅲ 領域「健康」 ・領域「健康」のねらいと内容			14	Ⅳ実際編 ・安全への配慮 子どものけがを未然に防ぐ予測の重要性 (課題7)						
7	Ⅲ 領域「健康」 ・領域「健康」の内容の取り扱い (課題3)			15	Ⅳ実際編 ・まとめ：保育者の役割 ふり返り (課題8)						
8	Ⅳ実際編 ・0～2歳児の生活と動き 這う、立つ、歩くなど生活のひろがり (課題4)										
試験・評価		課題提出80%(8回)、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		授業内容や考えを書きとめる。自分の健康管理について関心をもつことが望まれる。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後に書きとめた内容を整理しファイルにする。 質問内容をまとめ次回提出できるようにしておくこと。(評価対象)								必要時間： 45分	
課題の フィードバック		課題は添削をして返却し、次回 振り返る時間をとる。 その他の質問に対して授業のなかで答えていく。									
テキスト		プリント配布									
参考書等		「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「保育内容 健康」 河邊貴子著 建帛社									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育内容 人間関係		1年前期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		萩尾 ミドリ	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○						
授業の目的		乳幼児期という人生の根を培う数年間に、子どもたちの中に何が育つか。保育者としてどのようにかわっていきことが大事なのか、考え理解し、話し合う中で保育者の視点や役割について学ぶ。園生活の中での生活と遊びを通して援助のあり方についても学ぶ。									
到達目標		1. 領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解する 2. 乳幼児期の人間関係の発達について理解する 3. 子どもの人間関係を支える保育者の役割と援助について学ぶ									
授業の概要		幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。 また、乳幼児が人のかかわりによって育つように保育者を目指している学生にも、子どもと共に育ってほしいと考え、ふり返りの時間とこれからの人のかかわりを考える学びの場とする。									
授業計画											
1	オリエンテーション 授業概要説明			9	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・5歳児の遊びと人間関係 協同して遊ぶ経験 (課題6)						
2	Ⅰ. 私たちにとっての人間関係とは ・人間関係とは			10	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・気にかかる子どもへの援助 「気にかかる」場合の留意点						
3	Ⅰ. 私たちにとっての人間関係とは ・領域「人間関係」と保育			11	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・特別な支援を必要とする子どもへの援助 事例を通して考える (課題7)						
4	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・0歳児の人のかかわりと保育 人との出会い (課題1)			12	Ⅲ. 人間関係の育ちをはぐくむ環境 ・育ちを支える保育者同士の人間関係 園内の保育者の1人として						
5	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・1歳児と人のかかわりと保育 広がっていく世界 (課題2)			13	Ⅲ. 人間関係の育ちをはぐくむ環境 ・育ちを支える保護者と保育者の人間関係 大切な信頼関係 (課題8)						
6	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・2歳児と人のかかわりと保育 友だちとかかわることの楽しさ (課題3)			14	Ⅲ. 人間関係の育ちをはぐくむ環境 ・育ちにかかわる「私たち」の人間関係 園で働く人たちの人間関係と子どもの育ち						
7	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・3歳児の遊びと人間関係 子どもの考えの広がり (課題4)			15	Ⅲ. 人間関係の育ちをはぐくむ環境 ・さらなる学びへ向けて まとめ						
8	Ⅱ. 園生活の中での人間関係の育ち ・4歳児の遊びと人間関係 遊びを通して育つ (課題5)										
試験・評価		課題80%(8回×10)、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		事例から学ぶ場合、何度も読み直しイメージをつかみ課題に向かうこと。「人間関係」のファイルを作る。									
準備学習 (予習・復習等)		事前に次回のプリントを配布するので、読んで学習内容を把握しておくこと。 理解出来なかったところは質問などして解決すること。								必要時間:45時間	
課題の フィードバック		課題は、毎回授業の中核となるので前回分を再度確かめる時間をとり理解を深める。									
テキスト		プリント配布									
参考書等		「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「保育内容 人間関係」 田代和美編著 建帛社									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育内容 環境		1年前期		演習		1		卒業選択 免許・資格必修		萩尾 ミドリ	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				◎	○			○			
授業の目的		子どもたちが自然にふれ、思う存分に遊べる場として、保育所・幼稚園の園庭や室内、地域の公園などの環境がありますが、子どもたちにとって、どのような環境構成や援助が必要とされているのかなど具体的な事例を通して考え保育者としてのかかわりを学ぶ。									
到達目標		1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領に示される領域「環境」の内容を理解する。 2. 自然、虫などに会うことにより何が育つのか、遊び道具から何を育むのかなど、様々な育ちを理解する。 3. 夏野菜の成長過程を観察・記録し、育てる喜び収穫の喜びを体験する。									
授業の概要		幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、身の回りの様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわる子どもの活動と保育について事例を通して学習する。 菜園活動での収穫の喜びを得るには、事前の土づくりから後片付けまでが大切であることを体験する。									
授業計画											
1	Ⅰ 領域「環境」をどのように学ぶのか ・保育の基本と保育内容 乳幼児期の保育として大事にしたいこと			9	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・飼育・栽培・園外保育 ・菜園活動(追肥、草取り) (小テスト1)						
2	自然とのかかわり ・学内の自然に触れ草花や虫を発見 ・菜園活動(畑を耕し、肥料を入れ畝作り)			10	Ⅲ 領域「環境」と保育 ・領域「環境」と指導計画 領域の考え方						
3	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・子どもと環境のかかわり(1) ・菜園活動(野菜苗植え)			11	Ⅲ 領域「環境」と保育 ・領域「環境」と保育方法 一日の生活時間の構造						
4	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・子どもと環境のかかわり(2) 物とのかかわり 文字や記号とのかかわり			12	Ⅲ 領域「環境」と保育 ・領域「環境」と保育の実際(1) 身の回りの生活環境の変化や法則性に気付く						
5	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・子どもと環境のかかわり(3) 数量とのかかわり ・菜園活動(わき芽摘み、支柱立て)			13	Ⅲ 領域「環境」と保育 ・領域「環境」と保育の実際(2) 思考力の芽生え						
6	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・子どもと環境のかかわり(4) 情報や施設、園内外行事とのかかわり			14	・領域「環境」の変遷 幼稚園創設～今日の保育内容 ・菜園活動(畑の片付け) (小テスト2)						
7	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・園庭の自然や遊具とのかかわり 土、砂、水とのかかわり (泥団子作り)			15	Ⅲ 領域「環境」と保育 ・まとめ ・菜園活動の観察・記録表 (表作成提出)						
8	Ⅱ 環境と子どもの活動 ・室内の遊具・教材・設備とのかかわり 室内遊具、教材、設備										
試験・評価		小テスト(2回)50%、泥団子10%、観察・記録表20%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。									
留意事項		日頃より保育関連のニュースに関心をもつことが望まれる。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後に書きとめた内容を整理しファイルにする。 夏野菜への水やりをとおして、毎日の育ち具合を確かめ適切な手入れをすること。								必要時間: 45分	
課題の フィードバック		小テストは添削・採点をし、次回補足説明を加え理解を深めるように配慮する。									
テキスト		プリント配布									
参考書等		「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「保育内容 環境」 柴崎正行著 建帛社									

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
保育内容 言葉		1 年後期	演習		1	卒業選択 免許・資格必修		川俣 沙織	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○				
授業の目的		本科目は、子どもの発達を言語の面から理解すること、その発達を支える援助者としての保育者の関わりについて理解することを目的とする。 また、児童文化財の表現技術を獲得することも目的とする。							
到達目標		1. 子どもの言語発達過程について説明することができる。 2. 子どもの言語発達を支える保育者の具体的援助について理解し、実践することができる。 3. 絵本をはじめとする児童文化財についてそれぞれの特性を理解した上で表現することができる。							
授業の概要		主に幼稚園教育要領・保育所保育指針を用いて子どもの言語発達過程について学ぶとともに、彼らの成長を見守り、支えるための具体的な援助について理解する。 また、絵本をはじめとする複数の児童文化財の特性と表現技術について学び、表現する。							
授業計画									
1	オリエンテーション(授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明)、グループ編成			9	児童文化と内容⑤「パネルシアター」「エプロンシアター」「ペープサート」の概要				
2	子どもの言葉と保育者の援助①			10	グループ発表準備①				
3	子どものことばと保育者の援助②			11	グループ発表準備②				
4	子どものことばと保育者の援助③小テスト			12	グループ発表準備③				
5	児童文化と内容①「絵本」 (保育現場での絵本の読み聞かせビデオ視聴)			13	グループ発表① (わらべうたグループ、伝承遊びグループ、言葉遊びグループ)				
6	児童文化と内容②模範発表「絵本」・担当児童文化財決定			14	グループ発表② (手遊びグループ、紙芝居グループ、素話グループ)				
7	児童文化と内容③「わらべうた」「伝承遊び」「言葉遊び」「手遊び」の概要			15	グループ発表③ (ペープサートグループ、パネルシアターグループ、エプロンシアターグループ)				
8	児童文化と内容④「絵本」「紙芝居」「素話」の概要								
試験・評価		受講態度25%、小テスト30%、グループ発表45%で総合評価する。							
留意事項		グループ発表・小テストはすべて評価の対象とする。							
準備学習 (予習・復習等)		次回授業内容に関連するテキストの該当箇所を通読する準備学習を行うこと。							必要時間:45分
課題の フィードバック		小テストは採点し、次週の授業で返却し総評する。グループ発表は、発表と並行して採点し、総評を行う。							
テキスト		「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」 河原紀子 学研プラス							
参考書等		授業において適宜指示する。							

科目名		開講時期	授業形態		単位数	必修／選択		担当者	
保育内容 表現		1年後期	演習		1	卒業選択 免許・資格必修		椎山 克己	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8
				◎	○	○		○	
授業の目的		領域「表現」の観点から子どもたちの発達を考察し、子どもの感受性や表現性を豊かにするために必要な援助についての知識と技能を習得する。また、子ども自身の表現を導き出す保育教材の事例研究・模擬保育を行い、創造性を育む保育者のかかわり方を学ぶ。							
到達目標		1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示される領域「表現」の内容を理解する。 2. 子どもの表現力を豊かにするために必要な保育者の援助について理解を深める。 3. 事例研究を通して、子どもの表現を引き出す保育者の基本的な技能を習得する。							
授業の概要		幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示される領域「表現」の内容についての理解を行ったうえで、子どもの表しをどのように受け止め、それに対して保育者がどのように応えていくことが求められるかについて、事例研究やグループディスカッションを通して学ぶ。							
授業計画									
1	講義ガイダンス 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容「表現」の位置づけについて			9	事例研究Ⅳ 表現活動の教材研究① 子どもの表現活動の教材についての研究発表発表に対するグループディスカッション				
2	保育における領域「表現」について 1. 子どもの表現とは 2. 領域「表現」のねらい 3. 他の領域との関係			10	事例研究Ⅳ 表現活動の教材研究② 子どもの表現活動の教材についての研究発表発表に対するグループディスカッション				
3	事例研究Ⅰ 子どもの言語的発達 1. 表現の芽生えとその発達 2. 乳児期の子どもの言語的発達の事例研究			11	事例研究Ⅳ 表現活動の教材研究③ 子どもの表現活動の教材についての研究発表発表に対するグループディスカッション				
4	子どもの表現が生まれる源泉 1. 子どもが「表現したい」と思うまでのプロセス 2. 季節を感じ表現する体験的学習の事例研究			12	事例研究Ⅳ 表現活動の教材研究④ *レポート課題 子どもの表現活動の教材についての研究発表発表に対するグループディスカッション				
5	事例研究Ⅱ 表現の芽生えと発達 1. 音楽的表現の芽生えとその発達 2. 造形的表現の芽生えとその発達			13	表現の総合的性質 1. 子どもの表現の総合的性質 2. 保育者の援助				
6	事例研究Ⅱ 表現の芽生えと発達 3. 身体的表現の芽生えとその発達			14	子どもの表現と保育者の援助 1. 保育者の役割 2. 必要とされる資質 3. 援助の基本的考え方 4. 具体的な留意点				
7	事例研究Ⅲ 子どもの体験活動 1. 子どもの体験活動の保育実践 2. 子どもの表現活動についての考察			15	保育実践における表現活動 1. 表現活動の指導案を作成するポイント 2. 部分指導案の作成 *レポート課題				
8	事例研究Ⅲ 子どもの体験活動 3. 子どもの表現についてのグループディスカッション 4. 全体発表 *レポート課題								
試験・評価		レポート90%(30%×3回)、受講態度10%で総合評価する。							
留意事項		レポートの提出期限を守ること。							
準備学習 (予習・復習等)		テキストは事前に読んでおくこと。また教材研究の発表については模擬保育として行うので、事前によく練習し、事後にその振り返りを行うこと。							必要時間:45分
課題の フィードバック		1、2回目のレポートは2週後の授業時に返却並びに総評を行う。3回目のレポートは個々に添削を行い、成績発表日に返却する。							
テキスト		「保育内容 表現」 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修 同文書院							
参考書等		「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」							

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
音楽表現		2年前期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		椎山 克己	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎	○		○		
授業の目的		リズムの保育教材を実際に体験する中で、保育における音楽を通じた表現について学ぶ。また、模擬保育を行う中で、子どもたちの創造性や表現性を引き出すために保育者が行う援助の技術について、指導案研究・模擬保育・グループディスカッションを通して学ぶ。									
到達目標		1. リズムの基本的な考え方や幼児期の子どもたちへの展開方法を習得する。 2. 音楽表現を中心とした指導案の立案ができるようになる。 3. 音楽表現を通して子どもたちの表現性を引き出す援助方法の理解が深まる。									
授業の概要		リズムの保育教材を用いて、発達段階に応じた教材の展開について学ぶ。また、各自が指導案を立案、模擬保育を行うことを通して、指導案を立案や指導上の留意点を学ぶと共に、子どもへの言葉かけなど子どもに対して保育者が行う具体的な援助技術の習得を図る。									
授業計画											
1	授業オリエンテーション 1. 幼児の音楽表現活動 2. 表現の源となる音の世界			9	模擬保育Ⅰ 1. 3歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
2	縦割り保育でのリズム 1. 音楽に反応して動く 2. 音の長さや音楽の始まりと終わりを感じとる			10	模擬保育Ⅱ 1. 3歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
3	縦割り保育でのリズム 3. リズムに乗る楽しさ 4. 友だちと協力して表現する楽しさ			11	模擬保育Ⅲ 1. 4歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
4	縦割り保育でのリズム 5. 工夫したり、考えて表現する楽しさ 6. 道具を使って表現する楽しさ			12	模擬保育Ⅳ 1. 4歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
5	部分指導案作成のポイント 1. 音楽表現の部分指導案作成の方法 2. 模擬保育を行うグループでのテーマ決め			13	模擬保育Ⅴ 1. 5歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
6	年齢別保育でのリズムⅠ 1. 3歳児向けのリズム保育教材 2. 指導案作成の留意点			14	模擬保育Ⅵ 1. 5歳児を対象としたリズムの模擬保育 2. グループディスカッションによる相互評価						
7	年齢別保育でのリズムⅡ 1. 4歳児向けのリズム保育教材 2. 指導案作成の留意点			15	まとめ 1. 9～14回に実施した模擬保育の振り返り 2. 3・4・5歳児を対象とした指導案を作成(課題)						
8	年齢別保育でのリズムⅢ 1. 5歳児向けのリズム保育教材 2. 指導案作成の留意点										
試験・評価		模擬保育40%、提出課題50%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		動きやすい服装(体操服等)で受講すること。									
準備学習 (予習・復習等)		発表前に指導案を作成する。その際他の発表をもとに行った相互評価の内容等を振り返り、それを参考にして作成すること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		模擬保育の際に提出する指導案は、発表日に総評を行い、返却する。それ基に最終日に提出する指導案は、個々に添削を行い返却する。									
テキスト		「リズム百科」 石丸由理著 ひかりのくに									
参考書等		「リズムピアノ曲集」 石丸由理著 ひかりのくに									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
造形表現		2年前期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		櫻井 晋伍	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
						◎			○		
授業の目的		造形表現における指導の能力を更に充実させるため、様々な素材・技法等に触れながら、実践的な知識・技術を習得する。 自然や、身近な所にある色彩・形態から、造形的な感性やイメージを広げる能力を身に付ける。 子どもの発達段階に合わせた、適切な知識や技術に基づいた造形教育の指導力を養う。									
到達目標		1. 造形表現に必要な、素材の知識および表現技法を習得する。 2. 子どもの発達に合わせた造形表現を理解できる。 3. 自己の発想に基づいた指導計画を立てることができる。									
授業の概要		美術・造形に関する知識・技術を身に付けるために、実践的な作品制作を行う。 グループによる模擬授業等を行い、指導力・実践力の向上を目指す。子どもの発達と造形の関わりを理解し、身近な自然と遊びの要素を取り入れた造形を目指す。									
授業計画											
1	ガイダンス 授業説明 (ビデオ・スライド等の視聴覚機材を用いた講義は、初回以外にも、必要に応じて行う。)			9	「日本画の鑑賞学習」 歴史的な日本画の作品を鑑賞し、季節ごとのお花や縁起物など、日本の文化についての理解を深める						
2	壁面制作① 年間行事にちなんだモチーフを、可愛らしく表現する			10	「折り紙制作」 現場で活用出来る、折り紙を用いた保育教材を作る						
3	壁面制作② 一年次に学んだことを踏まえ、より複雑な表現技法を用いる			11	リサイクルアート① 家庭から出るごみ・不用品・廃棄物を再利用する制作						
4	万華鏡・ミラーボックス制作① 鏡を応用したおもちゃづくり			12	リサイクルアート② 自然環境や消費社会、地域社会を考え、制作に結びつける						
5	万華鏡・ミラーボックス制作② アクリルミラーを用いた工作			13	リサイクルアート③ 素材の性質を生かす為の発想力、構想力を養う						
6	花のデッサン 自然物の素描を通して、観察力を高める			14	リサイクルアート④ 身近で安価な素材を用いて、オブジェ・玩具・日用品等を制作する						
7	イラストレーション創作① 動物をモチーフにして、イラストを創作する			15	リサイクルアート⑤ 素材加工、自然の中にある質感や形態を利用した造形表現能力を養う						
8	イラストレーション創作② イラストにストーリー性を持たせ、1つの世界観を作る										
試験・評価		提出物60%、基礎評価(受講態度等)40%で総合評価する。									
留意事項		日常より美術書・画集等を読み、美術館等に足を運び美術に触れることを心がける。									
準備学習 (予習・復習等)		授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。									
テキスト		授業中にプリントを配布する。									
参考書等		「美術教育と子どもの知的発達」 E. W. アイスナー 著 黎明書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
身体表現		2年後期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		新井 真実	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎	○			○		
授業の目的		子どもの身体表現は、保育者の関わりによって、より豊かに広がる可能性を秘めている。本授業では、子どもの心の動きから生まれる自然な身体表現を大切に、創造的な身体表現活動のためのアイデアを実践的に学ぶ。また、子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。									
到達目標		1. 子どもの身体表現の特徴を理解し、発達段階や個性に応じた働きかけを身につける。 2. 時節や流行に配慮したテーマの発見と、その展開方法を学ぶ。 3. 子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。									
授業の概要		グループワークを中心とした授業形態をとる。課題に応じた身体表現あそびを考案し、構成・展開を検討する。また、ワーク・イン・プログレス(創作途中での試験的発表)を重ねることで、観客(参加者)の意見を取り入れながらプランを練り上げる。最終的には、模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。									
授業計画											
1	オリエンテーション ―授業内容概要、評価方法等の説明			9	グループワーク⑤ ―空間構成について						
2	ウォーミングアップ ―コミュニケーションゲーム			10	グループワーク⑥ ―演出について						
3	課題説明 グループ編成 ―グループワーク課題の説明、及びグループ編成			11	ワーク・イン・プログレス(中間発表)② ―全体を通しての発表						
4	グループワーク① ―対象年齢・テーマについて			12	グループワーク⑦ ―ワーク・イン・プログレスを経ての反省 ―プレゼンテーションのブラッシュアップ						
5	グループワーク② ―構成・展開について			13	グループワーク⑧ ―最終確認						
6	グループワーク③ ―中心となるセッションについて			14	リハーサル ―発表(実技試験)に向け、全員によるリハーサル						
7	ワーク・イン・プログレス(中間発表)① ―中心となるセッションの発表			15	実技試験 ―模擬保育形式でのグループ発表						
8	グループワーク④ ―ワーク・イン・プログレスを経ての反省 ―音響効果や道具について										
試験・評価		受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%原則とし、総合評価する。									
留意事項		腕時計・アクセサリー類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。									
準備学習 (予習・復習等)		取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を深めること。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点し、総評を行う。									
テキスト		プリント資料									
参考書等		授業内で適宜紹介する。									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育指導法Ⅰ		2年前期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎		○	○	○		
授業の目的		子どもが保育所・幼稚園で自ら環境に関わり、充実感、喜びや楽しさを味わえるための指導法を学ぶことを目的とする。様々な生活やあそびの場面で、子どもたちの気持ちや発達段階に寄り添い、より良い方向へ導いて行けるような指導法について、保育の質を高めるために必要な同僚性について理解を深める。									
到達目標		1. 多様な保育形態、生活・遊びの場面での具体的な指導法について学ぶ 2. 子どもの目線で保育環境を考える意識を養う 3. 具体的な場面での保育の質について考える意識を養う									
授業の概要		映像・保育現場の環境写真を用いた具体的事例を通して、様々な生活・遊びの場面で、子どもが何をどのように体験しているのか、そこで求められる指導法について、理論と実践を往還しながら学ぶ。主にグループワークを行いながら質の高い保育について協同的に学び合う。									
授業計画											
1	オリエンテーション 保育の基本・保育者に求められる時間と空間の感覚			9	子どもの目線で考える保育環境―戸外③―						
2	子どもにふさわしい園生活の展開 様々な保育形態			10	あそびの環境構成と援助①						
3	子どもにふさわしい園生活の展開① 1日の生活の組み立て方			11	あそびの環境構成と・援助②						
4	子どもにふさわしい園生活の展開② 生活場面での保育のあり方			12	保育と行事 園生活の中での行事と計画						
5	子どもの生活と安全な環境 見える危険と見えない危険			13	発達の時期に応じた保育のあり方						
6	子どもの目線で考える保育環境 ―園舎内―			14	保育の計画・実践・評価						
7	子どもの目線で考える保育環境 ―戸外①―			15	まとめ 保育の質と同僚性						
8	子どもの目線で考える保育環境 ―戸外②―										
試験・評価		学習状況20%、各回ワークシート40%、期末に作成するレポート40%で総合評価する。									
留意事項		グループワークに積極的な姿勢で参加すること。私語、スマートフォン・携帯操作、居眠りはしないように。戸外で授業を行うこともあるので、毎回の授業内容を確認しておくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		実習日誌や指導案を読み返し、実習での学びや経験を授業の学びに結び付けられるように意識すること。授業内容のテキストの該当箇所を熟読しておくこと。								必要時間:45分	
課題の フィードバック		ワークシートは次週の講義時に返却をして総評を行う。									
テキスト		「保育の理論と実践-ともに育ちあう保育者をめざして-」 清水陽子他 ミネルヴァ書房									
参考書等		「秋田喜代美と安見克夫が語る 写真で見るホンモノ保育～憧れを育てる～」 秋田喜代美・安見克夫 ひかりのくに									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育指導法Ⅱ		2年後期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		渡邊 由恵	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	◎		○	○	○		
授業の目的		園生活において、子どもが主体的に環境に関わり、豊かな自己表現ができるように導くための、実践的な指導方法の理解と技術の習得を目指す。保育指導法Ⅰでの学びを踏まえ、乳幼児期にふさわしい経験を積み重ねていくには、どのような遊びや生活の体験が大切なのか、計画、実践・評価を自ら経験して理解を深める。									
到達目標		1. 5 領域を総合的に捉え、子どもの実態に応じた指導計画の立案について理解する 2. 保育者の役割と具体的な環境構成、援助のあり方について理解する 3. 自己評価、他者評価を通して、協働的に学ぶ									
授業の概要		模擬保育を通して計画、実践、評価を自ら体験することで、保育の実際を理解し具体的な指導技術の習得を図る。協働的に学び合い、子どもが安心して夢中になれる保育の実際を体得していく。また、1 年次からの様々な学びを総合的に振り返り、保育者になる者としての意識を高める。									
授業計画											
1	オリエンテーション 保育指導法Ⅰの振り返り			9	第7・8グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)						
2	模擬保育のテーマの設定 グループワーク			10	第9・10グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)						
3	子ども理解に基づく指導とは グループワーク			11	第11・12グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)						
4	子ども理解に基づく保育記録とは			12	第13・14グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)						
5	子ども理解に基づく記録とは			13	子ども理解に基づく教材研究とは						
6	第1・2グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)			14	保育方法における視聴覚教材の利用について						
7	第3・4グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)			15	まとめ 子どもが安心して夢中になれる保育とは						
8	第5・6グループ 模擬保育 グループワーク(相互評価)										
試験・評価		模擬保育30%、試験40%、学習状況30%で総合評価する。									
留意事項		指導案は発表の1週間前までに担当教員に提出すること。模擬保育は各自責任を持って取り組むこと。									
準備学習 (予習・復習等)		各回の授業を振り返り、現場に出る前に学び直す必要がある内容について確認しておくこと。模擬保育後は配布する他者評価を熟読し自己を振り返ること。									必要時間:45分
課題の フィードバック		指導案・模擬保育について、授業内で総評を行う。									
テキスト		「保育の理論と実践-ともに育ちあう保育者をめざして-」清水陽子他 ミネルヴァ書房									
参考書等		「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則・森上史朗 ミネルヴァ書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育方法・技術		1年後期		演習		1		卒業選択 免許必修・資格選択必修		大原 青子	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
					◎		○		○		
授業の目的		1. 保育方法・技術の一般的な知識を習得する。 2. 保育方法・技術の一般的な技術を習得する。 3. モンテッソーリ教育の基礎的な原理の理解また実践の技術を習得する。									
到達目標		1. 保育方法に関する一般的な原理を理解し、保育技術に関する一般的な知識を身につける。 2. 保育方法に関する一般的な技術を理解し、保育技術に関する一般的な技術を身につける。 3. モンテッソーリ教育の原理を理解し、全ての保育現場で応用できるような知識を身につける。									
授業の概要		保育方法・技術に関する一般的な知識や技術を習得するとともに、モンテッソーリ教育法について、その保育方法・技術を探究する。また内容が演習を伴う内容の講義についてはクラスを前・後半に分け、少人数制で実施する場合もある。講義全14回とまとめ1回の全15回行う。									
授業計画											
1	保育方法・技術について概論			9	保育方法技術の実際 2(心) ー大人の準備・心得(人的環境の整え方)						
2	モンテッソーリ教育概論・方法と原理 ー自立へと導く活動の原理 ー世界での広がり・日本の現状			10	保育方法・技術の実際 3 ー自由選択活動と制限のもうけ方 ー集団での活動について(横割り vs 縦割り)						
3	モンテッソーリ乳幼児発達理論Ⅰ ー乳・幼児の発達段階概論 ー乳・幼児の心理発達			11	保育方法・技術の実際 4 ー観察理論 ー観察の実際						
4	保育室の環境づくりⅠ ー家庭環境・0歳児の環境			12	保育方法・技術の実際 5 1. 自尊心・自信・有用感・所属感の育て方 2. 健やかな精神を育てるための大人の態度						
5	モンテッソーリ乳幼児発達理論Ⅱ ー脳神経と自律運動の発達			13	モンテッソーリ教育の実践Ⅱ 1. 『日常生活の練習』の意義 2. 調理・環境をお世話する活動 3. 戸外でのガーデニング活動・自然体験						
6	モンテッソーリ教育の実践Ⅰ ー運動発達を促す環境 ー『心理・感覚・運動』環境			14	モンテッソーリ教育の実践Ⅱ 1. 感覚・数教育 2. 文化教育～小学校へ						
7	保育方法技術の実際 1(言語) 1. 聞く力・話す力の発達 2. 表現する力			15	まとめ						
8	保育室の環境づくりⅡ ー1・2歳児の環境										
試験・評価		受講態度・姿勢20%、提出物・レポート80%を原則として、総合評価する。									
留意事項		モンテッソーリ演習室では飲食禁止。静粛を保つこと。授業後、清掃を課す。									
準備学習 (予習・復習等)		毎回の講義内容を復習し、ノートをまとめておくこと。							必要時間:45分		
課題の フィードバック		教材制作などの提出課題は採点し、次週の授業で返却し総評する。									
テキスト		プリント配布のため特になし。									
参考書等		「子どもに伝わる指導法」 矢吹秀徳 成美堂出版 2012 「こどもせいかつ百科」 田中昌子監修 学研 2016									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
幼児理解		1 年前期		講義		2		卒業選択 免許必修・資格選択必修		武藤・安元・丸山	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○				◎			
授業の目的		現代における幼児のそれぞれの家庭での生育過程は、多岐に渡っている。そういう子どもが集まってくる幼稚園の果たす役割も大きくなっている。そういう意味で一人一人の子どもに向き合い行動を分析し、内面に潜む心の動きや行動を、どう指導・支援したらよいかを習得できるようにする。									
到達目標		1. 幼児間のトラブル対処の現実と実際を知り、3つの対応要素があることが分かる。 2. 年齢や発達段階に応じた絵本選びの視点が分かる。 3. 養育環境の変化を踏まえた、母親支援の現状が分かる。									
授業の概要		現場の幼稚園における幼児の実態や指導の実際から幼稚園教育の現状を知る。また、保育現場の実践・エピソードをととして、子どもをどのように見て理解していくかを学習する。途中、絵本やビデオ教材などの視聴覚教材を必要に応じて活用する。授業形態としては、グループ学習なども取り入れる。									
授業計画											
1	子どもを理解する姿勢とは カウンセリングマインドをベースに幼児理解の方法を考える (安元)			9	子どもを取り巻く環境の変化 ・保育の場における子育て支援に必要性を知る。 (丸山)						
2	「わたし」とはなんだろう 絵本を通して「わたし」を考える「わたし」を創る「経験」の大切さを知る (安元)			10	保護者の役割 ・保育者の資質について 自分自身の内面を見つめ直し、その役割を考える。 (丸山)						
3	幼児理解の事例研究① 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げて考察する (安元)			11	幼児の発達と課題:「人間らしい」とは何か。人間の発達プログラムとプロセスに沿った幼児保育の重要性を理解する。(小テスト) (武藤)						
4	幼児理解の事例研究② 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げて考察する (安元)			12	保育の実際(基本的生活の自立行為):「自分の事は自分で出来る」が自立の一步である。精神的自立(自信)と行動自立(自覚)を理解する。(小テスト) (武藤)						
5	子どもを取り巻く環境の変化 保育の場における子育て支援・家庭支援の必要性を知る (安元)			13	保育の実際(感覚あそび):脳内データ・知覚器官・運動機能の連動的育成による人間としての感覚・感情・知的能力を理解する。(小テスト) (武藤)						
6	・子どもの理解① 視聴覚教材を使って、子どもの日常生活を知る。 (丸山)			14	保育の実際(社会的あそび): 社会的動物である人間の社会化のプロセスを知り、社会性を身につける具体的保育内容を理解する。(小テスト) (武藤)						
7	・子どもの理解② 遊びや活動の中で、幼児理解についての事例を取り上げ考察する。 (丸山)			15	保育園の社会的役割(地域子育て支援センター) これまで保育保障・就労保障・育児支援に次ぐ、第四の役割とは何かを理解する。(小テスト) (武藤)						
8	・子どもの理解③ 発達に沿った年齢別読み聞かせ ～絵本で広がる子どもの世界～ (丸山)										
試験・評価		レポート、提出物70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。									
留意事項		1～5回は安元、6～10回は丸山、11回～15回は武藤が担当する。									
準備学習 (予習・復習等)		武藤:現在のTV・新聞・マスコミ等の子育ての情報・事件事故の報道に関心を持ち、授業を通して本質を検証すること。 丸山:年齢に応じた絵本を選んでおく。(3, 4, 5 歳児, 各 1 冊ずつ)								必要時間:3時間	
課題の フィードバック		武藤:授業の中での質疑応答。学生への口頭試問。毎回の小テスト。									
テキスト		その都度プリント配布									
参考書等		武藤:「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」執筆・港区保育を学ぶ会(Gakken) 安元:「子ども理解とカウンセリングマインド」青木久子著(萌文書林)									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
保育・教職実践演習(幼稚園)		2年後期		演習		2		卒業選択 免許・資格必修		椎山・渡邊・森光	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
							◎	○	○		
授業の目的		今までの学修を振り返り、保育者の職責を果たすための自己研鑽力を身につけ、保育環境の理解を深め、コミュニケーション能力や課題への対処力を高める。また、子どもの状況に配慮した教育活動を行う知識・能力を身につけ、指導方法・教材研究を活かした指導案等を作成する力、子どもに対応した関わり方を身につける。									
到達目標		1. 今までの実習を含めた学修を振り返り、保育者となるために自己の不足している点を明らかにする。 2. 保育者の役割を認識し、それを果たすための自己研鑽力を身につける。 3. 指導案や教材研究、模擬保育を通して子どもへの対応力が高まる。									
授業の概要		保育者像やその職責、保育現場を取り巻く環境などについて、事例研究やグループディスカッションを通してその理解を深めていく。また、今までの学修の振り返りをもとに、各自の不足している点を明らかにすると共に、模擬保育を通して保育の実践力を高め、自己研鑽力を養う。									
授業計画											
1	学修・実習を振り返り(グループ討議)			【森光】	17	保育現場を取り巻く人間関係			【森光】		
2	設定保育等の振り返りとグループ討議			【椎山】	18	指導案研究と模擬保育と相互評価⑥			【椎山】		
3	保育職の意義・役割について			【森光】	19	保育者に必要な人間関係の構築			【森光】		
4	履修カルテを活用した自己分析			【椎山】	20	指導案研究と模擬保育と相互評価⑦			【椎山】		
5	事例研究① 子どもとの関わり			【森光】	21	保護者に対する子育て支援の事例研究			【森光】		
6	分析、面談をもとにしたプログラム作成			【椎山】	22	指導案研究と模擬保育と相互評価⑧			【椎山】		
7	事例研究② 子どもの安全			【森光】	23	保護者や地域社会との連携の理解を図る。			【森光】		
8	指導案研究と模擬保育と相互評価①			【椎山】	24	幼児理解の事例研究、子どもへの対応			【渡邊】		
9	事例研究③ 保護者との関わり			【森光】	25	保護者支援についてのグループ討議			【森光】		
10	指導案研究と模擬保育と相互評価②			【椎山】	26	幼児理解、保護者への対応の事例研究			【椎山】		
11	事例研究④ 地域との関わり			【森光】	27	家庭との連携、クラスだよりの作成			【森光】		
12	指導案研究と模擬保育と相互評価③			【椎山】	28	乳幼児の様子を保護者へ伝える実際の方法			【渡邊】		
13	幼児理解の事例研究とグループ討議			【森光】	29	目指す保育者像、必要な資質・能力の確認			【森光】		
14	指導案研究と模擬保育と相互評価④			【椎山】	30	模擬保育の振り返りと総評			【椎山】		
15	学級経営に関する事例研究とグループ討議			【森光】							
16	指導案研究と模擬保育と相互評価⑤			【椎山】							
試験・評価		事例発表25%、指導案20%、模擬保育20%、レポート20%、小テスト5%、受講態度10%で総合評価する。									
留意事項		日誌等で実習の振り返りを行っておくこと。									
準備学習 (予習・復習等)		実習日誌、指導案等を振り返り、自己の課題を認識して模擬保育に臨むこと。理解できなかったこと、課題作成の質問はオフィスアワーを利用し解決すること。							必要時間:45分		
課題の フィードバック		指導案は模擬保育ごとに総評を行い返却する。模擬保育および相互評価については最終回で総評を行う。									
テキスト		プリントを配布する。									
参考書等		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房									

科目名		開講時期		授業形態		単位数		必修／選択		担当者	
教育実習		別に示す		実習		5		卒業選択 免許必修・資格選択必修		原・新井・他	
学科のディプロマポリシーとの関連		1	2	3	4	5	6	7	8		
				○	○			◎			
授業の目的		学校で学んだ理論や実技を幼児教育の場で実践し、直接子どもとふれあい、幼児の実態と保育のあり方を学ぶ。また、事前事後指導を行い、教育実習の意義や目的、幼児理解の観察の視点や援助方法を学ぶと同時に、実習後の振り返りを通して、現場での教育実習の効果を高めていく。									
到達目標		1. 幼稚園の施設、設備、教育方針とそれに基づく園生活のあり方を知る。 2. 幼児理解(興味、関心、年齢ごとの発達等)ができるようになる。 3. 保育者理解(保育場面での役割、その他の業務)ができるようになる。									
授業の概要		・久留米信愛女学院幼稚園での教育実習 1年次6月の1週間と10月の1週間(計2週間) ・学外の幼稚園での教育実習 2年次5月から6月にかけての2週間 ・事前事後指導 1年次～2年次の期間で、教育実習の予定に合わせて行う。									
授業計画											
1	幼稚園教諭・教育実習の意義と目的について			14	後期信愛幼稚園実習の事後指導② 評価のフィードバック						
2	実習生としての心構え			15	外部幼稚園実習に関するオリエンテーション 書類配布						
3	実習先提出書類について			16	実習生としての心構え						
4	信愛幼稚園実習日誌の書き方① 日誌の基本的事項			17	実習に関する準備① 実習日誌の書き方						
5	信愛幼稚園実習日誌の書き方② 記録の実践			18	実習に関する準備② 実習日誌の書き方 等						
6	信愛幼稚園実習日誌の書き方③ フィードバック			19	外部幼稚園実習直前指導						
7	信愛幼稚園実習の心構え 信愛幼稚園園長先生の講話			20	外部幼稚園実習事後指導① 報告書作成と自己評価						
8	前期信愛幼稚園実習の直前指導			21	外部幼稚園実習事後指導② 外部評価より フィードバック						
9	前期信愛幼稚園実習に関する事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)			22	外部幼稚園実習事後指導③ 実習についてグループディスカッション						
10	外部幼稚園実習の依頼手順について			23	外部幼稚園実習事後指導④ 訪問指導担当教員者との報告会						
11	後期信愛幼稚園実習に関する準備 部分指導について			上述した23回の教育実習事前事後指導に加えて、久留米信愛女学院幼稚園ならびに学外の幼稚園で合計4週間の実習を行う。							
12	後期信愛幼稚園実習の直前指導										
13	後期信愛幼稚園実習の事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)										
試験・評価		事前事後指導30%、信愛幼稚園実習35%、外部幼稚園実習35%で総合評価する。									
留意事項		体調管理を常に意識し、実習指導の授業・実習共に欠席がないようにすること。 提出物は、期日を厳守すること。									
準備学習 (予習・復習等)		授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。								必要時間: 指定せず	
課題の フィードバック		実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う									
テキスト		「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針 解説書」 厚生労働省 フレーベル館									
参考書等		実習指導の授業時に紹介する。									

マークシートの記入方法

本マークシートは、履修届を電算化することにより履修漏れを未然に防いだり、適切な履修指導をおこなうための補助となるものです。

従来の履修届に本マークシートを添えて提出して下さい。

【マークシート記入要領】

- ①氏名を記入
- ②届出年月日を記入
- ③学科コードを記入し数字を塗りつぶす
- ④学年を記入し数字を塗りつぶす
- ⑤クラスコードを記入し数字を塗りつぶす
- ⑥出席番号（2ケタ）を番号欄に記入し数字を塗りつぶす
- ⑦「履修届」の中の「マークシート問番号」の数字とマークシートの問1～問100は対応していますので、今回履修する科目（通年科目含む）については、マークシート「履修届(単位)」欄の①～⑤を塗りつぶす（①～⑤は単位数）。（すでに単位取得済みの科目や履修しない科目は「履修届(単位)」欄の○を塗りつぶす。）

【記入例】（マークシート問番号が82までの場合）

フリガナ	シンアイ	ハナコ
氏名	信愛	花子

年	月	日
29	4	7

記入上の注意

1. 記入は、必ずHBの黒鉛筆で、○の中を正確に、ぬりつぶしてください。
2. 書き損じた場合は、プラスチック製消しゴムで、きれいに消してください。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないでください。

良い例	●
悪い例	／

学科	学年	クラス	番号
7	1	2	05
①	●	①	①
②	●	②	②
③	●	③	③
④	●	④	④
⑤	●	⑤	⑤
⑥	●	⑥	⑥
⑦	●	⑦	⑦
⑧	●	⑧	⑧
⑨	●	⑨	⑨
⑩	●	⑩	⑩

学科コード

- 6 : フードデザイン学科
7 : 幼児教育学科

クラスコード（幼児教育学科のみ）

- 1 : Aクラス
2 : Bクラス

問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)
1	● 2 3 4 5 ○	21	1 ● 3 4 5 ○	41	1 2 3 4 5 ●	61	1 2 3 4 5 ●	81	1 2 3 4 5 ●
2	1 ● 3 4 5 ○	22	1 2 3 4 5 ●	42	1 2 3 4 5 ●	62	1 2 3 4 5 ●	82	1 2 3 4 5 ●
3	1 2 3 4 5 ●	23	1 2 3 4 5 ●	43	● 2 3 4 5 ○	63	1 2 3 4 5 ●	83	1 2 3 4 5 ○
4	1 2 3 4 5 ●	24	● 2 3 4 5 ○	44	1 2 3 4 5 ●	64	● 2 3 4 5 ○	84	1 2 3 4 5 ○
5	1 ● 3 4 5 ○	25	1 2 3 4 5 ●	45	1 2 3 4 5 ●	65	1 2 3 4 5 ●	85	1 2 3 4 5 ○
6	● 2 3 4 5 ○	26	1 ● 3 4 5 ○	46	1 ● 3 4 5 ○	66	1 2 3 4 5 ●	86	1 2 3 4 5 ○
7	● 2 3 4 5 ○	27	● 2 3 4 5 ○	47	1 2 3 4 5 ●	67	1 2 3 4 5 ●	87	1 2 3 4 5 ○
8	1 2 3 4 5 ●	28	1 ● 3 4 5 ○	48	1 2 3 4 ● ○	68	● 2 3 4 5 ○	88	1 2 3 4 5 ○
9	1 2 3 4 5 ●	29	1 2 3 4 5 ●	49	1 2 3 4 5 ●	69	1 2 3 4 5 ●	89	1 2 3 4 5 ○
10	1 2 3 4 5 ●	30	1 2 3 4 5 ●	50	● 2 3 4 5 ○	70	1 2 3 4 5 ●	90	1 2 3 4 5 ○
11	● 2 3 4 5 ○	31	1 2 3 4 5 ●	51	1 2 3 4 5 ●	71	1 ● 3 4 5 ○	91	1 2 3 4 5 ○
12	1 2 3 4 5 ●	32	1 2 3 4 5 ●	52	1 2 3 4 5 ●	72	● 2 3 4 5 ○	92	1 2 3 4 5 ○
13	1 ● 3 4 5 ○	33	1 ● 3 4 5 ○	53	1 2 3 4 5 ●	73	1 2 3 4 5 ●	93	1 2 3 4 5 ○
14	1 2 3 4 5 ●	34	● 2 3 4 5 ○	54	1 ● 3 4 5 ○	74	1 2 3 4 5 ●	94	1 2 3 4 5 ○
15	● 2 3 4 5 ○	35	1 2 3 4 5 ●	55	● 2 3 4 5 ○	75	1 2 3 4 5 ●	95	1 2 3 4 5 ○
16	● 2 3 4 5 ○	36	● 2 3 4 5 ○	56	1 ● 3 4 5 ○	76	1 2 3 ● 5 ○	96	1 2 3 4 5 ○
17	1 2 3 4 5 ●	37	1 2 3 4 5 ●	57	1 ● 3 4 5 ○	77	1 2 3 4 5 ●	97	1 2 3 4 5 ○
18	1 2 3 4 5 ●	38	1 2 3 4 5 ●	58	1 2 3 4 5 ●	78	● 2 3 4 5 ○	98	1 2 3 4 5 ○
19	1 ● 3 4 5 ○	39	1 ● 3 4 5 ○	59	1 2 3 4 5 ●	79	1 2 3 4 5 ●	99	1 2 3 4 5 ○
20	1 2 3 4 5 ●	40	1 2 3 4 5 ●	60	● 2 3 4 5 ○	80	1 2 3 4 5 ●	100	1 2 3 4 5 ○